

得入但シ公共ノ工事ノ爲必要アル場合ニ於テ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 死體ヲ既ニ埋葬シ若ハ埋葬セムトスル場合ニ於テ傳染病患者タリシ疑アルハ當該吏員ハ死體及家屋其ノ他ニ對シ更ニ相當ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條 傳染病豫防上必要ト認ムルハ當該吏員ハ其ノ事由ヲ戸主、首長又ハ管理人ニ告知シ家宅、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルヲ得但シ當該吏員クルノ證票ヲ示スヘシ

第十五條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市制第六十一條町村制第六十五條ニ依リ傳染病豫防委員ヲ置キ檢疫豫防ノ事ニ從ハシムヘシ但シ市町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ス

豫防委員ニハ醫師ヲ加フヘシ其ノ醫師ヨリ出ツル者ハ市町村長之ヲ選任ス

第十六條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市町村内ノ清潔方法及消毒方法ヲ施行シ醫師其ノ他豫防上必要ナル人員ヲ雇入レ及器具、藥品其ノ他ノ物件ヲ設備スヘシ

第十七條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ傳染病院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ヲ設置スヘシ

傳染病院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ノ設備及管理ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム

第十八條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ置キ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ擔任セシメ及特ニ船舶汽車ノ檢疫ヲ行ハシムルコトヲ得

船舶汽車ノ檢疫ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船舶若ハ船舶汽車ノ乗客乗組人ニシテ病毒感

染ノ疑アル者ヲ必要ノ日時間停留シ及無償ニテ當該吏員又ハ醫師ヲ船舶汽車中ニ乗込マシムルコトヲ得

船舶汽車ノ檢疫ニ於テ發見シタル患者ハ其ノ地市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容治療セシムルコトヲ得市町村ハ相當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得但シ之カ爲特ニ要シタル費用ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得

前各項ノ外檢疫委員ノ設置及船舶汽車ノ檢疫ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 地方長官ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

一 傳染病患者ノ有無ヲ檢診セシムルコト

二 市街村落ノ全部又ハ一部ノ交通ヲ遮斷スルコト

三 祭禮、供養、興行、集會等ノ爲人民ノ群集スルコトヲ制限シ若ハ禁止スルコト

四 古着、襪襪、古綿其ノ他病毒傳播ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其ノ物件ヲ廢棄スルコト

五 傳染病毒傳播ノ媒介トナルヘキ飲食物ノ販賣、授受ヲ禁止シ又ハ之ヲ廢棄スルコト

六 船舶ニ醫師ノ雇入ヲ命シ又ハ汽船汽船若ハ多數人民ノ集合スル場所ニ豫防上必要ノ設備ヲ爲サシムルコト

七 清潔方法、消毒方法ノ施行ヲ命シ及井戸、上水、下水、溝渠、芥溜、厠園ノ新設改築變更若ハ廢止ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコト

八 一定ノ場所ノ漁獵、游泳又ハ其ノ水ノ使用ヲ必要ナル日時間制限シ若ハ停止スル  
コト

第二十條 諸官廳、集治監及官立ノ學校病院、製造所等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ地方長官ト協議シ此ノ法律ニ準シ豫防方法ヲ施行スヘシ  
陸海軍所屬ノ部隊、軍艦等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ此ノ法律ニ準シ各其ノ所定ノ規則ニ依リ又必要アル場合ニ於テハ地方長官ト協議シ豫防方法ヲ施行スヘシ

第二十一條 左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス

- 一 豫防委員ニ關スル諸費
- 二 市町村ニ於テ施行スル清潔方法消毒方法及種痘ニ關スル諸費
- 三 豫防救治ノ爲雇入タル醫師其ノ他ノ人員並豫防上必要ナル器具、藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費
- 四 傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所ニ關スル諸費
- 五 豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當、療養料及其ノ遺族ニ給スヘキ救助料、弔祭料
- 六 第八條ニ依レル交通遮斷ニ關スル諸費及交通遮斷ノ爲又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費
- 七 市町村内ニ於テ發見セル傳染病貧民患者並死者ニ關スル諸費

其ノ他市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十二條 左ノ諸費ハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス

- 一 檢疫委員ニ關スル諸費
- 二 船舶又ハ瀛車ノ檢疫ニ關スル諸費
- 三 第十九條第二ニ依レル交通遮斷ニ關スル諸費及交通遮斷ノ爲自活シ能サル者ノ生活費

其ノ他府縣ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十三條 地方長官ハ衛生組合ヲ設ケ清潔方法消毒方法其ノ他傳染病ノ豫防救治ニ關シ規約ヲ定メシメ之ヲ履行セシムルコトヲ得

市町村ハ其ノ市町村内ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第二十四條 第二十一條第二十三條第二項ノ支出ニ對シテハ命令ノ規定ニ從ヒ府縣稅又ハ地方稅ヨリ市町村ニ補助スヘシ

第二十五條 國庫ハ第二十二條第二十四條ノ府縣稅又ハ地方稅ノ支出ニ對シ其ノ六分一ヲ補助スルモノトス

第二十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ清潔方法、消毒方法ヲ施行スヘキ義務者之ヲ施行セス又ハ之ヲ施行スルモ當該吏員ニ於テ充分ナラスト認ムルトキ及必要ノ時限内ニ施行シ得スト認ムルトキハ當該吏員之ヲ施行シ其ノ費用ハ市町

村ヲシテ支辨セシムヘシ此ノ場合ニ於テ市町村ハ其ノ費用ヲ義務者ヨリ追徴スルコトヲ得

私ハニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ私人ニ於テ施爲スヘキ事項ヲ施爲セス若ハ之ヲ施爲スルモ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ時限内ニ施爲シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ之ヲ施爲シ其ノ費用ヲ市町村又ハ私人ヨリ追徴スルコトヲ得私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ費用追徴ニ關シ不服アル私人ハ訴願法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第二十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限内ニ履行セサル者ハ五圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタル後十二時間以内ニ届出ヲ爲サス又ハ虛偽ノ轉歸届ヲ爲シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第四條第五條第一項第九條第十條第十一條第一項第十二條ニ違背シタル者第五條第二項ニ依リ清潔方法及消毒方法ヲ施行セサル者交通遮斷ヲ犯シタル者又ハ醫師ニ請託シテ第三條ノ届出ヲ爲サシメス若ハ其届出ヲ妨ケタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

下ノ罰金ニ處ス  
附則

第三十二條 此ノ法律中ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外北海道沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律中市町村ニ關スル規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外市制町村制ヲ施行セサル地ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 海外諸港及臺灣ヨリ來ル船舶ニ對シ施行スル檢疫ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十四條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 此ノ法律ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス但シ第二十四條及第二十五條ハ

明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

第三十六條 明治十三年布告第三十四號傳染病豫防規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

## ●取引所法

一九四

### 第一章 取引所ノ設立

第一條 賣買取引ノ繁盛ナル地區内ノ商人ハ政府ノ免許ヲ受ケテ一種若クハ數種ノ物件ノ取引所ヲ設立スルコトヲ得

第二條 同種ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ハ一地區一箇所ニ限り設立スルコトヲ得但シ其ノ地區ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三條 取引所ノ免許年限ハ十箇年トス但シ土地商業ノ情況ニ依リ更ラニ繼續ヲ爲スコトヲ得

第四條 株式會社組織ノ取引所ハ營業保證金ヲ政府ニ納ムヘシ

### 第二章 取引所ノ組織

第五條 取引所ハ土地商業ノ情況及ヒ賣買取引スヘキ物件ノ種類ニ依リ會員組織又ハ株式會社組織ト爲スコトヲ得

第六條 會員組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人及ヒ會員ニ限り賣買取引ヲ爲スコトヲ得

株式會社組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人ニ限り賣買取引ヲ爲スコトヲ得

第七條 取引所ハ法人トシテ財産ヲ所有シ及ヒ之ヲ處分スルコトヲ得

第八條 取引所ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ營業部類ニ屬スル商品ノ倉庫ニ設置シ及ヒ指圖

式ノ倉荷證書ヲ發行スルコトヲ得

取引所ハ其倉荷證書ニ對シ前貸ヲ爲シ又ハ買受ルヲ得ス

第九條 取引所ノ定款ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

### 第三章 取引所ノ會員株主及仲買人

第十條 一箇年以上取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル商人ハ定款ノ規程ニ從ヒ其ノ取引所ノ會員トナルコトヲ得

二箇年以上其ノ取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル商人ニシテ年齢二十五歳以上ノ者ハ政府ノ免許ヲ受ケ其ノ取引所ノ仲買人トナルコトヲ得

一種ノ商業ニ付前項ノ資格ヲ有スル者ハ土地商業ノ情況ニ依リ二種以上ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ノ仲買人タル免許ヲ受クルコトヲ得

第十一條 帝國臣民ニ非サレハ取引所ノ會員株主又ハ仲買人トナルコトヲ得ス

婦女、未成年者、公權剝奪及ヒ停止中ノ者復權セサル破産者及ヒ家資分散者並ニ取引所ニ於テ除名ノ處分ヲ受ケタル者ハ取引所ノ會員タルコトヲ得ス

重懲錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用ヲ害スル罪、財産ニ對スル罪、商業及ヒ農工業ヲ妨害スル罪ヲ犯シテ刑ニ處セラレ其ノ滿期若クハ赦免後二箇年ヲ經サル者及ヒ前項ニ該當スル者ハ取引所ノ仲買人タルコトヲ得ス

第十二條 取引所ノ會員ハ自己ノ計算ヲ以テスルノ外取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

一九五

仲買人ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルト相問ハス取引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第十三條 取引所ノ仲買人ハ其ノ免許ヲ受クルトキ免許料ヲ納ムヘシ  
免許料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 取引所ノ會員及ヒ仲買人ハ身元保證金ヲ其ノ取引所ニ納ムヘシ

第十五條 取引所ハ其ノ秩序ヲ保持スルカ爲メ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ仲買人ノ營業ヲ停止シ五百圓以内ノ過怠金ヲ課シ且ツ政府ノ認可ヲ受ケ會員又ハ仲買人ヲ除名スルコトヲ得

第四章 取引所ノ役員

第十六條 取引所ノ役員ハ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ株主中ヨリ二箇年以内ノ任期ヲ以テ之ヲ選舉シ政府ノ認可ヲ受クヘシ  
取引所ノ役員左ノ如シ

理事長 一人 理事 二人以上 監査役 若干人

理事長及ヒ理事ハ會員ニ非サル者ヲ選舉スルモ妨ケナシ

第十一條第三項ニ該當スル者ハ取引所役員ト爲スコトヲ得ス

第十七條 取引所ノ役員及雇人ハ其取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス但シ監査役ハ此限ニ在ラス

第五章 取引所ノ賣買取引

第十八條 取引所ノ賣買取引ハ直取引延取引及ヒ定期取引ノ三種トス

第十九條 取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 取引所ハ其ノ定款ニ依リ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシムルコトヲ得

第二十一條 取引所ハ賣買取引ノ責任ヲ履行セサル者アルトキハ其ノ證據金及ヒ身元保證金ヲ以テ損害賠償ノ用ニ供スルコトヲ得

第二十二條 株式會社組織ノ取引所ハ賣買取引ノ違約ヨリ生スル損害ニ付賠償ノ責任ニ任スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ取引所ハ其ノ賠償シタル金額及ヒ之ニ關スル諸費ノ追償ヲ其ノ違約者ニ要求スルコトヲ得

第二十三條 取引所ハ賣買取引高ニ應シ賣買双方ヨリ手数料ヲ徴收スルコトヲ得其率ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 取引所ハ證據金及身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

第二十五條 取引所ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 取引所ニ於テ賣買取引シタル物件ノ相場ハ公定相場トス

第六章 取引所ノ監督

第二十七條 農商務大臣ハ取引所ノ行爲法律命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若クハ公衆ニ安寧ニ妨害アルト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 取引所ノ解散 二 取引所ノ停止 三 取引所一部ノ停止若クハ禁止 四

役員ノ解職 五 會員又ハ仲買人ノ營業停止若クハ除名

第二十八條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ取引所ノ業務、帳簿、財産等ノ

他一切ノ物件及ヒ會員又ハ仲買人ノ帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取

引所ノ役員會員及ヒ仲買人ハ其ノ物件ヲ提供シ質問ニ應答スヘシ

第二十九條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ定款ヲ改正セシメ又ハ其決議及

處分ヲ停止シ、禁止シ若クハ取消スコトヲ得

第三十條 取引所任意ノ解散ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第七章 罰則

第三十一條 第十二條第一項及ヒ第十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ貳拾圓以上貳百圓以

下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第二十五條ニ違背シタル者及公定相場ヲ偽リタル者ハ五拾圓以上五百圓以

下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十三條 取引所稅則ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 取引所ノ資本、營業保證金、株式、手数料及ヒ積立金ニ關スル規程ハ勅令

ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 本法ハ明治二十六年十月一日ヨリ施行ス

明治九年布告第百五號米商會所條例、明治十一年布告第八號株式取引所條例、明治二十  
年勅令第十一號取引所條例、明治十三年布告第二十一號、明治十五年布告第四十六號、  
明治十六年布告第四號及ヒ同年布告第二十九號ハ本法應行ノ日ヨリ廢止ス  
第三十六條 本法發布以前ヨリ營業スル米商會所、株式取引所及取引所ハ本法ニ依リ更  
ニ免許ヲ受ケ其營業ヲ繼續スコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ二箇月以前ニ於テ出願ノ  
手續ヲ爲サ、ルモノハ此ノ限ニ在ラス

取引所稅法

第一條 取引所ハ定期買賣ニ付左ノ割合ニ從ヒ稅金ヲ納ヘシ

一 商品 有價證券

買賣各定約代金高萬分ノ六箇

一 國債及地方債證券

同萬分ノ三箇

第二條 定期内ニ於ケル轉賣人ノ賣高及ヒ買戻人ノ買高ニ係ル稅金ハ之ヲ免除ス

第三條 賣買ヲ解約スルコトアルモ其ノ稅金ハ之ヲ免除セス

第四條 取引所ハ每一箇月賣買取引ヲ爲シタル各約定代金高ヲ翌月五日迄ニ管廳ニ届出

シ

取引所稅額ハ前項ノ届出ニヨリ地方長官之ヲ定ム

第五條 取引所稅金ハ每一箇月分ヲ翌月二十日マテニ納ムヘシ

第六條 當該官吏ハ地方長官ノ命令ニ依リ隨時取引所並ニ會所仲買人ニ就キ其ノ賣買取  
引ニ關スル帳簿書類ヲ検査スルコトアルヘシ

第七條 第四條 届出ヲ詐リ脱税ヲ圖リ又ハ脱税シタルトキハ取引所理事長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ仍取引所ヨリ其ノ脱税ニ係ル金額ニ徴收スヘシ

第八條 第四條ノ届出テ怠リタルキハ理事長ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス

附則

第十條 本法ハ取引所法實施ノ日ヨリ施行ス

●質屋取締法

第一條 質屋營業ヲ爲サントスル者ハ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ支店ヲ設クルトキ亦同シ廢業シタルトキハ行政廳ニ届出ヘシ

第二條 質屋ハ店舗ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 質屋物品ヲ質ニ取ラムトスルトキハ質置主ニ於テ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第四條 住所、氏名ノ詳カナラサル者ヨリ物品ヲ質ニ取ルコトヲ得ス但シ住所、氏名ノ詳カナル者其ノ證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 質屋ハ質契約及ヒ質物處分ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ  
質屋ハ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スヘシ  
帳簿、質札及通帳ノ製方及様式ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第六條 質屋ハ左ノ事項ヲ見易キ場所ニ揭示スヘシ  
一 利子割合  
一 流質期限  
一 質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨方  
一 質物出入時間

第七條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒ニタル後ニ非サレハ之ヲ質ニ取ルコトヲ得ス

前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未ダ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシメ命ニ從ハサレハ之ヲ官沒ス

第八條 質屋ハ質物ヲ使用シ若ハ貸付スルコトヲ得ス

轉質ハ必要ノ場合ニ限リ命令ヲ以テ制限シ若ハ禁止スルコトヲ得

第九條 質屋ハ左ニ掲クル制限内ノ利子ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ金錢ヲ領收スルコトヲ得ス

貸金貳拾五錢以下ハ一箇月壹錢、壹圓以下ハ一箇月百分ノ四、五圓以下ハ一箇月百分ノ三、拾圓以下ハ一箇月百分ノ二半

本條ニ違反シタル質契約ハ其ノ違反セル部分ニ限リ無効トス

第十條 質置主 流質期限前ハ何時タリトモ元利金ヲ辨償シ其質物ヲ受戻スコトヲ得

第十一條 質屋ハ流質期限經過ノ後何時タリトモ其ノ質物ヲ處分スルコトヲ得

第十二條 質屋ハ何人一拘ラス質札又ハ通帳ヲ所持スル者ニ其質物ヲ返還スルコトヲ得

第十三條 贖物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ニ於テ必要アリト認ムルモノハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十四條 贖物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ質ニ取り若ハ質物トシテ占有セルコトヲ覺知スルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ

第十五條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑ナル物品若ハ遺失物又ハ傳染病汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ質物及帳簿ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ十日以内ヲ限リ其ノ物品ヲ差押ヘ又帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

第十六條 質物ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ警察官之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若シ被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後官沒スルコトヲ得

第十七條 營業ニ關スル帳簿ヲ廢棄セントスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條 質屋法律命令ニ違反シ行政廳ニ於テ必要 認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止又ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ効力ハ全國ニ及ブ

第十九條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ質屋營業ヲ爲シ又ハ質屋營業者ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十條 質屋廢業シ若ハ營業ヲ禁止セラレタルトキト雖其ノ以前ニ成立シタル質契約及其ノ質物ニ付テハ尙ホ此ノ法律ヲ適用ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十一條 行政廳ハ何時タリトモ營業ノ禁止ヲ解クコトヲ得

第二十二條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第十五條ノ場合ニ於テ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ毀損シ失シタル者
- 二 第一條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者
- 三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者
- 四 第八條第一項及第十九條ニ違反シタル者

第二十三條 第一條第二項、第二條、第三條、第四條、第五條第一項及第二項、第六條



第七條第一項、第十四條及第十七條ニ違反シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ處ス

第二十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用キス

第二十五條 質屋營業上 就テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス

第二十六條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第二十七條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但シ沖繩縣ニ施行セズ

第二十八條 此ノ法律施行以前 係ル質契約ニ付テハ契約當時ノ法令ニ適用ス

第二十九條 明治十七年第九號布告質屋取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●質屋取締法細則

第一條 質屋取締法及此細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於テハ北海道廳長官其他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ

警視總監、北海道廳長官、府縣、東京府ヲ除ク以下之ニ倣フ 知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任スルヲ得但シ營業ヲ禁止若クハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此限ニ在ラス

第二條 支店ヲ設クルトキハ管理人ヲ定メ行政廳ニ届出ヘシ

第三條 店舗ノ移轉、營業者及後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動、管理人ノ變更及後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ、營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ、行政廳ニ届出ヘシ

但シ死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ヘシ

後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第四條 前二條ノ届出及廢業ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相續ノ日ヨリ拾日以内ニ於テスヘシ

第五條 帳簿ノ種類及其記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第六條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其事由ヲ説明シ行政廳ニ届出ツヘシ

第七條 質札及通帳ニハ適當ノ箇所ニ質置主ノ氏名ヲ記載シ營業者又ハ支店管理人記名

捺印シ質契約ヲ爲ス毎ニ貸金額、質物ノ種類、員數、番號、年月日ヲ記載スヘシ其製  
方及様式ハ廳府縣令ヲ以テ定ムルヲ得

第八條 第二條第三條第一項第二項第六條及第七條ニ違背シタル者ハ二圓以上拾圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第九條 此細則ニ規定シタルモノ、外、警視總監、北海道廳長官、及府縣知事ハ必要ナ  
ル命令ヲ發スルヲ得

### ●古物商取締法

第一條 古物商トハ主トシテ一度使用シタル物品若ハ其ノ物品ニ幾部ノ手入ヲ爲シタル  
モノヲ賣買交換スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ云フ

第二條 古物商ノ營業ヲ爲サントスル者ハ其物品ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ  
第三條 古物商ハ免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄内ニ店舗ヲ設ケタルトキハ其ノ旨行政廳  
ニ届出ヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケントスルト  
キハ更ニ其ノ地行政廳ノ免許ヲ受クヘシ

管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗 設ケルニ非スシテ賣買若ハ交換シタルトキハ古  
物商ニ非サル者ヨリ買受ケ若ハ讓受ケタル場合ニ限り其ノ品目ヲ其ノ地ノ行政廳ニ届  
出ヘシ但シ官衙公署ノ公賣品及質業者ヨリ買受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 左ニ記載シタルモノニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得  
一 古物ノ市場、行商、露店及糶賣

二 刀劍又ハ之ヲ材込ミタル器具其ノ他危險ノ虞アル物品ノ賣買交換

第六條 古物商物品ヲ買受ケ若ハ交換セントスルトキハ賣主、讓渡主ニ於テ其ノ物品ヲ  
處分スルノ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直  
ニ警察官ニ申告スヘシ

第七條 住所、氏名ノ詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス但シ住所

、氏名ノ詳ナル者其證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス  
第八條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ買  
受ケ又ハ讓受クルコトヲ得ス

前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未ダ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サ  
シム其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ官沒ス

第九條 贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限り警察官ハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ニ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達  
以後六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ買受ケ又ハ交換シ若ハ寄藏ヲ受ケ若ハ其ノ以前  
ニ之ヲ得タル儘所持シタルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ

第十一條 古物商物品ヲ買賣シ若ハ交換シタルトキハ其ノ物品及賣主、讓渡主ヲ帳簿ニ  
記載シ又買主、讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ  
其ノ他帳簿ニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル帳簿ヲ廢棄セントスルトキハ警察官ノ許可ヲ受  
クヘシ

第十三條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ム  
ルトキハ何時タリトモ物品及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿  
ヲ差出サシムルコトヲ得  
警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

第十四條 古物商法律命令ニ違犯シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止若  
ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ効力ハ全國ニ及ブ  
第十五條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ古物商營業ヲ爲シ又ハ古物商ノ  
代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期限内亦同シ

第十六條 行政廳ハ何時タリトモ營業禁止ヲ解クコトヲ得  
第十七條 古物商ノ買受ケ又ハ交換シタル物品ニシテ遺失物若ハ贓物ニ依ルトキハ營業  
者ヨリシタルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被  
害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後官沒スルコトヲ得

第十八條 他ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換シ特ニ此ノ法律ヲ適  
用スルノ必要アルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
一 第十三條ノ場合ニ於テ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品帳簿ヲ毀損亡失シタル者  
二 第二條ノ免許ヲ受ケスシア營業ヲ爲シタル者  
三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者  
四 第十五條 違犯シタル者

第二十條 第三條、第四條、第六條、第七條、第八條、第十條、第十一條及第十二條ニ  
違犯シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 此法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス  
第二十二條 營業上ニ附テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任ス  
第二十三條 此法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第二十四條 此法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但シ沖繩縣ニ施行セズ  
第二十五條 明治十六年第五號布告古物商取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●古物取締法細則

第一條 古物商取締法及此細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監、  
北海道ニ於テハ北海道廳長官其他ノ府縣ニ於テハ知事之ニ行フ  
警視總監、北海道廳長官、府縣(東京府ヲ除ク)以下之ヲ做フ知事ハ前項ノ職權ヲ警察  
署長、警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但シ營業ノ禁止若クハ  
停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此限ニ在ラス  
第二條 左ノ營業者ニシテ隨時其營業ニ屬スル古物ヲ賣買 交換スルトキハ古物商取締  
法及此細則ヲ遵守スヘシ  
吳服商 金物商 袋物商 小間物商 鹽甲商 時計商 飾商 書籍商  
其他廳府縣令ヲ以テ定メタル商業  
第三條 二箇以上ノ營業所又ハ店舗ヲ設クルトキハ營業主自ラ之ヲ管理スルモノ、外ハ

管理人ヲ定メ其地行政廳ニ届出ヘシ

第四條 營業ノ廢止營業所又ハ店舗ノ閉鎖、移轉、營業者及後見人ノ族籍、住所氏名ノ  
異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届出ヘシ  
後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ届出ヘシ但シ死亡者  
非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ヘシ

後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其後見ニ關シ市町村  
長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第五條 古物商取締法第三條第四條第二項及前二條ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日  
以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ古物商取締法第四條第二項ニ依リ品目ノ届出ヲ要スル物品ヲ  
其買受若クハ讓受ケタル日ヨリ十日以内ニ他所ニ運搬シ又ハ他人ニ交附セントスル場  
合ニ於テハ其品目届出ハ運搬又ハ交附ノ行爲ニ先ツヘシ又相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ  
届出ルハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ

第六條 帳簿ノ種類及其記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第七條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其事由ヲ説明シ行政廳ニ届出ヘ  
シ

第八條 古物商ニシテ行商ヲ爲シ又ハ露店ヲ出サントスル者ハ行政廳ニ願出鑑札ヲ受ケ  
之ヲ携帯スヘシ

家屬又ハ同居ノ雇人ニ限リ行商ヲ爲サシメ又ハ露店ヲ出サシムルコトヲ得此場合ニ於テ

六前項ノ手續ニ依リ鑑札ヲ受ケ之ヲ携帯セシムヘシ  
鑑札ハ他人ニ貸與スルヲ得ス

第九條 古物ノ市場ヲ開設セントスル者ハ規約書ヲ添ヘ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ  
規約書ニハ開閉ノ時間場所及參集スヘキ營業者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

規約書ノ變更ハ其ノ都度行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 行商、露店及市場ノ取引ニ付テ別ニ帳簿ノ規程ヲ要スルトキハ廳府縣令ヲ以テ  
之ヲ規定スヘシ

第十一條 古物ノ糶賣ヲ爲サントスル者ハ豫メ其日時並ニ場所ヲ行政廳ニ届出ヘシ

第十二條 古物商ハ露店、途上其他公ノ場所ニ於テ古物商ノ非サル者ヨリ古物品ヲ買取  
讓受ケ又ハ交換スルヲ得ス

第十三條 古物商ハ行商ニ依リ又ハ露店、市場ニ於テ刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ヲ賣  
買交換スルヲ得ス

第十四條 第三條第四條第一項第二項第七條第八條第九條第十條第十二條及第十三條  
ニ違背シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此細則ニ規定シタルモノ、外警視總監北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命  
令ヲ發スルヲ得

### ●出版條例

第一條 凡ソ機械舎密押ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖書ヲ印刷シテ之ヲ發  
賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若ハ圖書ヲ作爲スル者ヲ著  
作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條 新聞紙又ハ定期ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖書ノ出版ハ總テ此ノ法律ニ依  
ルヘシ但シ專ラ學術、技藝、統計、廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ハ此法律ニ依リ出版スル  
コトヲ得

第三條 文書圖書ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三日前ニ製本二  
部ヲ添ヘ內務省ニ届出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版スルトキハ其ノ官廳ヨリ發行前ニ製本二部ヲ內務省  
ニ送付スヘシ

第五條 出版届ハ著作者又ハ其ノ相續者及發行者連印ニテ差出スヘシ但シ非賣品ハ著作  
者又ハ發行者ノミニテ届出ツルヲ得

版權ノ保護ナキ文書圖書ヲ出版スルトキ若クハ著作權又ハ其相續者ヲ知ルヘカフサル  
トキハ其ノ由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名儀ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其ノ學校、會社、協  
會ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ届出ヘシ

第六條 文書圖書ノ發行者ハ文書圖書ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但シ著作者又ハ

其ノ相續者ハ發行者ヲ兼ヌルヲ得

第七條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第八條 文書圖畫ノ印刷者ハ其ノ氏名、住所及印刷ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載シ住所ト印刷所ト同シカラサルトキハ印刷所ヲモ記載スヘシ

印刷所若敷人ノ共有ニ係ルトキハ營業上其ノ印刷所ヲ代表スル者ヲ以テ印刷者トス前二項ノ印刷所ニシテ若營業上慣行ノ名稱アルモノハ其名稱ヲモ記載スヘシ

第九條 書簡、通信、報告、社則、塾則、引札、諸藝ノ番付諸種ノ用紙讀書ノ類及寫眞ハ第三條第六條第七條第八條ニ據ルヲ要セス但シ第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ル、者ハ此ノ法律ニ依テ處分ス

第十條 文書圖畫ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其ノ都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ雜誌類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其ノ手續ヲ省畧スルヲ得

此法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ十二箇月間一回ヲモ發行セサルトキハ廢刊シタルモノト看做スヘシ

第十一條 一タヒ出版届チシタル文書圖畫ノ再版ハ 版届ヲ要セスト雖若改正増減シ又ハ註解、附録、繪畫等ヲ加ヘタルトキハ仍第三條ニ依ルヘシ

第十二條 演説者ハ講義ノ筆記ハ演説者若ハ講義者ヲ以テ著作トス但シ筆記者ニ於テ演説者若ハ講義者ノ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ出版スルトキハ筆記者ヲ著作ト看做スヘシ

此ノ場合ニ於テ記載ノ事項第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ル、トキハ演説者若ハ講義者筆記者ト同ク其ノ罪ヲ論ス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演説ヲ新聞紙若ハ誌雜ノ通信者ニ於テ筆記シ其ノ新聞紙若ハ誌雜ニ記載シタルモノ及總テ演説者講義者ノ承諾經スシテ其ノ筆記ヲ出版シタルモノニ關シテ演説者若ハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演説ノ外ハ講義者又ハ演説者ノ許諾ヲ經ルニ非サレハ他人ニ於テ其ノ筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但シ本項ニ違フ者ハ版權法ニ據リ其ノ責ニ任セシム

第十三條 二種以上ノ著作者ハ演説講義ノ筆記ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲ストキハ編纂者ヲ著作者ト看做スヘシ

前條第一項ノ末段及第二項第三項ハ本條ニ適用スヘシ

第十四條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十五條 學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其ノ出版届ニ署名シタル代表者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十六條 罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑事ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ若ハ賞恤スルノ文書ヲ出版スルヲ得ス

第十七條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス

傍聴ノ禁シタル訴訟ノ事項ハ之ヲ出版スルヲ得ス

第十八條 外交軍事其ノ他官廳ノ機密ニ關シ公ニセサル官ノ文書及官廳ノ議事ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルヲ得ス

法律ニ依リ傍聴ヲ禁シタル公會ノ議事ハ之ヲ出版スルヲ得ス

第十九條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖書ヲ出版シタルト

キハ内務大臣ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其ノ刻版及印本ヲ差押フルヲ得

第二十條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其ノ文書圖書ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其ノ印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 軍事ノ機密ニ關スル文書圖書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルヲ得ス

第二十二條 第三條ノ届出ヲ爲サシテ文書圖書ヲ出版シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第六條ヲ犯ス者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 發行者自己ノ氏名、住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ發行スル文書圖書ニ記載セス其ノ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ貳圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 印刷者自己ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ印刷スル所ノ文書圖書ニ記載セス若ハ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ罰前條ニ同シ

住所ト印刷所ト同シカラサルトキ及印刷所ニシテ營業上慣行ノ名稱アルトキ印刷所及名稱ヲ記載セサル者亦前項ニ同シ

第二十六條 政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂セムトスル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者印刷者ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十七條 風俗ヲ壞亂スル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第十八條第十七條第十八條第二十一條ニ觸ル、文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者發行者ヲ十一日以上一年以下ノ輕禁錮又ハ拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第二十條ニ依リ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ發賣頒布シタル者罰前項ニ同シ其ノ未タ發賣頒布セサル文書圖書ハ之ヲ沒收ス

第三十條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其ノ差押フヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ

第三十一條 文書圖書ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノ

ヲ除クノ外裁判所ニ於テ專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得若之ヲ證明シタルトキハ其ノ罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕。再犯加重。數罪俱發ノ例ヲ用キス

第三十三條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ成効ハ一年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十四條 此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ其ノ記載ノ事項第二條ノ範圍外ニ涉ルトキハ内務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ出版スルコトヲ差止ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ一箇年ヲ經ルニ非サレハ更ニ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得ス

第三十五條 文書圖畫ヲ印刷スルトキハ直ニ發賣頒布セスト雖其ノ目的發賣頒布ニ在ルモノ總テ此ノ法律ニ依ル

### ● 版權法

第一條 凡ソ文書圖畫ヲ出版シテ其ノ利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云ヒ版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ文書圖畫ヲ翻刻スルヲ僞版ト云フ

第二條 出版法ニ依リ文書圖畫ヲ出版スル者及出版法又ハ新聞紙法ニ依リ雜誌ヲ發行スル者ハ總テ此ノ法律ニ依リ其ノ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第三條 版權ノ保護ヲ受ケント欲スル者ハ發行前登錄料トシテ 一 普通文書ノ圖畫 一種毎ニ金五圓 二 冊號ヲ追ヒ順次出版スル文書圖畫 一冊毎ニ金二圓五拾錢 三 雜誌ノ類 一冊毎ニ金五拾錢 四 興行權ヲ併有スル脚本 一種毎ニ金五拾圓 五 興行權ヲ併有スル樂譜 一種毎ニ金貳拾圓 六 寫真 一版毎ニ金五圓ヲ添ヘ版權登錄ヲ内務省ニ願出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版シ版權ノ登錄ヲ得ント欲スルトキハ其由ヲ内務省ニ通知スヘシ

第五條 版權登錄ノ文書圖畫ニハ其ノ保護年限ハ版權所有ノ四字ヲ記載スヘシ其ノ記載セサルモノハ登錄ノ効ヲ失フモノトス

第六條 内務省ニ於テハ版權登錄簿ヲ備置キ登錄ノ願出アル毎ニ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ

登錄ヲ經タル文書圖畫ハ内務省ニ於テ時々之ヲ官報ニ揭示スヘシ

第七條 版權ハ著作著ニ屬シ著作著死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス諸義若



ハ演説ヲ筆記シタルモノ、版權亦同シ但シ公開ノ席ニ於テ爲シタル演説ヲ筆記シテ出版スルモノハ版權侵害ト認ムルノ限ニ在ラス

翻譯書ノ版權ハ翻譯者ニ屬シ翻譯者死後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス  
官廳、學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ノ版權ハ其ノ官廳學校、會社、協會等ニ屬スルモノトス

二種以上ノ著作若ハ講義演説ノ筆記ヲ編纂シタル文書圖書、版權ハ編纂者ニ屬シ編纂者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス但シ其ノ原著作及原筆記ニ別ニ版權所有アルトキハ其ノ所有主ノ承諾ヲ經タル後ニ非サレハ其部分ニ付本項ヲ適用セス  
書畫ノ版權ハ其ノ原本ノ所有者屬スルモノトス

第八條 版權ハ制限ヲ附シ若ハ附セスシテ賣渡シ又ハ讓渡スコトヲ得

第九條 版權登錄證書ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ事由ヲ記シ其ノ再度下付ヲ内務省ニ願出ルコトヲ得但シ手数料トシテ五拾錢ヲ納ムヘシ

版權登錄證書ニ誤謬アリタルトキハ其理由ヲ記シ其ノ更正ヲ内務省ニ願出ルコトヲ得但シ其ノ誤謬官ニ在ル場合ノ外ハ手数料トシテ五拾錢ヲ納ムヘシ

第十條 版權保護ノ年限ハ著作者ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノトス若版權登錄ノ月ヨリ死亡ノ月マテテ計算シ之ニ五年ヲ加ヘ仍ニ二十五年ニ足ラサル時ハ版權登錄ノ月ヨリ三十五年トス  
數人ノ合著ニ係ルモノ、版權年限ハ最終ニ死亡シタル者ニ據リテ計算ス官廳又ハ學校

會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書並ニ著作者死亡ノ後ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ版權登錄ノ月ヨリ計算シ三十五年トス

第十一條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ每號其ノ出版ノ月ヨリ起算ス但シ其ノ都度第三條ノ手續ヲナスヘシ

雜誌ノ類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ得テ第三條ノ手續ヲ省略スルコトヲ得  
第十二條 版權ノ保護ハ其ノ文書圖書ヲ改正増減シ又ハ註解、附録、繪圖等ヲ加ヘ又ハ製本ノ式ヲ改メ又ハ冊數ヲ分合スルカ爲變更スルコトヲ得

版權登錄ヲ得タル文書圖書ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ文書圖書ノ爲ニ寫シタルモノハ其ノ文書圖書ト共ニ版權ノ保護ヲ受クルモノトス

第十三條 版權年限ヲ經過スルモ版權所有者ノ願出ニ依リ内務大臣ニ於テ必要ト見做ストキハ仍十年間版權保護ノ期限ヲ延スコトアルヘシ

第十四條 文書圖書ノ版權年限中所在者死亡シ他人ニ於テ其ノ版權相續者ナキコトヲ確信シ之ヲ出版セント欲スルトキハ其ノ由ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙並ニ其ノ所有者居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告シ最終ノ廣告日ヨリ六箇月内ニ版權相續者

ノ出ササルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ出版シ版權ヲ繼續スルコトヲ得  
著作人ハ相續者ヲ知ルヘカラサル著作ニシテ未ダ出版セサルモノ亦前項ノ手續ニ依

リ出權シ保護ヲ受クルコトヲ得

第十五條 新聞紙ニ於テ二號以上ニ涉リ記載シタル論說、記事又ハ小説及二號以上ニ涉  
ラスト雖特ニ一欄ヲ設ケ冒頭ニ禁轉載ト記シタルモノハ其ノ編輯者ノ承諾ヲ得ルニ非  
サレハ刊行ノ月ヨリ二年内ニ之ヲ他ノ新聞紙若ハ雜誌ニ轉載シ又ハ之ヲ編纂シテ出版  
スルヲ得ス其ノ二年ヲ經ルト雖己ニ一部ノ書ト爲シ版權登錄ヲ經タルモノハ原文ニ  
就テ更ニ編纂スルヲ得ス

第十六條 版權所有ノ文書圖畫ヲ偽版シタル者ハ其ノ版權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ  
任スヘキ其ノ寫本ヲ發賣シテ版權ヲ犯ス者亦同シ

第十七條 偽版ノ訴アリタルトキ裁判官ハ出訴者ノ情願アルニ於テハ假ニ其ノ發賣願布  
ヲ差止ムルコトヲ得但シ審理ノ末偽版ニ非スト判決セシレタルトキハ出訴者ニ於テ其  
ノ差止ヨリ生ス損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第十八條 偽版ニ關ル損害賠償ノ責ハ偽版者ノ相續者ニ及フモノトス

第十九條 版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ版權所有ノ文書圖畫ヲ翻譯シ増減シ註解、附録、  
繪圖等ヲ加ヘ若ハ其ノ未タ完結セサル部分ヲ續成シテ出版スル者及第十五條ニ違フ者  
ハ偽版ヲ以テ論ス

他人ノ 義又ハ公開ナラサル席ニ於テ爲シタル他人ノ演說ヲ筆記シ其ノ許諾ヲ經スシ  
テ出版スル者亦前項ニ同シ

第二十條 翻譯書ノ版權ハ其ノ翻譯者ニ屬スト雖其ノ原書ニ就キ別ニ翻譯スル者ニ向ヒ  
偽版ノ訴ヲ爲ストヲ得ス但シ其ノ既ニ出版スル所ノ翻譯ヲ剽竊シタルヲ證明スルモ

ノハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 世人ヲ欺瞞スル爲故ラニ版權所有ノ文書圖畫ノ題號ヲ冒シ或ハ摸擬シ又ハ  
氏名、社號、屋號等ノ類似シタルモノヲ湊合シテ他人ノ版權ヲ妨害スル者ハ偽版ヲ以  
テ論ス

第二十二條 著作又ハ其ノ相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル文書圖畫ヲ出版シ  
又ハ非賣ノ文書圖畫ヲ翻刻スルモノ亦偽版ヲ以テ論ス所有者ノ承諾ヲ經スシテ書畫ヲ  
出版スルモ亦同シ

第二十三條 文書圖畫ヲ寫眞ト爲シ因テ其ノ版權ヲ犯スモノハ偽版ヲ以テ論ス

第二十四條 内國ニテ版權所有ノ文書圖畫ヲ外國ニ於テ偽版シタルモノヲ輸入販賣スル  
者ハ偽版ト以テ論ス

第二十五條 偽版ノ訴アリテ其ノ偽版タルヤ否ヲ決シ難キトキハ其ノ訴ヲ受ケタル裁判  
所ニ於テ三名以上ノ鑑定者ヲ選ヒ之ヲ鑑定セシムルコトアルヘシ

第二十六條 偽版ニ關ル損害賠償ノ時効ハ其ノ原書ノ版權年限終ルノ後三年ヲ經過スル  
ニ因テ成就ス

第二十七條 偽版者及情ヲ知ルノ印刷者、販賣者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮若ハ三拾  
圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

偽版ニ係ル刻版及印本ハ其ノ何人ノ手ニ在ルヲ問ハズ之ヲ沒收シ其ノ既ニ販賣シタル  
モノハ其ノ沒得金ヲ沒收シテ併セテ被害者ニ下付ス

第二十八條 版權ヲ所有セサル文書圖書ト雖之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ表題ヲ改メ又ハ著作者ノ氏名ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作ト詐稱シテ翻刻スルヲ得ズ違フ者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ著作者又ハ發行者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第二十九條 第三條ノ手續ヲ爲サスシテ版權所有ノ字ヲ記載シタル文書圖書ヲ出版スル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 此法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス

第三十一條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時効ハ二年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十二條 従前ノ出版條例ニ據リ免許ヲ得タル者ノ版權年限ハ従前ノ條例ニ依リ計算スルモノトス

●出版及版權ニ關スル願届手續等

第一條 凡願届書ニ署名スル者ハ各住所ヲ詳記シ實印ヲ捺シ内務大臣宛ニテ差出スヘシ

第二條 出版法第七條第八條ニ依リ文書圖書ノ末尾ニ記載スル文字ハ總テ楷書タルヘシ

第三條 他人ノ書畫ヲ臨寫シ若クハ描寫シ又ハ他人ノ詩文歌ヲ書寫シテ出版スルモノハ其紙面中ニ臨寫若クハ摹寫者誰又ハ書者誰ト記載スヘシ

第四條 出版法第十條第一項但書ニ依リ許可ヲ得タル雜誌ハ製本中見易キ場所ニ於テ(何年月日内務省許可)ト記載スヘシ但明治二十年<sup>十二月</sup>勅令第七十六號出版條例第九條但書ニ依リ許可ヲ得タルモノ亦同シ

第五條 版權法第十一條第二項ニヨリ版權登錄願ノ手續ヲ省察セント欲スル者ハ豫メ大約一ケ年出版ノ分隨意取束子版權登錄ヲ願出ルコトヲ得

第六條 外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スル者ハ原書ノ題名著者ノ氏名出版ノ地名及年號ヲ原字ヲ以テ認メ願届書ニ添付スヘシ

第七條 出版届ハ第一書式再(三)版届ハ第二書式版權登錄願ハ第三書式雜誌版權登錄願ハ第四書式寫真版權登錄願ハ第五書式版權登錄願再度下付願ハ第六書式ニ依ル可シ

第八條 出版法及版權法ニ於テ他人ノ許諾ヲ得テ出版届出又ハ版權登錄願出ルトキハ其旨ヲ届書又ハ願届書ニ記スヘシ

非賣ノ文書圖書ヲ出版スル者ハ其届書並製本中ニ非賣品ト記スヘシ

第九條 専ラ學術技藝統計廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ニシテ出版法第二條但書ニ從ヒ同法

ニ依ラント欲スルモノハ第七書式同法第十條第一項ノ但書ニ依リ届出ノ手續ヲ省察セ  
ント欲スル者ハ第八書式ニ依ル可シ

第十條 版權登録願ヲ許可スルトキハ第十書式寫眞版權登録願ニ許可スルトキハ第十二  
書式ノ證書ヲ下付ス可シ但毀損紛失等ニヨリ再度下付スル證書ハ第十一書式ニ係ル

第十一條 此省令ハ出版法版權法施行ノ日ヨリ之ヲ施行シ明治二十一年一月一内務省令第一  
號明治二十三年三月三同省令第一號明治二十五年三月三同省令第三號ハ同日ヨリ之ヲ廢ス

第一書式 用紙美濃紙

出版御届

一書名

全何冊(枚)

右何誰著述(編纂、演説、講義、翻譯)何々ノ事ヲ記載(論述)セシモノニシテ今般出版  
候條製本二部相添此段御届申上候也

住所

發行者

氏

名 印

住所

著作者(相續者)氏

名 印

年 月 日

内務大臣(爵)何誰殿

第二書式 用紙同上

再版御届

一書名

全何冊(枚)

右何誰著述(編纂、演説、講義、翻譯)何々ノ事ヲ記載(論述)セシモノニテ何年月日出  
版(發行)致候處改正増減、附録、註解、繪圖)等相加へ今般再版候條製本二部相添此  
段御届申上候也

住所

發行者

氏

名 印

住所

著作者

氏

名 印

年 月 日

内務大臣(爵)何誰殿

第三書式 用紙同上

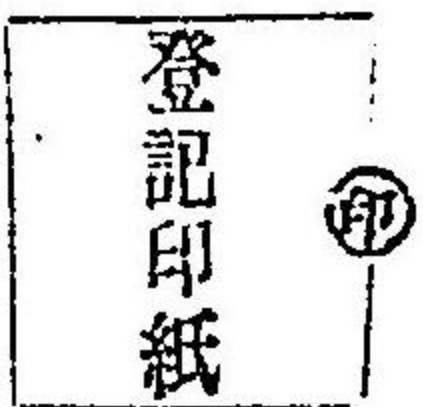
版權登録願

一書名

全何冊(枚)

壹部ノ定價金何圓錢

此登録料



右何年月日出版御届致候處版權登録被下度此段相願候也

年月日

內務大臣(爵)何誰殿

住所

版權所有者 氏 名 印

第四書式 用紙同上

雜誌版權登錄(手續省略)願

一書名

此登錄料

第何號(自第何號至第何號)何冊 壹部ノ定價金何圓錢

登記印紙

登記印紙

登記印紙

右ハ何年月日出版御届致(「出版法ニ依リ出版致スヘク」新聞紙條例ニ依リ發行致スヘク)候處版權登錄被下度此段相願候也

(寫真)版權登錄證書再度御下付願  
(寫真)版權登錄番號

一書名(物象ノ名)

全何冊(枚)

此手数料金五拾錢

登記印紙

右何年月日版權登錄御許可ヲ受ケタル處何々ニ依リ毀損(紛失)候條版權登錄證書更ニ翻下付被下度此段相願候也

年月日

住所

版權所有者 氏 名 印

內務大臣(爵)何誰殿

第七書式 用紙同上

學術(技藝、統計、廣告)雜誌出版願

一書名

第何號

右ハ專ラ何々ノ學術(技藝、統計、廣告)ニ關スル事項ヲ記載シ毎月何回發行致スヘキモノニ候處出版法ニ依リ出版候條製本二部相添此段御届申上候也

年月日

住所

編輯者 氏 名 印

內務大臣(爵)何誰殿

第五書式 用紙同上

寫真版權登錄願

二物象ノ名

何枚 壹部ノ定價金何圓錢

此登錄料製本六部ノ定價金何圓錢



右何々ノ眞形ヲ寫シタルモノニシテ今般發行致候條版權登錄被下度見本二葉相添此段  
相願候也

年月日

住所

版權所有者 氏 名 印

內務大臣(爵)何誰殿

第六書式 用紙同上

年月日

住所

編輯者 氏 名 印

內務大臣(爵)何誰殿

第八書式 用紙同上

學術(技藝、統計、廣告)雜誌出版手續省略願

住所

發行者 氏 名 印

一書名

第何號ヨリ

右ハ專ラ何々ノ學術(技藝、統計、廣告)ニ關スル事項ヲ記載シ毎年(月)何回出版法ニ  
依リ出版可致候條同法第三條ノ日限ニ不拘其出版ノ都度御届ニ不及發行前製本ノニ相  
納候様致度此段相願候也

年月日

住所

編輯者 氏 名 印

住所

發行者 氏 名 印

內務大臣(爵)何誰殿

●版權登錄證書訂正ノ件

內務省令第二號

版權ヲ讓受若クハ買受タルトキハ讓渡人若クハ賣渡人ノ連署ヲ以テ內務大臣ニ願出版權登錄證書ノ訂正ヲ受クルヲ得

但シ願書ニハ手数料トシテ五拾錢ノ登記印紙ヲ貼用スヘシ  
書式(用紙美濃紙)

版權登錄證書訂正願

何年月日出版御届

何年月日版權免許(版權登錄)第何號(版權免許狀又ハ版權登錄證書番號)

一題名

何冊

此手数料金五拾錢

(登記印紙)

著 作 者

何

誰

有版權ハ何ノ誰所有ニ候處今般拙者ニ於テ買受(讓受)候條版權登錄證書訂正相成度此段讓(賣)渡人連署ノ上相願候也

年 月 日

何府縣何市(郡)何町(村)何番地  
版權讓(買)受人 何 誰 印  
何府縣何市(郡)何町(村)何番地  
版權讓(賣)渡人 何 誰 印

內 務 大 臣 宛

●脚本樂譜條例

第一條 演劇脚本及樂譜ハ出版條例及版權條例ニ據リ之ヲ出版シ及版權ヲ所有スルコトヲ得

第二條 演劇脚本若クハ樂譜ヲ出版シテ版權ヲ所有スル者ハ版權年限中ハ其興行權(即チ利益ノ爲メ公衆ノ前ニ演スルノ權)ヲ併セ有スルコトヲ得但興行權ヲ有セントスルトキハ其脚本又ハ樂譜ニ興行權所有ノ五字ヲ記載スヘシ

第三條 演劇脚本及樂譜ノ興行權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ之ヲ賣渡シ讓渡スルコトヲ得

第四條 演劇脚本若クハ樂譜ノ興行權ヲ犯シタル者ハ興行權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ著作又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル脚本若クハ樂譜ヲ興行スル者亦同シ

第五條 興行ニ關スル損害賠償ノ責ハ其興行權ヲ犯シタル最終ノ月ヨリ一年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

●寫真版權條例

第一條 凡ノ光線ト藥品トノ作用ニヨリ人物器物景色其他物象ノ眞形ヲ寫シタルモノヲ寫真ト云ヒ寫真ヲ發行シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ寫真版權ト云フ

第二條 寫真版權ハ寫真師ニ屬シ寫真師死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス但他人ノ囑托ニ係ルモノ、寫真版權ハ囑托者ニ屬シ囑托者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

囑托ニ係ル寫真ノ種板ニシテ現存スルモノハ版權所有者ニ於テ之ヲ寫真師ヨリ受取ルコトヲ得ルモノトス

第三條 寫真版權ノ保護ヲ受ント欲スル者ハ發行前寫真一版ニ付見本二葉及六葉ノ定價ヲ添ヘ版權登錄ヲ内務省ニ願出ヘシ但人物ノ寫真ハ登錄ヲ待タスシテ其保護ヲ受クルモノトス

第四條 版權登錄ノ寫真ニハ其保護年限間ハ版權所有者ノ氏名住所版權登錄ノ年月ヲ記載スヘシ其記載セサルハ登錄ノ効ヲ失フモノトス

第五條 内務省ニ於テハ寫真版權登錄簿ヲ備ヘ置キ登錄ノ願出アリタルトキハ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ

寫真版權登錄證書ノ取扱ハ總テ文書圖書ノ版權登錄證書ニ準スルモノトス

第六條 寫真版權保護ノ年限ハ登錄ノ月ヨリ十年トス

第七條 寫真版權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ賣渡シ讓渡スコトヲ得

第八條 版權ノ保護ヲ受クル寫真ハ之ヲ覆眞シ若クハ機械又ハ舍密ノ作用ニヨリ多數ヲ複製シ得ヘキ方法ヲ以テ寫真術ト類似ノ模寫ヲ爲シ及寫真師ニ於テ本人又ハ其相續者ノ承諾ヲ受スシテ囑托ニ係ル寫真ヲ複製スルコトヲ得ス

第九條 第三條ノ手續ヲナサスシテ版權登錄ヲ詐稱シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第八條ニ違フ者ハ版權條例ニ據リ偽版ヲ以テ論シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ及損害賠償ノ責ニ任セシム

損害賠償ノ責ハ其原寫真ノ版權年限終ルノ後一年ヲ以テ期滿得免ノ期トス

第十一條 此條例ニ關スル公訴ノ期限ハ一年トシ其犯罪ト認メラレタル寫真又ハ模寫物作爲ノ時ヨリ起算シ其發賣セルモノハ最後ニ發賣シタル時ヨリ起算ス

第十二條 條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首輕減再犯加重罪俱發ノ例ヲ用キス



●新聞紙條例

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ發行地ノ管轄廳東京府ハヲ經由シテ内務省ニ届出ヘシ

第二條 新聞紙發行ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 題號
  - 二 記載ノ種類
  - 三 發行ノ時期
  - 四 發行所及印刷所
  - 五 發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齢
- 編輯人ハ二人以上アルトキハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者タルヘシ但紙面ニ部門ヲ分チ其各部門ニ主任編輯人ヲ設グルコトヲ得

第三條 届出ヲ爲シタル後、題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セントスルトキハ二週日以前ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

第四條 發行ノ時期、發行所、印刷所、編輯人、印刷人ニ變更アリタルトキハ一週日以内ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

第五條 發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ一週日以内ニ發行人ヲ定メ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ其届出ヲナスマテハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第六條 發行人ノ届出ヲナシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セザルトキハ其届出ノ効ヲ失フモノトス

第七條 内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非サレハ發行人印刷人トナルコトヲ得ス公權ヲ剝奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

第八條 編輯人、印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第九條 發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳東京府ハニ納ムヘシ

- 一 東京ニ於テハ千圓
- 一 京都大阪横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓
- 一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓

一 一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額

保證金ハ時價ニ準シタル公債證書又ハ國立銀行ノ預手形ヲ以テ之ヲ納ムルコトヲ得

學術、技藝、統計、官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノミヲ記載スルモノハ本條ノ限ニテアラス

第十條 保證金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタルトキハ之ヲ還付ス

第十一條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サヌ又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メヌシテ發行スルモノハ正當ノ届出ヲナシ又ハ保證金ヲ納ムルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第十二條 新聞紙ハ每號ニ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名發行所ヲ記載スヘシ

第十三條 發行人、印刷人ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス新聞紙ハ記載ノ條項ニ署名スル者ハ總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム

第十四條 新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳東京府ハ及管轄始審裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

リ正誤又ハ正誤書辯駁書ノ掲載ヲ求メシルトキハ其求ム受ケタル後其次回又ハ第三  
ノ發行ニ於テ正誤ヲナシ又ハ正誤書辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ若シ正誤書辯駁書ノ  
數原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ其超過ノ字數ニ付其新聞社ノ定メタル普通廣告料ト同  
一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得

正誤辯駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ヒ同一欄内ノ首部ニ掲載スヘシ  
正誤辯駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ觸ル、トキ又ハ之ヲ求ムル者其氏名住所ヲ明記セサ  
ルトキハ掲載スルヲ要セス

第十四條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤又  
ハ正誤書辯駁書ヲ掲載シタルトキハ當人又ハ關係アル者ノ求ナシト雖モ其新聞紙ヲ得  
タル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤スヘキコト前條ノ例ニ依ル但廣告料ヲ要求  
スルコトヲ得ス

第十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ  
於テ宣告ノ全文ヲ掲載スヘシ

第十六條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコト  
ヲ得ス

傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十七條 刑律ニ觸レタル罪犯トシテ其論說ヲ記載スルコトヲ得ス

刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恨スル爲ニスル文書ヲ掲載ス

ルコトヲ得ス

第十八條 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ詳  
畧ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳畧ニ拘ラス之ヲ記載スルコト  
第十九條 削除

第二十條 削除

第二十一條 外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノ  
ト認ムルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フ  
ルコトヲ得

第二十二條 外務大臣陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ外交又ハ軍事ニ關スル事項  
ノ記載ヲ禁スルコトヲ得

第二十三條 第二十二條第三十二條及第三十三條ニ關シ告發ヲ爲ストキハ内務大臣又ハ  
拓殖務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ停止シ假ニ之ヲ差押ヘ其告發ニ係ル論說又ハ事項  
ト同一主旨ノ論說又ハ事項ノ記載ヲ停止スルコトヲ得

裁判所ハ犯罪ノ情狀ニ依リ第二十二條ノ禁令ヲ犯シ又ハ第三十二條及第三十三條ヲ犯  
シタル新聞紙ノ發行ヲ禁止スルコトヲ得

第二十四條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタルトキ原告ニ於テ其新聞紙ニ  
署名マタル編輯人ハ實際主トシテ編輯ノ務ヲ擔當スル者ニアラスシテ他ニ主任編輯人

アルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ裁判所ハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人  
ヲシテ共ニ其責ニ當ラシムヘシ

第二十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノ  
ヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ム  
ルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキ  
ハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第二十六條 裁判確定ノ日ヨリ一週日以内ニ裁判費用及罰金ヲ完納セス又ハ損害ヲ賠償  
セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサルトキハ刑務署收處分ニ依ル  
保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ發行人ハ管轄廳東京府ハノ通知ヲ  
警視廳得タル日ヨリ一週日以内ニ其缺額ヲ完納スヘシ若シ完納セサルトキハ其之ヲ完納スル  
ニ至ルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第二十七條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ第六條第七條第十一條第一項第十  
二條ヲ犯シ又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行シタルトキハ  
發行人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但詐稱ノ罪ヲ犯スモノハ罰發行人ニ同シ  
第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發行人一月以上六月以下ノ  
輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條ノ末項ニ屬スル新聞紙ニシテ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ノ事項ヲ記載シタルトキ  
ハ編輯人罰前項ニ同シ

第二十八條 第十三條第十四條第十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金  
ニ處ス

第二十九條 第十六條第十七條第十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁  
錮又ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第二十一條ノ禁令ヲ犯シ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ

第三十一條 第二十二條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ發行人編輯人ヲ一月以上二年以下ノ輕  
禁錮又ハ貳拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第二十三條ノ停止ヲ犯ストキハ發行人編輯人ヲ貳拾圓以上五百圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十三條 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變壞シ又ハ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載  
シタルトキハ發行人編輯人印刷人ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五拾圓以上三百  
圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ヲ犯シタル者ハ其犯罪ノ用ニ供シタル器械ヲ沒收ス

第三十四條 社會ノ秩序又ハ風俗ヲ壞亂スル事項ヲ記載シタルトキハ發行人編輯人ヲ一  
月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ貳拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 第十三條ノ場合ニ於テ私事ニ係ルモノハ被害者ノ告訴ヲ得テ其罪ヲ論ス  
第三十六條 此條例ヲ犯シタル者ハニ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス  
第三十六條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六箇月トス

第三十七條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除クノ外皆此條例ニ依ル

◎公文ヲ新聞紙ニ記載スルヲ禁ス

自今各廳事務ニ係ル上申往復等ノ公文ヲ新聞紙ニ掲載候儀不相成候此旨相達候事

◎新聞紙條例中傍聴ヲ禁シタル訴訟ノ辨論記載方

新聞紙條例第三十三條ニ傍聴ヲ禁シタル訴訟ノ辨論ハ之ヲ記載スルコトヲ得ストアルハ公判ノ半ヨリ傍聴ヲ禁シタル場合ト雖モ總テ其訴訟ノ當日ノ辨論ヲ記載スルコトヲ得サル儀ニシテ判裁官傍聴ヲ禁スルノ命令ヲ爲シタル時ヨリ以下ノ辨論ノミヲ指スモノニ非ス右ハ往々疑義ヲ生シ候向モ有之趣ニ付此旨心得ヘシ

◎官吏タル者私ニ新聞紙等ニ政務ヲ叙述スルヲ禁ス

凡ソ官吏タル者官報公告ヲ除クノ外新聞紙又ハ雜誌雜報等ニ於テ私ニ一切ノ政務ヲ叙述スル事不相成候條此旨相達候事

但百般學科ニ係ル叙述ハ此限ニアラス

### 狩獵法

#### 第一章 獵具獵法

第一條 此ノ法律ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、各種ノ網、放鷹網繩又ハ箒ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ

前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二條 爆發物、据銃若ハ危險ナル罾及陷阱ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

前項ノ外ノ獵具獵法ニシテ第一條ニ掲ケサルモノニ就テハ地方長官（東京府下ハ警視總監以下倣之）ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ便宜取締規則ヲ設クルコトヲ得

第三條 日出前、日没後又ハ市街、人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ若ハ銃丸ノ達スヘキ處アル建物、船舶、汽車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 左ニ掲ケル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 御獵場
- 二 禁獵制札アル場所
- 三 公道
- 四 公園
- 五 社寺境内
- 六 墓地
- 七 柵、柵、圍障又ハ作物植付アル他人ノ所有地及免許ヲ受ケタル

他人ノ共同狩獵地但シ所有者又ハ管理人ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 地方長官ハ土地所有者ノ出願又ハ其ノ他ノ理由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ禁獵制札ヲ建ツルコトヲ得

#### 第二章 狩獵免許

第六條 狩獵ヲ爲サント欲スル者ハ地方長官ニ願出テ免狀ヲ受クヘシ但シ柵、柵、圍障

アル所有地内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一箇年ヲ經過セサレハ再ヒ免狀ヲ受クルコトヲ得ス  
第七條 從來地方ノ慣行ニ依リ一定ノ區域内ニ於テ共同狩獵ヲ爲ス者ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ願出テ免許ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ出願ニ關スル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第八條 免狀ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種免狀ハ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ乙種免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス

第九條 免狀ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

一等 所得稅拾五圓以上若ハ地租貳百圓以上納ムル者甲種金五圓乙種金拾圓

二等 所得稅三圓以上若ハ地租四拾圓以上納ムル者又ハ一等ニ相當スル者ノ家族甲種

金壹圓五拾錢乙種三圓

三等 一等二等以外ノ者甲種金五拾錢乙種金壹圓

第十條 甲種免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ滿一箇年トシ乙種免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マアトス

地方長官ハ土地ノ狀況ニ因リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ前項ノ期限ヲ三十日以内伸縮スルコトヲ得

第十一條 免狀ノ使用ハ本人ニ限ルモノトス但シ助手ヲ要スル獵法ニアリテハ免狀ヲ有

セサル者ヲ同伴スルコトヲ得

第十二條 獵者ハ出獵ノ際免狀ヲ携帯スヘシ

警察官、憲兵、森林官及市町村長ハ獵者ノ免狀ヲ檢査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ獵者ハ免狀ノ檢査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 免狀ヲ亡失シタルトキハ其ノ地ノ所轄警察官署及當初之ヲ下付シタル官廳ニ届出ヘシ

免狀ヲ亡失シ若ハ毀損シタルトキハ其ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ手数料金貳拾五錢ヲ納ムヘシ

第十四條 十六歳未滿ノ者ハ乙種免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條 免狀ハ其ノ効力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以内ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ返納スヘシ

第十六條 遊歩規程ノ制限アル外國人ニシテ狩獵免狀ヲ受タル者ハ甲種金五圓乙種金拾圓ノ免許稅ヲ納メ其ノ規程内ニ限リ狩獵スルコトヲ得若其ノ規程外ニ於テ狩獵シタルトキハ該免狀ハ爾後無効ノモノトス

第三章 鳥獸保護

第十七條 保護ヲ必要トスル鳥獸ヲ捕獲シ又ハ之ヲ販賣スルコトヲ禁ス但シ捕獲ノ禁止又ハ停止以前ニ於テ捕獲シタル鳥獸ハ其ノ禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週間以前ニ於テ販賣スルハ此ノ限ニ在ラス

飼養ニ係ル保護鳥獸ハ前項期日後ト雖農商務大臣定ムル所ノ規則ニ依リ販賣スルコトヲ得

捕獲ヲ禁止シ又ハ停止スヘキ保護鳥類ノ種類及期限ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十八條 捕獲ヲ禁スル鳥類ノ卵又ハ雛ヲ取リ若ハ之ヲ販賣スルコト禁ス

第十九條 捕獲ヲ禁スル鳥獸ト雖學術研究其ノ他特別ノ理由ニ因リ捕獲ヲ要スルトキハ

地方長官ハ特ニ其ノ許可ヲ與フルコトヲ得

有害鳥獸ヲ驅除スル爲必要ト認ムル場合ニ於テモ亦同シ

第四章 罰 則

第二十條 第六條第一項ニ違背シテ狩獵ヲ爲シ又ハ第十四條ニ違背シテ乙種免狀ヲ受ケ

タル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ第九條ニ違背シテ免狀ヲ受ケタル者ハ一圓

以上七拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 第二條第一項、第三條、第四條第一及至第六ニ違背シタル者ハ五圓以上五

拾圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ處罰ヲ受ケタル者ノ免狀ハ其ノ効力ヲ失フモノトス

第二十二條 第四條第七、第十二條第三項、第十七條第一項、第十八條ニ違背シタル者

ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第四條第七ニ付テハ土地所有者又ハ管理人ノ

告訴ヲ待テ處斷ス

第二十三條 第十二條第一項、第十三條第一項、第十五條ニ違背シタル者ハ壹圓以上壹圓

九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第二十四條 狩獵ニ關スル從前ノ規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

此ノ法律施行以前設定ノ免許ヲ受ケタル獵區ハ其ノ免許期限効力ヲ有スルモノトス

第二十五條 此ノ法律施行以前免狀ヲ受ケタル者ハ更ニ免狀ノ下付ヲ要セス引續キ狩獵

ヲ爲スコトヲ得

● 狩獵法施行細則

第一條 狩獵法第一條ニ掲グル各種ノ網ハ無聲、投網、霞網其他ノ張網トシ網繩ハ流シ

網、張網繩トシ又緝ハ高緝、千本緝トス

第二條 銃器ノ制限ハ銃砲取締規則ノ定ムル所ニ依ル

第三條 狩獵免狀ヲ受ケント欲スル者ハ願書ニ免狀ノ種類及住所族籍職業氏名年齢ヲ詳

記シ且狩獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタルコトノ有無及若シ處罰ヲ受ケタルコトアル

トキハ其年月日ヲ附記スヘシ

第四條 狩獵免狀ノ再ニ又ハ書換ヲ請求スルトキハ其手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

前項ノ登記印紙ハ請求書ニ貼付消印スヘシ

第五條 狩獵免狀ヲ受ケタル者ニシテ族籍氏名ヲ變換シ又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ地

方長官(東京府下ハ警視總監以下之ニ倣フ)ニ又其移轉ノ地、他ノ管轄廳ニ屬スルトキ

ハ甲乙兩地ノ地方長官ニ三週日以内ニ届出ツヘシ

第六條 禁獵制札ノ建設ヲ要スル者ハ其理由ヲ詳記シ地方長官ニ出願スヘシ但該建設費ハ出願者ノ負擔トス

第七條 地方長官ニ於テ建設スベキ禁獵制札ノ雛形左ノ如シ(雛形略ス)

第八條 共同狩獵地ノ免許ヲ受ケント欲スル者ハ免許期限ヲ定メ其地形面積ヲ記載シテ圖書及土地ニ於ケル狩獵ノ慣行ヲ詳記シタル書類ヲ願書ニ添付シ地方長官ニ經由シテ農商務大臣ニ出願スベシ

免許ノ繼續ヲ出願スルトキ亦同シ

第九條 共同狩獵地ノ免許ヲ受ケント欲スル場所官有ニ屬スルトキハ豫メ管轄官廳ニ願出テ使用ノ許可ヲ受クベシ若シ其場所他人ノ所有ニ係ルキハ所有者ノ承諾ヲ受クベシ

前項ノ許可若クハ承諾ヲ受ケタルトキハ第八條ノ願書ニ其書類ノ寫ヲ添付スベシ

第十條 共同狩獵地ノ區域ヲ變更セント欲スルトキハ其地形面積及變更ノ區分ヲ明記シタル圖面ヲ願書ニ添付シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スベシ

共同狩獵地ヲ發シタルトキハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ届出ツベシ

第十一條 共同狩獵地ニハ其周圍九十間ヲ超エサル距離毎ニ見易キ場所ヲ撰ヒ左ノ雛形據リ木標ヲ建設シ其旨所轄警察官署ニ届出ツベシ(雛形略ス)

第十二條 公益ノ爲メ必要ト認ムルトキ又ハ免許人第十一條ノ制限ニ從ハサルトキハ共同狩獵地ノ全部若クハ一部ニ對シテ免許ヲ取消スコトアルベシ

第十三條 第十一條第十二條ハ狩獵法第二十四條第二項ノ獵區ニモ適用ス

第十四條 左ニ掲クル鳥類ハ捕獲スルコトヲ禁止ス

一 鶴ツル 一 燕ツバメ(岩燕ヲ除ク) 一 小雀コソバ 一 日雀ヒガラ 一 四十雀シバフカチ 一 五十雀ウツフサチ 一 柄長エカガシ

二 鶺鴒シロソバ 一 杜鵑ホトトギス 一 郭公クワクワコウ 一 三光鳥サンクワウバ

第十五條 左ニ掲クル鳥類ハ三月十六日ヨリ十月十四日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

一 雉キジ 一 ヤマドリ

第十六條 左ニ掲クル鳥類四月十六日ヨリ八月十四日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

一 鶺鴒シロソバ 一 椋鳥ムクドリ 一 ヒタキ 一 雲雀ヒメソバ 一 鶺鴒シロソバ 一 小啄木コソバ 一 鶺鴒シロソバ

一 松鷄マユビ 一 鳩ハト 一 鶺鴒シロソバ

第十七條 牝鹿ハ十月一日ヨリ七月十五日マテ牝鹿ハ十月一日ヨリ十一月三十日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

第十八條 北海道ニ於テハ第十七條ノ保護期外タリトモ鹿ノ捕獲ヲ停止ス

第十九條 營業ノ爲メ保護鳥獸ヲ飼養スル者ハ捕獲禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週日ヲ經過シタル翌日現在ノ名稱及員數ヲ三十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツベシ

前項ノ鳥獸ニシテ蕃殖又ハ斃死シタルトキハ其年月日及鳥獸ノ名稱員數ヲ三十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツベシ

第二十條 保護鳥獸ヲ販賣シタルトキハ其買受人ノ住所氏名年月日及鳥獸ノ名稱員數ヲ三十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツベシ

●狩獵免許稅徵收ニ關スル法律

狩獵法ニ依リ政府ニ納ムル免許稅ハ稅額ニ相當スル印紙ヲ狩獵免許出願書ニ貼用シテ納ムルモノトス

此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

●鑛業條例

第一章 總則

第一條 鑛業トハ鑛物ノ試掘採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條 鑛物ノ未タ採掘セサルモノハ國ノ所有トス

此ノ條例ニ於テ鑛物トハ金鑛(砂金ヲ除ク)銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛(砂錫ヲ除ク)安質母  
尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛(砂鐵ヲ除ク)硫化鐵鑛、滿奄鑛、砒鑛、黑鉛、石炭、石油及硫黃  
ヲ謂フ

第三條 帝國臣民ニ非サレハ鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主トナル  
ルヲ得ス

鑛業人未成年癡癩白痴又ハ瘡啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第四條 農商務省鑛山局及鑛山監督署ノ官吏ハ在職中鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組  
合員又ハ會社ノ株主若ハ役員トナルコトヲ得ス

第五條 此ノ條例ニ依リ鑛業特許取消ノ處分ヲ受ケタル鑛業人ハ同鑛區ニ付一箇年間採  
掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 二人以上共同シテ鑛業ヲ爲ストキハ總代一名ヲ選定シ豫メ所轄鑛山監督署ニ届  
出ツヘシ

總代ハ鑛業上ニ關シ政府ニ對シテ共同鑛業人ヲ代表スルモノトス

第七條 共同鑛業人ノ變更、採掘權ノ賣買、讓與、書入及廢業届等ニハ總代ノ外少クモ共



同礦業人過半數ノ連署ヲ要ス

第二章 試掘及採掘

第八條 試掘ヲ爲サント欲スル者ハ其ノ願書ニ試掘地ノ圖面ヲ添ヘ所轄鑛山監督署長ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 試掘ハ認可ノ日ヨリ一箇年ヲ限トス

試掘人前項ノ期限内ニ於テ其ノ事業ヲ竣ヘ難キ事實ノルトキハ所轄鑛山監督署長ニ延期ヲ出願スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ハ其ノ事實ヲ調査シ已ムヲ得サルモノト認ムルトキハ一箇年以内ノ延期ヲ認可スルコトヲ得

第十條 試掘ニ依リ採取シタル鑛物ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ得テ之ヲ販賣スルコトヲ得

第十一條 前條ニ依リ鑛物ヲ販賣シタルトキハ三十日以内ニ其ノ販賣代價百分ノ一ヲ所轄鑛山監督署ニ納ムヘシ

前項ノ金額ヲ其ノ期限内ニ納メサル者ハ國稅滯納處分法ニ依リ處分ス

第十二條 採掘ノ特許ヲ得ント欲スル者ハ採掘願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

採掘願書及鑛區圖ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ノミヲ差出シ置キ鑛區圖ハ願書ノ日附ヨリ五十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得此期限内ニ差出サハルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

トス

第十三條 採掘ヲ出願スル者ハ出願地ニ其ノ採掘セントスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第十四條 鑛山監督署長ハ鑛物ノ存在ヲ認定スル爲ニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルト

キハ採掘出人願ヲシテ出張吏員ノ爲メニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

採掘出願人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ納メサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第十五條 鑛山監督署ニ於テハ試掘及採出願登録簿ヲ備ヘ置キ出願日時ノ先後ニ依リ之ヲ登録ス

第十六條 試掘又ハ採掘ノ出願同一ノ地ニ付二人以上アルトキハ出願日時ノ先後ニ依リ其ノ許否ヲ定ム

出願ノ日時同一ナルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ旨ヲ各出願人ニ通知スヘシ各出願人ハ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ協議ヲ遂ケ出願人ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

出願ノ日時同一コシテ試掘ト採掘トニ係ルトキハ先ツ採掘ノ出願ニ付其許否ヲ定ム

第十七條 農商務大臣採掘ノ特許ヲ與フヘキモノト認メタルトキハ鑛業特許證ヲ下付スヘシ

第十八條 試掘若ハ採掘ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署

長探掘ニ就テハ農商務大臣其ノ出願ヲ許可セズ

第十九條 試掘若ハ探掘ノ事業公益ニ害アルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛監督署長探掘ニ就テハ農商務大臣既ニ與ヘタル認可若ハ特許ヲ取消スコトヲ得

鑛業人前項取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達テ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但損害ノ賠償ヲ要求スルヲ得ス

第二十條 特許ヲ得タル鑛物ノ探掘權ハ賣買讓與又ハ書入ヲ爲スコトヲ得

探掘權ヲ賣買、讓與スルトキハ双方連署シ所轄鑛山監督署ヲ經農商務大臣ニ出願シ鑛業特許證ノ書換ヲ受クヘシ此ノ手續ニ依ラサル賣買、讓與ハ法律上其ノ効ナキモノトス

探掘權ノ書入ハ双方連署シ所轄鑛山監督署ノ登録ヲ受クヘシ其登録ヲ受ケサルモノハ法律上其ノ効ナキモノトス

第二十一條 他人試掘ノ年限中ハ其ノ試掘地内ニ於テ同一ノ鑛物ニ付探掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 他人ノ認可ヲ得タル試掘地内ニ於テ其ノ試掘人ノ未タ認可ヲ得サル鑛物ノ試掘又ハ探掘ヲ出願セント欲スル者ハ試掘人ノ承諾ヲ經ヘシ

試掘人自ラ試掘又ハ探掘ヲ出願セント欲スルカ若クハ其ノ認可ヲ得タル鑛物ノ試掘ニ妨害アルトキノ外ハ試掘人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十三條 他人所屬ノ鑛區内ニ於テ其ノ鑛業人ノ未タ試掘ノ認可又ハ探掘ノ特許ヲ得

サル鑛物ニ付試掘若ハ探掘ヲ出願セント欲スル者ハ鑛業人ノ承諾ヲ經ヘシ

鑛業人自ラ試掘又ハ探掘ヲ出願セント欲スルカ若クハ其ノ試掘又ハ探掘ノ爲ニ鑛業ニ妨害アルトキノ外ハ鑛業人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條 宮城、離宮、神宮、皇陵、陸海軍所轄城堡、軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内ノ場所ハ試掘又ハ探掘若ハ鑛業上使用スルコトヲ得ス但軍港、要港ハ其ノ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得タル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第二十五條 鐵道、馬車鐵道、公道、河湖、堤防、沼池、社寺、墓地、公園地及建物ヨリ地表地下トモ其周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳若クハ所有者ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ試掘又ハ探掘ヲ爲スコトヲ得ス但危險ノ虞ナキモノハ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 鑛業人ハ毎年ノ鑛業施業案ヲ調製シ其ノ前年十月三十日限其ノ初年ニ係ルモノハ探掘特許ノ日ヨリ三箇月以内ニ所轄鑛山監督署長ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

前項ノ施業案ニシテ坑内ノ保安ニ害アリ又ハ其ノ鑛區ニ相當スル鑛業ヲ爲サ、ルモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ理由ヲ鑛業人ニ示シ期限ヲ定メ之ヲ改正セシムヘシ

第二十七條 鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ受ケタル鑛業施業案ニ依ルニアラサレハ探掘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條 鑛業人鑛業施業案又ハ其ノ改正案ヲ期限内ニ差出サ、ルトキハ農商務大臣

ハ其ノ探掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第二十九條 鑛業人一箇年以上休業シ又ハ探掘ノ特許ヲ得タル日ヨリ一箇年以内ニ鑛業ニ着手セザルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第三十條 前二條ノ場合ニシテ其ノ自己ノ過失ニ由ラザルモノハ特許取消ノ違ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ其ノ理由ヲ農商務大臣ニ申立テ再願ヲ爲スコトヲ得若シ農商務大臣ニ於テ之ヲ拒ムトキハ其ノ違ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十一條 鑛業人ハ坑内實測圖ニ葉ヲ調製シ一葉ハ所轄鑛山監督署ニ差出シ一葉ハ鑛業事務所ニ備ヘ置クヘシ

前項坑内實測圖ハ事業ノ進歩ニ從ヒ六箇月毎ニ追補スヘシ  
鑛業人若シ他人ノ所屬ニ係ル隣接鑛區ノ坑内實測圖ニ付證明ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ所轄鑛山監督署長ニ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ニ於テ右證明ノ爲メニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

第三十二條 鑛業人鑛業特許證ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ所轄鑛山監督署ヲ經其ノ再下付ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

第三十三條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ試掘ノ認可ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ認可ヲ取消スヘシ若シ其ノ認可ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ

發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ認可ノ日ヨリ三箇月以内ニ試掘認可ノ取消ヲ所轄監督署長ニ出願スルコトヲ得

前項所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ノ日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十四條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ探掘ノ特許ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スヘシ若シ其ノ特許ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ特許ノ日ヨリ三十日以内ニ探掘特許ノ取消ヲ農商務大臣ニ出願スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ不服アルモノハ其ノ裁定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スコトヲ得

第三十五條 第二十二條第二項及第二十三條第二項ノ場合ニ於テ理由ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ關係人又第二十五條但書ノ場合ニ於テ危除ノ虞ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條 前條ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條 鑛業人廢業シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出テ鑛業特許證ヲ返納スヘシ

第三十八條 第三十九條第二十八條第二十九條第三十四條第四十三條及第七十六條ニ依リ

農商務大臣ニ於テ採掘ノ特許ヲ取消シ又ハ第三十七條ニ依リ廢業ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ特許ヲ得タル鑛物ノ採掘權ニ對シ抵當權ヲ有スル債主ハ其ノ抵當權ヲ失フモノトス但第十九條及第三十四條ノ場合ヲ除クノ外債主ニ於テ六十日以内ニ其ノ鑛區ノ採掘ヲ願出ルトキハ出願ノ先後ニ拘ハラズ特許ヲ與フヘシ

第三十九條 鑛業人ハ毎年一月前年ニ採取シタル鑛物ノ量數、製産物、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第四十條 鑛業人ハ農商務大臣定ムル所ノ書式ニ依リ帳簿ヲ調製シ製産物ノ量數及販賣代價等ヲ記載スヘシ

第三章 鑛區

第四十一條 鑛區トハ鑛物ノ採掘ヲ爲ス土地ノ區域ヲ謂フ

鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ一鑛區ノ面積ハ石炭ハ一萬坪以上其ノ他ノ鑛物ハ三千坪以上トシ共ニ六十萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條 出願ニ係ル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノト認メタルトキ所轄鑛山監督署長ハ之ヲ出願人ニ通知シ訂正セシムヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ三十日以内ニ訂正シテ差出サ、ルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十三條 特許ヲ得タル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經六十日以内ノ期限ヲ定

メ訂正セシムヘシ若シ訂正セサルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル特許ヲ取消スコトヲ得

鑛業人ハ前項特許取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ違ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十四條 鑛業人鑛床ノ形狀ニ由リ鑛區ノ境界若クハ位置ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ願書ニ理由書、訂正鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

農商務大臣ニ於テ訂正ヲ必要ト認メタルトキハ更ニ鑛業特許證ヲ下付スヘシ

第四十五條 鑛業人鑛區ノ訂正ヲ出願シタル場合ニ於テ所轄鑛山監督署長吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

鑛業人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ納メサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十六條 鑛區ヲ合併シ又ハ分割セント欲スル者ハ合併又ハ分割鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ所轄鑛山監督署ヲ經テ農商務大臣ニ出願スヘシ其ノ採掘權ヲ抵當ニ取リタル債主アルトキハ其ノ承諾書ヲ添フヘシ

鑛區ノ分割ハ第四十一條ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

第四章 土地便用

第四十七條 試掘又ハ探掘ヲ出願スル爲他人ノ土地ヲ測量スルコトヲ必要トスルトキハ所轄鑛山監督署ハ認可ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ其土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ測量 爲ニ損害ヲ生シタルトキハ其測量ヲ請求シタル者ニ於テ之ヲ賠償スヘシ

測量請求者他人ノ所有地ニ入ルトキハ豫メ其ノ土地所有者ニ通知シ且測量認可證ヲ携帶スヘシ

第四十八條 左ノ場合ニ於テ鑛業上他人ノ土地ヲ他用スルコトヲ必要トシ鑛業人其ノ貸渡ヲ請求シタルトキハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

一 坑口ヲ開穿スル爲 一 鑛物及土石ノ堆積場ヲ設置スル爲 一 坑道、道路、鐵道、馬車鐵道、運河、溝渠及溜池ヲ開設スル爲 一 鑛業上必要ノ製練場及建物ヲ建設スル爲

第四十九條 左ノ場合ニ於テハ土地所有者又ハ關係人ハ土地貸渡ノ請求ヲ拒ムコトヲ得

一 貸渡請求ノ土地第二十五條ニ記載シタル場合ニ係ルトキ  
一 土地借受人ニ於テ第五十條ノ保證金ヲ差出サ、ルトキ

第五十條 土地借受人ハ貸渡ヲ受ケタル土地ニ對シ其ノ土地貸渡人ニ相當ノ借地料ヲ任拂フヘシ

土地貸渡人ハ借地料ノ保證金トシテ土地借受人ニ豫メ土地臺帳ニ記載シタル地價以內金額ヲ差出サシムルコトヲ得

其質入トナリタル土地ニ對スル借地料及保證金ハ質取主ニ於テ之ヲ受領スルモノトス  
土地使用ニ依リ所有者又ハ關係人ニ損害ヲ與フルトキハ鑛業人ハ之ニ對シ相當ノ賠償ヲ爲スヘシ

土地借受人土地ノ使用ヲ終リ其ノ使用中ノ借地料ヲ完納シタルトキハ土地貸渡人又ハ質取主ハ土地ト引換ニ保證金ヲ返還スヘシ

第五十一條 土地借受人ノ貸渡ヲ受ケタル土地ノ使用ヲ終リタルトキハ土地貸渡人ノ要求ニ應ジ其ノ土地ヲ原形ニ復シ返還スヘシ若シ原形ニ復シ難キトキハ土地借受人ニ於テ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第五十二條 土地借受人借地料ノ任拂ヲ延滞シタルトキハ土地貸渡人ハ其ノ延滞借地料ニ相當スル金額ヲ保證金中ヨリ差引キ土地ヲ取戻スコトヲ得

前項土地ヲ取戻スニ當リ地上ニ建物ノアルトキハ六十日以上ノ期限ヲ定メテ土地借受人ニ其ノ取除ヲ請求スヘシ若シ土地借受人ノ所在不分明ナルトキハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

土地借受人右期限内ニ取除ヲナサ、ルキハ其ノ建物等ハ土地貸渡人ノ所有ニ歸スヘシ  
第五十三條 鑛業人ノ請求ニ依リ土地ヲ分割シテ賣渡シ又ハ貸渡シタルカ爲殘地ノ利用ヲ害スルトキハ鑛業人ニ對シ其ノ土地全部ノ買取若ハ借受ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十四條 鑛業人ニ於テ貸渡ヲ受ケタル土地ヲ三箇年以上使用スル目的アルカ又ハ三

箇年以上之ヲ使用スルトキハ土地貸渡人ハ鑛業ハニ其ノ土地ヲ買取ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ買取ヲ拒ムコトヲ得ズ

第五十五條 土地ノ所有者及關係人ト測量請求人又ハ鑛業人トノ間ニ於テ土地貸渡、借地料、保證金、損害賠償金又ハ土地賣買代價ニ付協議調ハサルトキ所轄鑛山監督署長ニ其ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其ノ判定ノ達テ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ土地貸渡ニ就テハ農商務大臣ニ其ノ裁定ヲ請求シ借地料、保證金、損害賠償金若ハ土地賣買代金ニ就テハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ對シテ他ニ出訴スルコトヲ得ズ

第五十六條 所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定請求ノ爲ニ要スル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第五十七條 鑛業人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄鑛山監督署長ノ判定シタル借地料、保證金、損害賠償金又ハ賣買代金不服アルモ其ノ金額ヲ土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若シ之ヲ受ケサルトキハ其ノ金額ヲ供託所ニ預ケ置キ土地ヲ使用スルコトヲ得

第五章 鑛業警察

第五十八條 鑛業ニ關スル警察事務ニシテ左ニ掲クルモノハ農商務大臣之ヲ監督シ鑛山監督署長之ヲ行フ

- 一 坑内及鑛業ニ關スル建築物ノ保安
- 二 鑛夫ノ生命及衛生上ノ保護
- 一 地

表ノ安全及公益ノ保護

第五十九條 鑛業上ニ危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ

鑛業人ニ其ノ豫防ヲ命ジ又ハ鑛業ヲ停止スヘシ

所轄鑛山監督署長ニ於テ鑛業ヲ停止セントスルトキハ其ノ猶豫シ難キ場合ヲ除クノ外ハ農商務大臣ノ認可ヲ經ハシ

第六十條 前條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人直ニ其ノ豫防ニ着手セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ノ使用スル役員及鑛夫ヲ指揮シ其ノ豫防ヲ執行スヘシ

此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ使用スル役員及鑛夫ヲ豫防ノ用ニ供シ且一切ノ費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

第六十一條 第五十九條ニ依リ鑛業ヲ停止シタル後其ノ事故止ミタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ直ニ鑛業ノ停止ヲ解キ其旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第六十二條 農商務大臣ニ於テ此ノ條例ニ依リ採掘ノ特許ヲ取消シタルトキ又ハ鑛業人廢業シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以上ノ期限ヲ定メ鑛業ノ爲建設シタル家屋及其他ノ建物等ヲ除去セシムヘシ若シ右期限内ニ除去セサルトキハ其ノ建物等ハ土地ノ所有者ノ所有ニ歸ス但所轄鑛山監督署長ニ於テ坑内保安ノ爲ニ必要ト認ムル坑内及坑口ノ構造物ハ之ヲ除去スルコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テ鑛業人ノ所在不分明ナルトキハ第五十二條第二項ノ手續ニ依ルヘシ

第六十三條 農商務大臣ハ此ノ條例ノ範圍内ニ於テ省令ヲ以テ鑛業警察規則ヲ定ムルコ

トヲ得

第六章 鑛夫

第六十四條 鑛夫トハ鑛物ノ採掘及之ニ附屬スル業務ニ従事スル男女ノ職工ヲ謂フ

鑛業人ハ其ノ使役スル鑛夫ノ使役規則ヲ定メ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條 鑛業人ト鑛夫トノ間ニ特別ノ約定ナキ場合ニ於テ双方トモ十四日以前ニ通

知スルトキハ雇役ノ解約ヲナスヲ得

第六十六條 左ノ場合ニ於テハ鑛業人ハ何時タリトモ鑛夫ノ解雇スルヲ得

一 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルカ又ハ不行狀ノ行爲アルカ若クハ命令ヲ遵守セサル

トキ 一 鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ對シ粗暴ノ所爲アリタルトキ 一 身

體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ 鑛業ヲ禁止セラレ又ハ廢業シタルトキ

第六十七條 左ノ場合ニ於テハ鑛夫ハ何時タリトモ其ノ雇役ヲ罷ムルヲ得

一 身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ 一 鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ於テ

虐待シタルトキ 一 約定ノ賃錢又ハ報酬ヲ給與セサルトキ

第六十八條 鑛業人又ハ其ノ代理人ハ解雇スル鑛夫ノ請求ニ依リ從來ノ業務年限、本人

ノ技能、賃錢及雇役ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

鑛業人證明書ヲ與フルコトヲ拒ムカ又ハ鑛夫ニ於テ證明書中不當ト認ムル事項アルト

キハ所轄鑛山監督署員若クハ警察官ニ申告スルコトヲ得

第六十九條 鑛業人ハ鑛夫ノ賃錢ヲ通貨ニテ仕拂フヘシ鑛夫ノ請求アルニアラサレハ物

品ヲ以テ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第七十條 鑛業人ハ鑛夫名簿ヲ備ヘ置キ氏名、年齢、本籍、職業、雇入及解雇ノ年

月日ヲ記入スヘシ

第七十一條 農商務大臣ハ左ニ記載スル制限内ニ於テ省令ヲ以テ鑛夫工役規則ヲ定ムル

コトヲ得

一 一日十二時間以上ノ就業時間ヲ制限スルヲ 一 女工ノ工役ノ種類ヲ制限スル

ヲ 一 十四年以下ノ男女職工ノ就業時間及工役ノ種類ヲ制限スルヲ

第七十二條 鑛業人ハ左ノ場合ニ於テ其ノ雇入鑛夫ヲ救恤スヘシ其ノ救恤規則ハ所轄鑛

山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

一 鑛夫自己ノ過失ニ非スシテ就業中負傷シタル場合ニ於テ診察費及療養費ヲ補給ス

ルヲ 一 前項ノ場合ニ於テ鑛夫ニ療養休業中相當ノ日當支給ヲスルヲ 一 前

項ノ負傷ニ由リ鑛夫ノ死亡シタルトキ埋葬料ヲ補給シ及遺族ニ手當ヲ支給スルヲ

一 前項ノ負傷ニ由リ痼疾トナリタル鑛夫ニ期限ヲ定メ補助金ヲ支給スルヲ

第七章 鑛業税及鑛區税

第七十三條 鑛業人ハ鑛業税トシテ鑛業製産物ノ價格百分ノ一鑛區税トシテ鑛區一千坪

毎ニ一箇年金三拾錢ヲ納ムヘシ但一千坪未滿ノ端數ニ對スル鑛區税ハ之ヲ免除ス

鑛鑛ヲ採掘スル者ニハ鑛業税ヲ課セス

第七十四條 前條鑛業製産物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣ノ

告示スル所ニ依ル但市場ノ相場ナキモノハ其ノ販賣代價ニ依ル

第七十五條 鑛業稅ハ前年分ヲ毎年三月三十一日限ニ又業ノ年ニ係ルモノハ廢業ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

鑛區稅ハ一箇年分ヲ其ノ前年十二月十五日限ニ又初年ニ係ルモノハ月割ヲ以テ採掘出願特許ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ其ノ廢業ノ年ニ係ルモノハ之ヲ返付セズ

第七十六條 鑛業人納稅期限内ニ鑛業稅及鑛區稅ヲ納メサルトキハ農商務大臣ハ採掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得其ノ取消ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルヲ得

第八章 罰則

第七十七條 第二十四條第二十五條ヲ犯シタル者ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第七十八條 特許ヲ得スシテ採掘ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ特許ヲ得タル者ハ拾五圓以上百五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條 認可ヲ得スシテ試掘ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ認可ヲ得タル者又ハ認可ノ期限ヲ過キ尙ホ試掘ヲ爲シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 第二十七條ヲ犯シタル者及第五十九條ノ豫防ニ着手セサル者又ハ第六十二條但書ノ規定ヲ犯シタル者ハ拾五圓以上百五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條第一項及第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス  
第八十一條 第十條ハ犯シタル者ハ其ノ賣得金半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十二條 第十一條ノ販賣代價ヲ隱匿シタル者ハ其ノ隱匿シタル金額ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十三條 第三十九條ニ依リ届出ツヘキ事項ヲ詐テ遁稅シタル者ハ其ノ遁稅金額ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ遁稅ニ關セサル事項ニ係ルモノハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十四條 第四十條ノ帳簿ヲ調製セス若クハ記載ヲ怠リ若クハ詐テ記載シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十五條 第六十四條第二項第十九條及第七十二條ヲ犯シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條 第六條第三十七條第六十八條及第七十條ニ違背シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第八十七條 第八十一條第八十二條及第八十三條ノ場合ニ於テ自首シタル者ハ其ノ納付スヘキ金額ヲ追徴シ其ノ罪ヲ問ハス

第八十八條 此ノ條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヒス  
鑛業人未成年瘋癲白痴又ハ瘡啞ニシテ此ノ罰則ヲ犯シタルトキハ其ノ後見人ヲ處罰ス

第九章 附則

第八十九條 此ノ條例實施以前ニ許可ヲ得タル試掘人又ハ借區人ハ其ノ許可ヲ得タル年限中試掘又ハ業業ヲ爲スコトヲ得



第九十條 此ノ條例實施以前ニ借區人ノ許可ヲ得借區年限滿期後尙ホ引續キ鑛業ヲ爲  
 サントスル者ハ借區滿期以前ニ此ノ條例ニ依リ出願スヘシ  
 第九十一條 此ノ條例ノ施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム  
 第九十二條 此ノ條例ハ明治二十五年六月一日ヨリ施行ス明治六年太政官第二百五十九  
 號布告日本坑法ハ同日限之ヲ廢止ス

離形(用紙差濃紙)

第三號(正副二通)

明治何年鑛業施業案

何(府縣)何(郡市)何(町村)大字何小字何

何鑛山何鑛

(借區券特許證)番號(借區鑛區)并坪數

鑛業人 氏 名  
又ハ共同鑛業人總代氏名

開坑ノ部

工程

何堅坑

何堅坑

何通氣坑

何運搬坑

何

何

計 開坑切地 掘延何尺

延人員何人

實人員何人

(長幅)掘延何尺

全 全 全 全 全

坑 夫  
 手 子  
 支 柱 夫  
 車 夫  
 火 夫  
 機 械 夫  
 雜 夫  
 運 搬 夫

全 全 全 全 全 全 全

全 全 全 全 全 全 全

計	全	何式	全	何馬力	全	何臺
原動機	(汽罐或ハ水車)	何式	全	何馬力	全	何臺
機關	全	全	全	全	全	全
機械	全	全	全	全	全	全
通氣ノ方法	一分時間何立方尺	全	全	全	全	燃燒質瓦斯ノ有無
排水ノ方法	一分時間何立方尺	全	全	全	全	全
運搬ノ方法	全	全	全	全	全	全
薪炭消費高	全	全	全	全	全	全
採鑛ノ部	工程	何貫目	何立方尺	何立方尺	何立方尺	何立方尺
探鑛額	內	何貫目	何立方尺	何立方尺	何立方尺	何立方尺
何鑛	何鑛	全	全	全	全	最低含有高百分中何々
何鑛	何鑛	全	全	全	全	全
工數	延人員何人	延人員何人	延人員何人	延人員何人	延人員何人	延人員何人
坑夫	實人員何人	實人員何人	實人員何人	實人員何人	實人員何人	實人員何人

記事 (堅坑橫坑通氣坑運搬坑等開鑿ノ目的方法及之レカ爲メ要スル處ノ機械卷揚  
機等ノ建築及其使用ノ方法ヲ詳記スヘシ)

右之通施業致度候認可相成度候也

手子	全	何式	全	何馬力	全	何臺
支柱夫	全	何式	全	何馬力	全	何臺
車夫	全	何式	全	何馬力	全	何臺
火夫	全	何式	全	何馬力	全	何臺
機械夫	全	何式	全	何馬力	全	何臺
雜夫	全	何式	全	何馬力	全	何臺
運搬夫	全	何式	全	何馬力	全	何臺
計	全	何式	全	何馬力	全	何臺
原動機	(汽罐或水車)	何式	全	何馬力	全	何臺
機關	全	何式	全	何馬力	全	何臺
機械	全	何式	全	何馬力	全	何臺
通氣ノ方法	二分時間何立方尺	何式	全	何馬力	全	何臺
排水ノ方法	二分時間何立方尺	何式	全	何馬力	全	何臺
運搬ノ方法	全	何式	全	何馬力	全	何臺
薪炭消費高	全	何式	全	何馬力	全	何臺

記事 (採掘ノ方法及之レカ爲メ要スル處ノ機械並ニ其建築及使用ノ方法ヲ詳記ス  
ヘシ)

年月日

二七二

何鐵山監督長氏名殿

雛形(用紙美濃紙)

第四號(正副三通)

鑛業條例第三十九條屆書

鑛業明細表

鑛區坪數	鑛山名稱	鑛區位置		
		大字	府縣廳	國
		小字		郡
				村
	鑛種			

右

鑛業人 氏 名

又、共同鑛業人總代氏名

採	越		鑛業人	施業 認可 番號 案	許可 番號	許可 年月日
	高	鑛				
	製	品				
		計				
			(何 某 印)			

二七三

賣		販		高出製
價	代	量	數	
品製	品鑽	品製	品鑽	
	計		計	

高煉製	計合	高入買	高掘
計		計	計

額		稅		業 行		高 殘	
總 計	鑛 區 稅	稅 業 鑛	數 工	數 日	品 製	品 鑛	
		計	製 採	製 採		計	
			煉 掘	煉 掘			

事 記

注 意

一 採掘高ノ單位ハ石炭ハ斤量其他ノ鑛物ハ凡テ質量ヲ用ユヘシ  
 一 製出高ノ單位ハ金銀ハ分量其他ノ製出高ハ凡テ斤量ヲ用ユヘシ

雛形(用紙美濃紙)

第五號(鑛業條例第四十號帳簿)

種目種類	種目種類
前月	月一(七月)
越前高	月二(八月)
	月三(九月)
	月四(十月)
	月五(十一月)
	月六(十二月)
	計

高入買	計 合	製高煉	殘	製高	前出製	前月 越高	計 合	販賣高

販賣代價	殘	高	記 事

注 意

- 一 採掘高ノ單位ハ石炭ハ斤量其他ノ礦物ハ凡テ質量ヲ用ユヘシ
- 二 製出高ノ單位ハ金銀ハ分量其他ノ製出高ハ凡テ斤量ヲ用ユヘシ

● 鑛業條例施行細則

第一條 鑛業條例ニ依リ差出ス願書又ハ届書ニシテ登録稅法第十四條ノ事項ニ係ルモノハ第十四號書式ニ從ヒ相當登記印紙ヲ貼用シタル上細書ヲ添ヘシ前項以外ノ願書又ハ請求書ニシテ明治二十七年勅令第百號ノ事項ハ係ルモノハ願書又

二七九

ハ請求書ニ相當登記印紙ヲ貼用シ差出スヘシ

願書ハ第一號ヨリ第十三號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認テ試掘地略測圖、鑛區略測圖、試掘地實測圖、鑛區實測圖、鑛業施業案鑛業條例第三十九條ノ屆書及同條例第四十條ノ帳簿ハ第一號ヨリ第五號ニ至ル雛形ニ準シ調製スヘシ

第二條 試掘願書及試掘地實測圖ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ニ第一號雛形ノ試掘、略測圖ヲ添ヘ差出シ置キ試掘實測圖ハ出願ノ日ヨリ五十日以内ニ差出スヘシ

第三條 鑛業條例第十二條第二項ニ依リ願書ノミ差出ストキハ第一號雛形ノ鑛區略測圖ヲ添フヘシ

第四條 願書 屆書請求書施業案及ヒ圖面ニ代印セシムルトキハ之ニ委任狀ノ正本ヲ添ヘシ

第五條 試掘地ノ區域ハ鑛業條例第四十一條第二項ニ依ルヘシ

第六條 試掘地若クハ鑛區最短徑ハ其最長徑ノ四分ノ一ヨリ下ルコトヲ得ス

但所轄鑛山監督署長ニ於テ適當ト認ムルトキハ本文ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第七條 鑛業人ノ承諾ヲ經スシテ其試掘地若クハ鑛區ニ接近シ試掘地若クハ鑛區ヲ得ントスル者ハ其中間ニ十間以上ノ距離ヲ置キ出願スヘシ

所轄鑛山監督署長ニ於テ鑛利ヲ保護スル爲メ必要ト認メタルトキハ五十間迄前項ノ距離ヲ延長セシムルコトヲ得

第八條 鑛業ニ關スル願書若クハ圖面不完備ナルトキハ所轄鑛山監督署長ハ相當ノ期限

ヲ定メ之ヲ修正若クハ補充セシムヘシ

第九條 試掘願採掘願ハ鑛山監督署長ニ於テ實測圖受理ノ日ヨリ五日以内ニ出願地所在ノ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ特別ノ理由アル場合ヲ除クノ外三十日以内ニ其事業公益ニ害アルヤ否及出願地ノ字名公簿ニ符合スルヤ否ヲ取調ヘ其意見ヲ試掘ニ付テハ所轄鑛山監督署長ニ通知シ採掘ニ付テハ農商務大臣ニ上申スヘシ

第十條 試掘地若クハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル區域變更願ハ總テ試掘願若クハ採掘願ノ手續ニ依ルヘシ

第十一條 試掘延期ハ滿期前ニ出願シ試掘ノ成績及事業ヲ竣ヘ難キ事由ヲ詳記スヘシ

第十二條 鑛業條例第十三條ニ依リ鑛物ノ存在ヲ證明スルニハ願書發送ノ日ヨリ三十日以内ニ其鑛物ノ標品又ハ證明書ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第十三條 鑛業人及鑛業出願人所轄鑛山監督署長ヨリ實地調査ノ爲メ立會ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ期日ニ立會フヘシ

第十四條 鑛業人及鑛業出願人所轄鑛山監督署長ヨリ圖面又ハ書類ノ差出ヲ命セラレタルトキハ指定ノ期日以内ニ之ヲ差出スヘシ

第十五條 鑛業特許證替換願、鑛區訂正願、鑛區合併若クハ分割願、採掘權書入登錄願及鑛業條例第九十條ニ依レル採掘特許願ニハ鑛業特許若クハ借區券ヲ添フヘシ

第十六條 坑内實測圖ハ毎年一月七月ノ兩度ニ之ヲ調製シ前期末日ノ現況ヲ記載スヘシ

坑内實測圖ハ前項調製期月ノ翌月中ニ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

但シ前實測圖ト交換スルコトヲ得

第十七條 鑛業條例第三十一條第三項ノ證明ヲ必要トスル者ハ其理由ヲ詳記シタル請求書ヲ差出スヘシ

第十八條 鑛業條例第三十九條ノ届書ハ届出ツヘキ事項ナキ場合ト雖モ其旨ヲ記載シ差出スヘシ

第十九條 鑛業條例第三十九條ノ届書ハ鑛業ヲ廢止又ハ讓渡シタル場合ニ於テハ廢業又ハ讓渡ノ日ヨリ三十日以内ニ差出スヘシ

但シ届出ツヘキ事項ナキ場合ト雖モ其旨ヲ記載シ差出スヘシ

第二十條 鑛業條例第四十七條ニヨリ測量ノ認可ヲ受ケントスル者ハ測量スヘキ土地ノ地名ヲ明記シタル請求書ヲ差出スヘシ

但シ土地ノ所有者又ハ關係人ニ於テ承諾シタルトキハ認可ヲ受クルヲ要ス

第二十一條 鑛業條例第三十五條第三十六條又ハ第五十五條ニ依リ鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スルモノハ其理由ヲ記載シタル請求書ニ詳細ノ實測圖其他關係書類ヲ添へ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

鑛業條例第五十五條土地貸渡ノ場合ニハ前項書類ノ外建設スヘキ工事ノ設計書ヲ添フヘシ

第二十二條 鑛山監督署長前條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ對手人ニ通知シ相當ノ

期限ヲ定メ辯明書ヲ差出サシムヘシ

第二十三條 試掘人ハ試掘地實測圖ヲ採掘人ハ左ノ書類ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ

一 鑛區實測圖

二 坑内實測圖

三 鑛業施業案

四 鑛業條例第四十條ノ帳簿

第二十四條 鑛業人自ラ鑛業ヲ管理セサルトキハ代理人ヲ置キ其旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

前項代理人ノ權限左ノ如シ

一 鑛山監督署ヨリ發スル命令通知ヲ受クルコト

二 鑛業施業案ノ認可ヲ受クルコト

三 坑内實測圖ヲ差出スコト

四 鑛業條例第三十九條ノ届書ヲ差出スコト

五 鑛夫使役規則及鑛夫救恤規則ノ認可ヲ受クルコト

六 鑛業稅及鑛區稅ヲ納ムルコト

七 本則第十八條及第十九條ノ届書ヲ差出スコト

八 鑛業警察規則第十七條及第十九條ノ届書ヲ差出スコト

九 鑛業警察規則第十八條ノ場合ニ於テ必要ノ事務ヲ處辨スルコト



第二十五條 鑛業ヲ相續シタルモノハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ十五日以内ニ其旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

但探掘權ヲ相續シタル者其ハ届書ニ鑛業特許證ヲ添フヘシ

第二十六條 鑛業條例第三十條第三十三條第二項第三十四條第二項第四十三條第二項及第七十六條ニ依リ行政裁判所ニ出訴シタルトキ及同條例第三十四條第一項ニ依リ農商務大臣ニ訴願シタルトキハ七日以内ニ其旨所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第二十七條 鑛業ニ關スル書類ハ一通毎ニ一件ヲ限リ認ムヘシ  
試掘願探掘願試掘地若クハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル區域變更願ハ總テ一件毎ニ別封シ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ

前項ノ書類ヲ差出ストキハ發送郵便局ヨリ受付ノ年月日及時刻ヲ記入シタル受領書ヲ請置クヘシ

第二十八條 鑛業ニ關スル書類ヲ郵便ニテ差出タルトキハ發送郵便局消印ニ依リ差出ノ日時ヲ定ムルモノトス

試掘願探掘願試掘地若クハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル區域變更願ニ付キ日時ノ前後ヲ定ムルニハ前條第三項ノ日時ヲ以テス

但前條第三項ノ受領書ナキモノハ本條第一項ニ依ル

第二十九條 試掘又ハ探掘ノ廢業届書ハ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ  
廢業ノ日時ハ届書差出ノ日時ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 鑛業ニ關シ農商務省又ハ鑛山監督署ニ差出シタル書類ハ其下段ヲ強要スルヲ得ス

第三十一條 左ニ掲グル願書及請求書ハ之ヲ受理セス

一 明治二十七年勅令百號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用セサル願書又ハ請求書

二 圖面添屬ナキ試掘願探掘願試掘地若クハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル區域變更願

三 添屬圖面中出願區域不分明ナル試掘願探掘願試掘地若クハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル區域變更願

四 書留郵便ヲ以テ差出サ、ル試掘願探掘願試掘地若クハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル區域變更願

第三十二條 左ノ場合ニ於テハ出願ヲ無効トス

一 本則第二條ノ期限内ニ試掘地此實測圖ヲ差出サ、ル片

二 本則第八條ニ依リ所轄鑛山監督署長ノ定メタル期限内ニ修正若クハ補充ヲナサ、ル片

三 本則第十二條ノ期限内ニ鑛物標品又ハ證明書ヲ差出サ、ル片

四 正當ノ理由ナク本則第十三條ノ立會ヲ爲サ、ル片

五 出願地臨檢ノ際出願區域ヲ明示スル能ハサル片

六 添屬ノ實測圖實地ト著シク相違スルトキ

七 出願人ノ住所不分明ナルキ

第三十三條 鑛業條例第三十九條ノ届出ヲナサ、ル者本則第十三條第十四條第十八條又ハ第十九條ヲ犯シタル鑛業人ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 本則第二十三條(第二號ヲ除ク)第二十四條第一項又ハ第二十六條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十五條 本則第二十五條ヲ犯シタル者ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

附 則

第三十六條 鑛業條例施行以前ニ差出シタル試掘願書若クハ借區願書ニシテ同條例施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ總テ同條例ニ依ル採掘願書ト看做シ處分スヘシ

第三十七條 本則施行以前ニ差出シタル願書ニシテ本則施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ總テ本則ニ依レル願書ト看做シ處分スヘシ

第三十八條 本則ハ明治二十七年八月二十日ヨリ施行ス明治二十五年農商務省令第六號鑛業條例施行細則ハ同日限リ之ヲ廢止ス

書式(用紙美濃紙)

第一號(正副四通)

(此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ)

何鑛試掘認可願

何府縣國郡市町村大字

小字 全地(官地又ハ民地地種地目)

小字 ソ内(官地又ハ民地地種地目)

何坪

右ノ場所ニ於テ何鑛試掘致度候間認可相成度試掘地(略測實測)圖相添此段相願候也

住所族籍

年 月 日

願人 氏 名 印

但組合人アラハ連署連印スヘシ

何鑛山監督署長氏名殿

第二號(正副四通)

(此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ)

試掘出願中ニ係ル區域變更願

何府縣國郡市町村大字

小字 全地(官地又ハ民地地種地目)

小字 ノ内(官地又ハ民地地種地目)

何坪

明治何年何月何日試掘出願致置候處右ノ通更ニ區域變更致度ニ付試掘地(略測實測)圖相添此段相願候也

住所族籍

願人 氏 名 印

但組合人アラハ連署連印スヘシ

年月日

何鑛山監督署長氏名殿

第三號(正副四通)

(此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ)

(増區ニ係ル、減區ニ係ル、増減區ニ係ル)試掘地訂正願

何年何月何日認可第何號

一何府縣國郡市町村大字小字何坪

増若クハ減何郡市町村大字小字(官地又ハ民地地種地目)何坪

合計石クハ差引何坪

右ノ場所ニ於テ試掘致居候處何々(事由ヲ記ス)ノ爲メ區域訂正致度候ニ付認可相成度別紙訂正試掘地(零測實測)圖相添此段相願候也

住所族籍

鑛業人 氏 名 印

又ハ共同鑛業人總代氏名印

年月日

何鑛山監督署長氏名殿

第四號(正副二通)

(此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ)

試掘延期願

何年何月何日認可第何號

一何府縣國郡市町村大字小字何坪

右ノ場所ニ於テ試掘致居候處尙試掘繼續致候間延期認可相成度別紙(試掘ノ成蹟及事業ヲ竣ヘ難キ事由詳記)相添此段相願候也

住所族籍

鑛業人 氏 名 印

又ハ共同鑛業人總代氏名印

年月日

何鑛山監督署長氏名殿

第五號(正副五通)

(此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ)

何鑛採掘特許願

何府縣國郡市町村大字

小字 全地(官地又ハ民地地種地目)

小字 ノ内(官地又ハ民地地種地目)

可平

右ノ場所ニ於テ標本(若クハ證明書)ノ通り礦物存在候ニ付採掘致度候間特許相成度候

區(零測實測)圖相添此段相願候也

住所族籍

年月日

願人 氏

名 印

農商務大臣爵氏名殿

但組合人アラハ連署連印スヘシ

第六號(正副五通)

(此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ)

採掘出願中ニ係ル區域變更願

何府縣國郡市町村大字

小字 全地(官地又ハ民地地種地目)

小字 内(官地又ハ民地地種地目)

何坪

明治何年何月何日採掘出願致置候處右ノ通り更ニ區域變更致度ニ付鑛區(零測實測)圖相添此段相願候也

住所族籍

年月日

願人 氏

名 印

農商務大臣爵氏名殿

但組合人アラハ連署連印スヘシ

第七號(正副五通)

(此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ)

(増區ニ係ル、減區ニ係ル、増減區ニ係ル)鑛區訂正願

何年何月何日特許第何號

一何府縣國郡市町村大字小字何坪

増若クハ減何郡市町村大字小字(官地又ハ民地地種地目)何坪

合計若クハ差引何坪

右ノ場所ニ於テ採掘致居候處何々(事由ヲ記ス)ノ爲メ鑛區訂正致度候ニ付許可相成度別紙理由書、訂正鑛區(零測實測)圖及鑛業特許證相添此段相願候也

住所族籍

年月日

鑛業人 氏

名 印

農商務大臣爵氏名殿

又ハ共同鑛業人總代氏名印

第八號(正副三通)

(此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ)

鑛業條例第九十條ニ依レル採掘特許願

借第何號

何府縣國郡市町村大字何坪

右借區鑛業致居候處引續キ鑛業致度候間鑛業特許證御下付相成度鑛區實測圖及借區券

相添此段相願候也

年月日

住所族籍

鑛業人 氏 名 印

又ハ共同鑛業人總代氏名印

農商務大臣爵氏名殿

第九號(正副三通)

(此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ)

鑛區合併願

何年何月何日特許第何号

一何府縣國郡市町村大字小字何坪

何年何月何日特許第何號

一何府縣國郡市町村大字小字何坪

合計何坪

右鑛區合併致度候間許可相成度別紙合併鑛區實測圖並ニ鑛業特許證相添此段相願候也

住所族籍

鑛業人 氏 名 印

又ハ共同鑛業人總代氏名印

農商務大臣爵氏名殿

年月日

第十號(正副三通)

(此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ)

鑛區分割願

何年何月何日特許第何號

一何府縣國郡市町村大字小字何坪

此分割

何府縣國郡市町村大字小字(官地又ハ民地地種地目)何坪

何府縣國郡市町村大字小字(官地又ハ民地地種地目)何坪

右ノ通鑛區分割致候間許可相成度別紙分割鑛區實測圖相添此段相願候也

住所族籍

鑛業人 氏 名 印

又ハ共同鑛業人總代氏名印

農商務大臣爵氏名殿

第十一號(正副三通)

(此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ)

鑛業特許證書換願

何年何月何日特許何府縣國郡市町村

一第何號鑛業特許證

右採掘權今般賣買(若クハ讓與)ノ契約相整候ニ付鑛業特許證書換相成度特許證相添此段相願候也

年月日

住所族籍

名印

住所族籍

賣渡又ハ讓渡人

氏

名印

又ハ共同鑛業人過半数連署連印スヘシ

買受又ハ讓受人

農商務大臣爵氏名殿

第十二號(正副二通)

(此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ)

採掘權書入登錄願

何年何月何日特許第何號

一何府縣國郡市町村大字小字何坪

住所族籍

鑛業人

氏 名印

右今般何府縣國郡市町村大字番地何某ニ金何圓何十何錢ノ抵當トシテ書入契約相整候間登錄相成度契約書寫及鑛業特許證相添此段相願候也

又ハ共同鑛業人總代氏名印

共同鑛業人過半数連署連印スヘシ

債權者 氏 名印

但連帶債權者アルキハ連署連印スヘシ

何鑛山監督署長氏名殿

第十三號(正副三通)

(此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ)

鑛業特許證再下付願

何年何月何日特許第何號

一何府縣國郡市町村大字小字何坪

住所族籍

鑛業人

氏 名印

又ハ共同鑛業人總代氏名印

也

年月日

農商務大臣爵氏名殿

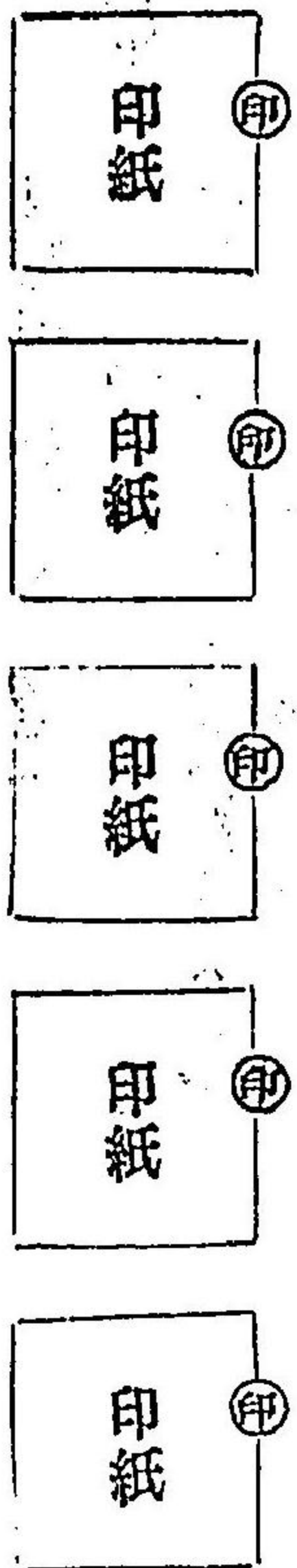
登錄稅上納書

一何々願(又ハ届) 右出願(又ハ届出)ニ付登錄稅法第四條第何號金何圓ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ差出候也

年月日

住所族籍  
願人(又ハ届人)氏

名 印



雛形(用紙美濃紙)  
第三號(正副六通)

明治何年鑛業施業案  
何府縣郡市町村大字小字  
何鑛山何願

(借區券特許證)番號(借區鑛區)并坪數

鑛業人 氏

又ハ共同鑛業人總代氏名

開坑ノ部

工程

- 何堅坑
- 何堅坑
- 何通氣坑
- 何運搬坑
- 何
- 何

(長幅)掘延何尺

計開坑切地

掘延地何尺

工數

延人員何人

實人員何人

- 坑夫
- 手子
- 支柱夫

全 全

全 全

車夫	全							
火夫	全							
機械夫	全							
雜夫	全							
運搬夫	全							
計	全							
原動機		(滾鐘或ハ水車)						
機關	全		何式					
機械	全							
通氣ノ方法								
排水ノ方法								
運搬ノ方法								
薪炭消費高								
記事 (堅坑橫坑通氣坑運搬坑等開鑿ノ目的方法及之レカ爲メ要スル處ノ機械卷揚機等ノ建築及其使用ノ方法ヲ詳記スヘシ)								
採鑛ノ部								
工程								
採鑛額								
何貫目								
何立方尺								

內 譯

何鑛	全							
何鑛	全							
工數								
坑夫	全							
手子	全							
支柱夫	全							
車夫	全							
火夫	全							
機械夫	全							
雜夫	全							
運搬夫	全							
計	全							
原動機		(滾鐘或ハ水車)						
機關	全		何式					
機械	全							
通氣ノ方法								
排水ノ方法								
薪炭消費高								
記事 (堅坑橫坑通氣坑運搬坑等開鑿ノ目的方法及之レカ爲メ要スル處ノ機械卷揚機等ノ建築及其使用ノ方法ヲ詳記スヘシ)								
採鑛ノ部								
工程								
採鑛額								
何貫目								
何立方尺								

最低含有高百分中何々

實人員何人

延人員何人

何臺

何馬力

何式

全

全

全

燃燒質瓦斯ノ有無

全

全

全

一分時間何立方尺

燃燒質瓦斯ノ有無

全

全

全



運搬ノ方法  
薪炭消費高

記事(採掘ノ方法及之カ爲要スル處ノ機械並ニ其建築及使用ノ方法ヲ詳記スヘシ)  
右之通り施業致度候間認可相成度候也

右

年月日

鑛業人 氏 名 印

又ハ共同鑛業人總代氏名印

何鑛山監督署長氏名殿

雛形(用紙美濃紙)

第四號(正副四通)鑛業條例第三十九條屆書

明治何年鑛業明細表

種 鑛	鑛位區鑛		特許 年月日	施業案 認可番號
	鑛區坪數			
人 業 鑛			住所族籍	
			何	某 印

鑛			
越	高	採 掘	高
製	元	煉	製
製	高	出	製
量	數	販	

事 記	工 数	品		
		高 残	賣 價	代 量
	数日			
	十二月三十日現在使役人員	品		
		高 残	賣 價	代 量

注 意

- 一 採掘高ノ欄ニハ撰鑛高ヲ記入シ製煉元鑛高ノ欄ニハ製煉ニ供シタル鑛品高ヲ記入ス
- 一 鑛品ハ貫テ單位トシ製品ノ内金、銀ハ及其他ハ斤ヲ單位トス但シ石炭ハ斤、石油ハ升、鐵類ハ貫ヲ單位トス
- 一 混合屬金(含金銅若クハ金銀銅ノ類)ハ含有成分ノ百分率ヲ朱書スヘシ
- 一 鑛區坪數ハ其年十二月三十一日現在ヲ記入スヘシ
- 一 施行細則第二十四條ニ係ル代理人ヨリ届出ルトキハ肩書ニ鑛業人何某代理ト記載シ且ツ願書ニ何年何月何日届濟ト明記スヘシ

縦形(用紙美濃紙)

第五號(鑛業條例第四十條帳簿)

種目	種類	種目					
		月一	月二	月三	月四	月五	月六
探 高		(七月)	(八月)	(九月)	(十月)	(十一月)	(十二月)
前月							
越 高							計

高入買	計合	製高煉	殘高	製出前	前月 ヨリ 越前 高	計合	販賣

三四

事記	高殘	代販 價賣

注意

一採掘高ハ貫テ單位トシ製出高ノ内金、銀ハ匁、其他ハ斤ヲ單位トス但シ石炭ハ斤、石油ハ升、鐵類ハ貫テ單位トス

●鑛業及砂鑛採取業ニ關スル手數料ノ件

(明治二十七年七月十二日勅令第百號)

第一條 鑛業及砂鑛採取業ニ關シ次ニ掲ケタル出願又ハ請求ヲ爲ス者ハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一 試掘認可願一件毎ニ金十圓 二 試掘出願中ニ係ル區域變更願一件毎ニ金五圓

三〇五

- 三 增區ニ係ル試掘地訂正願一件毎ニ金十圓
- 四 減區ニ係ル試掘地訂正願一件毎ニ金一圓
- 五 増減區ニ係ル試掘地訂正願一件毎ニ金十圓
- 六 試掘延期願一件毎ニ金五圓
- 七 試掘地ニ於ケル採掘特許願一件毎ニ金五圓
- 八 採掘特許願一件毎ニ金五圓
- 九 採掘特許出願中若クハ試掘地ニ於ケル採掘特許出願中ニ係ル區域變更願一件毎ニ金五圓
- 十 採掘特許出願中若クハ試掘地ニ於ケル採掘特許出願中ニ係ル名義書換願一件毎ニ金五圓
- 十一 増區ニ係ル鑛區訂正願一件毎ニ金十五圓
- 十二 減區ニ係ル鑛區訂正願一件毎ニ金五圓
- 十三 増減區ニ係ル鑛區訂正願一件毎ニ金十五圓
- 十四 鑛區ノ合併若クハ分割願一件毎ニ金五圓
- 十五 鑛業特許證書換願一件毎ニ金五圓
- 十六 採掘權書入登錄願一件毎ニ金三圓
- 十七 鑛業特許證再下付願一件毎ニ金十圓
- 十八 坑内實測圖證明請求一件毎ニ金十圓
- 十九 測量認可請求 件毎ニ金一圓
- 二十 砂金若クハ砂錫採取願六十萬坪迄毎ニ金十圓
- 廿一 河床ニ於ケル砂金若クハ砂錫採取願延長(幹流支流通算)五里迄毎ニ金十圓
- 廿二 鑛山監督署長ノ判定請求一件毎ニ金五圓
- 廿三 農商務大臣ノ裁定請求一件毎ニ金十圓
- 第二條 鑛業條例第九十條ニ依リ採掘特許出願シタル者ハ手数料金五圓ヲ納ムヘシ
- 第三條 手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

附 則

- 第四條 本令ハ明治二十七年八月二十日ヨリ施行ス
- 明治二十五年勅令第二十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

砂鑛採取法 (明治二十六年三月四日法律第十號)

- 第一條 此法律ニ於テ砂鑛トハ砂金、砂錫及砂鐵ヲ謂フ
- 第二條 砂鑛ヲ採取セント欲スル者ハ所轄鑛山監督署長ヲ經由シ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ
- 第三條 採取ノ事業ヲ讓渡サントスルルハ所轄鑛山監督署長ヲ經由シ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ
- 共同採取人中ニ於テ除名スルルルハ其人名字所轄鑛山監督署長ヘ届出ヘシ
- 第四條 帝國臣民ニ非サレハ採取人トナリ又ハ採取業ニ關スル組合員又ハ會社員トナルコトヲ得ス
- 採取人未成年、癡癩、白痴又ハ瘡癩ナルルハ後見人ヲ立ツヘシ
- 農商務省鑛山局及鑛山監督署ノ官吏ハ在職中採取人トナリ又ハ採取業ニ關スル組合員又ハ會社員トナルコトヲ得ス
- 第五條 採取區域内ノ土地他人ノ所有ニ係ルルハ所有者又ハ關係人ノ承諾ヲ受クヘシ
- 土地所有者又ハ關係人ハ自ラ採取ヲ出願スルトキノ外前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス但シ承諾ヲ與ルルルハ相當ノ砂鑛採取料ヲ要求スルコトヲ得
- 第六條 採取ノ事業公益ヲ害スト認ムルルハ農商務大臣ハ其出願ヲ許可セズ
- 第七條 採取ノ事業公益ニ害アルルルハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル許可ヲ取消ストヲ得
- 第八條 採取業上ニ危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スト認ムルルハ所轄鑛山監督署長ハ採取

人ニ其豫防ヲ命シ又ハ採取業ヲ停止スヘシ

所轄鑛山監督署長ニ於テ採取業ヲ停止セントスルキハ其猶豫シ難キ場合ヲ除クノ外ハ農商務大臣ノ認可ヲ經ヘシ

採取業ヲ停止シタル後其事故止ミタルキハ所轄鑛山監督署長ハ其停止ヲ解クヘシ

第九條 採取人前條ニ依リ命セラレタル豫防ヲ怠ルキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル許可ヲ取消スルヲ得

第十條 採取人正當ノ理由ナクシテ一箇年以上休業シ又ハ採取ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ一箇年以内ニ採取ニ着手セサルキハ農商務大臣ハ其許可ヲ取消スルヲ得

第十一條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ採取ノ許可ヲ得タルコトヲ發見シタルキハ農商務大臣ハ其許可ヲ取消スヘシ若シ其許可ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルキハ許可ノ日ヨリ三十日以内ニ其許可ヲ取消ヲ農商務大臣ニ請求スルヲ得

第十二條 第六條第八條第九條及第十條ノ處分ニ不服アルキハ其違ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルヲ得

第十三條 採取許可取消ノ處分ヲ受ケタル採取人ハ同一區域ニ付一箇年間採取ノ出願ヲ爲スルヲ得ス

第十四條 左ノ場合ニ於テ採取人他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トシ其貸渡ヲ請求シタルキハ其土地所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス  
一洗鑛ノ爲 一製煉所建設ノ爲 一洗滌用水路及溜池開設ノ爲

第十五條 採取人ハ使用スル土地ニ對シ其土地所有者ニ相當ノ借地料ヲ仕拂フヘシ

其質入トナリタル土地ニ對スル借地料ハ質取主ニ於テ之ヲ受領スルモノトス  
土地使用ニ依リ貸渡人又ハ關係人ニ損害ヲ加フルキハ採取人ハ之ニ對シ相當ノ賠償ヲ爲スヘシ

第十六條 採取人借地料ノ仕拂ヲ延滞シタルキハ土地所有者ハ其土地ヲ取戻スルヲ得

第十七條 第十三條ノ場合ニ於テ採取人五箇年以上土地ヲ使用スルキハ其土地所有者ハ土地ノ買取ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ採取人ハ其買取ヲ拒ムコトヲ得

第十八條 採取人ノ請求ニ依リ土地ヲ分割シテ賣渡シ又ハ貸渡シタルカ爲メ殘地ノ利用ヲ害スルキハ土地所有者ハ採取人ニ對シ其土地全部ノ買取若クハ借受ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ採取人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十九條 土地所有者又ハ關係人ト採取人トノ間ニ於テ土地貸渡、採取料、借地料、損害賠償金又ハ土地賣買代金ニ付協議調ハサルキハ所轄鑛山監督署長ニ其判定ヲ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其判定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ土地貸渡ニ就テハ農商務大臣ニ其判定ヲ請求シ採取料、借地料、損害賠償金若クハ土地賣買代金ニ就テハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得ス

第二十條 所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定請求ノ爲ニ要スル費用ハ民事

訴訟費用ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第廿一條 採取人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄鑛山監督署長ノ判定シタル採取料借地料、損害賠償金又ハ土地買代金ニ不服アルモ其金額ヲ土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若シ之ヲ受ケサルトキハ其金額ヲ供託所ニ預置キ土地ヲ使用スルコトヲ得

第廿二條 許可ヲ得スシテ採取ヲ爲シタル者又ハ詐偽ニ由リテ許可ヲ得タル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第廿三條 此法律施行以前ニ許可ヲ得タル採取人ハ此法律ニ依リ引續其業ヲ爲スコトヲ得  
第廿四條 砂鑛採取ノ警察其他國土保安ニ關シ必要ナル規定及此法律ノ施行細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第廿五條 此法律ハ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス

●砂鑛採取法施行細則 (明治二十七年七月二十四日農商務省令第七號)

第一條 砂鑛採取ノ願書ハ第一號又ハ第二號書式ニ從ヒ之ヲ認メ第一號又ハ第二號雛形ニ依リ調製シタル採取區域ノ實測圖ヲ添ヘ明治廿七年勅令第百號ノ手数料額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ差出スヘシ但砂鑛採取ノ願書ニハ登記印紙ヲ貼用スルヲ要セス  
第二條 採取區域内ノ土地他人ノ所有ニ係ルトキハ採取願書ニ土地所有者又ハ關係人ノ承諾書ヲ添フヘシ若シ承諾ヲ得ル能ハサルトキハ其旨ヲ記シタル書面ヲ添フヘシ

土地所有者又ハ關係人砂鑛採取ノ出願ヲ承諾セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以内ノ期限ヲ定メ其土地所有者又ハ關係人ニ採取願書ノ差出ヲ命スヘシ若シ此期限内ニ願書ヲ差出サ、ルトキハ出願セサルモノト看做スヘシ

第三條 鑛山監督署長砂鑛採取ノ願書ヲ受理シタルトキハ五日以内ニ之ヲ出願地所在ノ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ土地ノ狀況ニ依リ特別ノ理由アル場合ヲ除クノ外三十日以内ニ採取ノ事業公益ニ害アルヤ否及出願地ノ字名公簿ニ符合スルヤ否並ニ出願地所有者ノ住所氏名ヲ取調ヘ其意見ヲ農商務大臣ニ上申スヘシ

第四條 砂鑛採取ニ關スル願書若クハ圖面不完備ナルトキハ所轄鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ修正若クハ補充スヘシ

第五條 砂鑛採取人及砂鑛採取ノ出願人所轄鑛山監督署ヨリ實地調査ノ爲メ立會ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ期日ニ立會フヘシ

第六條 砂鑛採取人及砂鑛採取ノ出願人所轄鑛山監督署長ヨリ圖面又ハ書類ノ差出ヲ命セラルタルトキハ指定ノ期日内ニ之ヲ差出スヘシ

第七條 願書願書請求書及圖面ニ代印セシムルトキハ之ニ委任狀ノ正本ヲ添フヘシ

第八條 砂鑛採取法第十條ニ依リ採取許可ノ取消ヲ請求スル者及同法第十八條ニ依リ所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スル者ハ其理由ヲ記載シタル請求書ニ關係書類ヲ添ヘ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第九條 鑛山監督署長前條ノ請求ヲ受理シタルトキハ之ヲ對手人ニ通知シ相當ノ期限ヲ

定メ辨明書ヲ差出サシムヘシ

第十條 採取人ハ毎年二月第三號雜形ニ從ヒ調製シタル前年中ノ採取業明細表ヲ所轄鑛

山監督署ニ差出スヘシ

採取人廢業シタルトキハ三十日以内ニ前項ノ明細表ヲ差出スヘシ

第十一條 採取業ヲ相續シタルモノハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ十五日以内ニ其旨ヲ所轄

鑛山監督署ニ届出ヘシ

第十二條 採取人廢業シタルトキハ其旨ヲ所轄鑛山監督署長ニ届出ヘシ

第十三條 砂鑛採取ニ關スル書類ヲ郵便ニテ差出シタルトキハ發送郵便局消印ニ依リ差

出ノ日時ヲ定ムルモノトス

第十四條 砂鑛採取ニ關シ農商務省又ハ鑛山監督署ニ差出タル書類ハ其下戻ヲ強要スル

コトヲ得ス

第十五條 左ニ掲クル願書及請求書ハ之ヲ受理セス

一 明治二十七年勅令第百號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼付セサル願書又ハ

請求書 二 採取地實測圖ノ添屬ナキ願書 三 土地所有者又ハ關係人ノ承諾書

若クハ其承諾ヲ得ル能ハサル旨ノ書面ヲ添ヘサル願書 四 添屬圖中出願區域不分

明ナル願書

第十六條 左ノ場合ニ於テハ其出願ヲ無効トス

一 本則第四條ニ依リ所轄鑛山監督署ノ定メタル期限内ニ修正若クハ補充ヲ爲サ、ル

トキ 二 正當ノ理由ナクシテ本則第五條ノ立會ヲ爲サ、ルトキ 三 出願地臨

檢ノ際出願區域ヲ明示スル能ハサルトキ 四 添屬ノ實測圖實地ト著ク相違スルキ

第十七條 本則第五條又ハ第六條ヲ犯タル砂鑛採取人ハ二圓以上廿圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 本則第十條ヲ犯シタル砂鑛採取人ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十九條 本則第十一條ヲ犯シタル者ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

附 則

第二十條 砂鑛採取法施行以前ニ差出タル砂鑛採取願書ニシテ同法施行ノ日マテニ處分

ヲ終ラサル者ハ總テ同法ニ依レル願書ト看做シ處分スヘシ

第二十一條 本則施行以前ニ差出シタル砂鑛採取願書ニシテ本則施行ノ日マテニ處分ヲ

終ラサルモノハ總テ本則ニ依レル願書ト看做シ處分スヘシ

第二十二條 本則ハ明治二十七年八月二十日ヨリ施行ス明治二十六年農商務省令第八號

砂鑛採取法施行細則ハ同日限り之ヲ廢止ス

書式(用紙美濃紙)

第一號(正副四通)

(此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ、但砂鑛採取願ニハ印紙貼用ニ及ハス)

砂(金)(錫)(鐵)採取願

何府縣國郡市町村大字

小字 空地(官地又ハ民地地種地目)  
小字 内(官地又ハ民地地種地目)

台ノ場所ニ於テ砂(金)(錫)(鐵)存在候ニ付採取致度候間許可相成度實測圖相添此段相願候也

年月日

住所族籍 願人 氏

但組合人アラハ連署連印スヘシ

農商務大臣爵氏名殿

第二號(正副四通)河床ニ於ケル採取願ノ分  
(此處ニ登記印紙ヲ貼用シ清印スヘシ)但砂鐵採取願ニハ印紙貼用ニ及ハス

砂(金)(錫)(鐵)採取願  
何川筋(何府縣國郡市町村大字小字ヨリ何府縣國郡市町村大字小字ニ至ル)

延長何里何町何間(幹流支流ヲ通算スヘシ)  
台ノ場所ニ於テ砂(金)(錫)(鐵)存在候ニ付採取致度候間許可相成度實測圖相添此段相願候也

年月日

住所族籍 願人 氏

但組合人アラハ連署連印スヘシ

農商務大臣爵氏名殿

●鑛業警察規則 (明治二十五年三月十六日內務省令第七號)

第一條 鑛夫五十人以上ヲ同時ニ入坑セシムル鑛山ニハ坑内ノ奥部ニ於テ連續シ且ツ何時ニテモ出入シ得ヘキ裝置ヲ爲シタル二箇以上ノ坑口ヲ設クヘシ但何時ニ入坑セシムル鑛夫五十人未滿ノ鑛山下雖モ鑛山監督署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ本文ノ坑口ヲ

設ケシムルコトアルヘシ

第二條 堅坑ノ坑口ニハ安全柵ヲ設ケ卷揚堅坑中人音ノ達セサル場所ニハ通信機ヲ設クヘシ

第三條 卷揚臺ヲ用ヒテ人ヲ昇降セシムル堅坑ニハ板圍アル堅牢ノ梯子道ヲ設クヘシ

第四條 堅坑内ニ架設スヘキ梯子ノ傾斜ハ八十度以内トシ少クトモ三十尺毎ニ階柵ヲ設クヘシ

第五條 人ヲ昇降セシムル卷揚臺ニハ上蓋ヲ備フヘシ

前項ノ卷揚臺ニ用ヒル繩綱ハ少クモ重量ノ十倍ニ耐ユルモノヲ要シ昇降ノ速力ハ一分時間ニ六百尺ヲ超ユルコトヲ得ス(此條ハ元第六條ナリシカ廿六年三月農商務省々々第

七號ヲ以テ第五條ヲ削ルト同時ニ第五條トシ以下順ニ繰上ヲ爲シ且改正ヲ加ヘタリ)  
第六條 人ヲ通行セシムル鑛内自轉車道及機械卷揚道ニハ軌道ノ一方ニ通行ニ差支ナキ

人道ヲ設クヘシ(同上省令ニテ改正ヲ加フ)

前項ノ人道ヲ設ケサルトキハ軌道ノ傍側ニ於テ便宜避害所ヲ設ク白色ニ塗り置クヘシ(同上而シテ第三項ノアリシヲ削レリ)

第七條 交通運搬ニ供スル坑道ハ幅三尺高五尺以上タルヘシ

第八條 坑内ニハ鑛夫ノ衛生上必要ナル分量ノ新鮮空氣ヲ給送スヘシ

第九條 破裂瓦斯ヲ發出スル石炭坑ニ於テハ鑛山係員ヲシテ安全燈ヲ携ヘ鑛夫就業前ニ坑内各工場ヲ巡視シ若シ危險ノ處アルハ相當ノ豫防法ヲ施行スルニ非サレハ鑛夫ヲ



入坑セシムルヲ得ス

第十條 安全燈ハ鑛夫ノ入坑毎ニ破損其他危險ノナキヤ否ヤヲ検査シ鎖鑰ヲ施シタル後ニ非サレハ鑛夫ニ渡スヲ得ス

鑛夫ハ安全燈ヲ開クヲ得ス(本條ハ元ト第十二條ナリシカ全上省令ニテ第十一條ヲ削除シタル爲メ第十條ト爲リ以下繰上ケラレタリ)

第十一條 安全燈ヲ用ユル坑内ニ於テハ鑛夫ハ發火具ヲ携帯スルヲ得ス

第十二條 鑛業人ハ一日間ノ使用見積高ヨリ多量破裂藥ヲ鑛夫ニ渡スヲ得ス

使用ノ後殘餘アル片ハ出坑ノ節坑口ニ於テ還付セシムヘシ

第十三條 裝藥ノ際鐵製込棒ヲ使用スルヲ得ス又込土ハ粘土其他發火ノ虞ナキ土類ノ

外使用スルヲ得ス導火線ニ點火スルモ破裂セサルトキハ點火後少クモ十五分間ハ同

場所ニ近寄ルヲ得ス

前項ノ場合ニ於テハ其破裂藥ハ之ヲ掘出スヲ得ス

第十四條 鑛業ニ使用スル烟突汽鐘發電機又ハ鑛鑛所ヲ新設セントスルトキハ使用ノ目的ヲ記シタル設計書ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ(同上省令ニテ本

條追加)

第十五條 同一鑛區内ニ於テ二人以上ノ鑛業人各自ニ試掘若クハ探掘ノ許可ヲ得タル鑛

物ノ鑛脈交叉スルトキハ各鑛業人ハ互ニ鑛利ヲ損セサル様協議ノ上試掘又ハ探掘スヘ

シ若シ協議整ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ノ指定スルトコロニ依ルヘシ

第十六條 試掘ノ認可若クハ探掘ノ特許ヲ取消サレタルトキ又ハ廢業シタルトキハ危險

ノ虞アル坑口ヲ閉塞シ後害ナキ様修理スヘシ

第十七條 鑛業條例第五十九條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人危險ノ豫防ヲ完成シタルトキ

ハ所轄鑛山監督署ニ届出ヘシ

第十八條 農商務省鑛山局員及鑛山監督署員ハ鑛業ヲ監視シ若クハ鑛業ニ關スル總テノ

帳簿ヲ査閱スルヲ得

第十九條 鑛山ニ於テ不時ノ變災アリタルトキハ鑛業人ハ直ニ所轄鑛山監督署ニ其事由

ヲ届出ヘシ

第二十條 鑛業條例第六十四條第二項ノ鑛夫使役規則及同條例第七十二條ノ救恤規則ハ

鑛夫ノ見易キ場所ニ掲ケ置クヘシ

第二十一條 鑛山ノ狀況ニ依リ本則第一條第三條又ハ第四條ノ規定ヲ實施シ難キ片ハ理

由ヲ具シ所轄鑛山監督署長ニ出願シ其免許ヲ受クヘシ(同上省令ニテ本條追加)

第二十二條 本則ニ違反シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 本則實施以前ニ許可ヲ得タル鑛山ニシテ本則ニ違フモノハ明治二十五年九

月三十日迄ニ相當期限ヲ定メ實施ノ延期ヲ所轄鑛山監督署長ニ出願スヘシ

前項ノ期限ハ本則實施ノ日ヨリ五箇年ヲ超過スルヲ得ス

第二十四條 本則ハ鑛業條例實施ノ日ヨリ施行ス

◎砂鑛採取出願手續

第一條 明治十二年工部省布達第十四號ニ依ル砂鑛採取出願書及圖面ハ自今所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

第二條 前條ニ依リ出願ヲ爲シタル者ハ三日以内ニ願書及圖面ノ寫ヲ添ヘ採取地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

地方長官採取ノ事業公益ニ害アリト認ムルトキハ前項ノ願書ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其意見ヲ農商務大臣ニ上申スヘシ

◎鑛業條例實施前提出ノ出願書同條例實施後調査上申方

鑛業條例實施以前ニ提出シタル左記ノ出願ニ就テハ同條例實施後ニ至ルモ尙ホ従前ノ手續ニ依リ調査ノ上本大臣ニ上申スヘシ

一 試掘及借區願 一 試掘又ハ借區ノ増減區願 一 試掘延期願 一 試掘又ハ借區ノ相繼讓及借除名願 一 試掘願又ハ借區許可取消願

◎上申書回送方

鑛業條例施行細則第七條及明治二十五年農商務省訓令第四號ノ上申書ハ所轄鑛山監督署ニ回送スヘシ

◎官有地試掘若クハ採掘スルノ手續

試掘若クハ採掘ノ出願御料地若クハ官有地ニ係ルトキハ主管官廳ニ協議ヲ遂クヘシ

◎共同鑛業出願及共同鑛業總代規則

(農商務省令第七號)

第一條 二人以上共同シテ試掘、採掘又ハ採掘權ノ買受、讓受ヲ出願スルモノハ總代一名ヲ選定シ出願ト同時ニ所轄鑛山監督署ニ届出スヘシ

總代ハ出願ノ取消、出願區域ノ變更及名義變更ヲ除ク外共同出願人ヲ代表スルモノトス

第二條 前條出願總代ノ届出ヲナサ、ルトキハ初等出願人ヲ以テ出願總代ト看做ス

第三條 鑛業條例第六條ノ總代届書ハ試掘認可、採掘許可、又ハ名義變更ノ日附ヨリ三十日以内ニ差出スヘシ

前項期限内ニ總代届ヲ差出サ、ルトキハ共同出願總代ヲ以テ鑛業總代ト看做ス

第四條 本令施行以前ノ共同出願人ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ出願總代ヲ定メ届出ツヘシ

第五條 共同試掘人ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ總代ヲ定メ届出ツヘシ

第六條 本令ハ明治廿九年九月一日ヨリ施行ス

蠶種検査法

- 第一條 此ノ法律ニ於テ蠶種ト稱スルハ原種及製絲用種ノ越年スルモノヲ謂フ
- 第二條 原種ハ框製ニスヘシ
- 第三條 蠶種ハ左ニ掲クル繭ヲ以テ之ヲ製造スルコトヲ得ス
  - 一 二蠶以上合同シテ作リタル繭
  - 二 繭層片薄ナル繭若ハ形狀ヲ失スルコト著シキ繭
  - 三 繭層薄弱ニシテ繭ノ全量百ニ對シ繭層ノ量春蠶ニ在リテハ八夏秋蠶ニ在リテニ六ニ達セサルモノ
- 第四條 蠶種リ原種ヨリ產生シタル繭ヲ用キルニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ズ
- 第五條 蠶種製造者ハ收繭後及産卵後ノ二期ニ於テ原種ニ在リテハ繭蛾卵製絲用種ニ在リテハ繭卵ノ検査ヲ受クヘシ
- 第六條 第三條ニ掲ケタル繭ハ收繭後ノ検査ヲ經ルマテ之ヲ保存スヘシ  
原種ノ掃殼蠶種ノ製造ニ供用シタル繭及原種ノ製造ニ供用シタル母蛾ハ産卵後ノ検査ヲ經ルマテ之ヲ保存スヘシ
- 第七條 此ノ法律施行ノ地方ニ於テハ検査合格ノ證印ナキ蠶種ヲ賣渡シ又ハ護渡スコトヲ得ス
- 第八條 此ノ法律施行ノ地方ニ於テ必要アリテ認メタルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律施行地以外ニ於テ製造シタル製絲用種ノ買受又ハ護受ヲ認許スルコトヲ得

コトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ卵ノ検査ヲ受ケシムヘシ

第九條 地方長官ハ蠶種検査員ヲシテ養蠶期中蠶種製造者ニ就キ掃立蠶量ノ多寡生育ノ狀況及病蠶ノ有無ヲ視察セシムルコトヲ得

蠶種製造者ハ前項ノ視察ヲ拒ムコトヲ得ス

第十條 蠶種検査員其ノ職務ヲ行フトキハ證票ヲ携帯スヘシ

第十一條 蠶種検査員ハ自己若ハ家族ノ製造スル蠶種ノ検査ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 蠶種検査ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス但シ國庫ハ其ノ半額以内ヲ補助スルコトヲ得

コトヲ得

北海道廳及沖繩縣ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第十三條 地方長官ハ土地ノ情況ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律ヲ施行セサルコトヲ得

コトヲ得

第十四條 第三條第四條第五條第七條及第八條第二項ニ違背シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條ニ違背シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第九條第二項ニ違背シタル者ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十七條 此ノ法律中蠶種ノ製造及検査ニ關スル規定ハ自家用ノ蠶種ノミヲ製造スル者ニ適用セス

第十八條 學術研究、爲農商務大臣又ハ地方長官ノ承認ヲ得蠶種ヲ製造スル者及其ノ製造シタル蠶種ニハ本法ヲ適用セス但シ賣渡スユトテ得ス

第十九條 検査方法及此ノ法律施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第二十條 此ノ法律ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス但シ第二條ノ規定ハ此ノ法律施行後一箇年間之ヲ適用セス

第二十一條 明治十九年農商務省令第九號蠶種検査規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

●種牡馬検査法

第一條 牡馬ハ此ノ法律ニ依リ検査ヲ受ケ合格シタルモノニアラサレハ種付ケニ使用スルコトヲ得ス

第二條 検査ニ合格シタル種牡馬ハ軀肢ノ一部ニ烙印シ其ノ所有者ニ證明書ヲ下付スヘシ

第三條 證明書ノ効力ハ滿一箇年トス

前項期限内ト雖疾病其ノ他ノ事故ニ因リ種牡馬ニ不適當ナリト認メタルトキハ證明ノ効力ヲ停止シ若ハ之ヲ取消スコトアルヘシ

第四條 検査ニ關スル費用ハ國庫ノ負擔トス

第五條 此ノ法律ハ官廳所有ノ種牡馬ニ適用セス

第六條 學術研究ノ爲牡馬ヲ種付ケニ使用セムトスル者アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經特ニ其ノ種付ケヲ許可スルコトアルヘシ

第七條 検査ニ合格セサル牡馬又ハ證明ノ効力ヲ失ヒ若ハ停止セラレタル種牡馬ヲ種付ケニ使用シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 種牡馬検査ノ標準及方法検査委員ノ組織其ノ他此ノ法律施行ノ爲必要ノ規程ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第九條 此ノ法律施行以前ニ與ヘタル種牡馬ノ免許ハ其ノ免許期限間効力ヲ有スルモノ

トス

第十條 此ノ法律ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

●銀行條例

- 第一條 公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲替事業ヲ爲シ又ハ諸預リ及貸付ヲ併セ爲ス者ハ何等ノ名稱ヲ用ユルニ拘ラス總テ銀行トス
- 第二條 銀行ノ事業ヲ營マントスル者ハ其資本金額ヲ定メ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第三條 銀行ハ每半箇年營業ノ報告書ヲ製シ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ送付スヘシ
- 第四條 銀行ハ每半箇年財産目錄貸借對照表ヲ製シ新聞其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ
- 第五條 銀行ノ營業時間ハ午前第九時ヨリ午後第三時迄トス但營業ノ都合ニ依リ之ヲ増加スルヲ得
- 第六條 銀行ノ休日ハ大祭日祝日日曜日及銀行營業地ニ行ハル、定例ノ休日トス但止テ得サル事故アルトキハ地方長官ニ届出テ豫メ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ公告シタル上休業スルヲ得
- 第七條 大藏大臣ハ何時タリトモ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ銀行ノ業務ノ實況及財産ノ現況ヲ検査セシムルヲ得
- 第八條 第二條ノ規定ニ違反シ大藏大臣ノ認可ヲ受ケスシテ銀行事業ヲ營ミタル者ハ商法第二百五十六條ノ例ニ依テ處分ス
- 第九條 銀行ニ於テ第三條ノ報告若クハ第四條ノ公告ヲナサス又ハ其報告中若クハ公告

中ニ詐偽ノ陳述ヲナシ若クハ事實ヲ隱蔽シタル時ハ商法第二百六十二條ノ例ニ依テ處分ス

第八條ノ検査ヲ受クルト拒ミタルトキハ商法第二百五十八條ノ例ニ依テ處分ス  
第十條 此條例ハ日本銀行橫濱正金銀行國立銀行ニ適用セス

### ●銀行條例施行細則

#### 第一章 銀行ノ設立

##### 第一節 合名會社及合資會社

第一條 合名會社ノ組織ヲ以テ銀行ノ事業ヲ營ントスル者ハ營業科目資本金額並ニ存立時期ヲ定メタルルキハ其時期ヲ記載シタル願書ニ會社契約及左ノ事項ヲ記載シタル參考書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クルヘシ  
第一會社ノ社名及營業所 第二各社員ノ氏名 第三開業セントスル年月日 第四事務擔當社員ヲ特ニ定メタル其氏名及住所 第五支店ヲ置クルキハ其場所及名稱  
第二條 合資會社ノ組織ヲ以テ銀行ノ事務ヲ營ントスル者ハ營業科目資本金額並ニ存立時期ヲ定メタルルキハ其時期ヲ記載シタル願書ニ會社契約及左ノ事項ヲ記載シタル參考書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

第一各社員ノ出資額 第二會社ノ社名及營業所 第三各社員ノ氏名 第四開業セントスル年月日 第五無限責任社員アルルキハ其氏名 第六業務擔當社員及住所

第七支店ヲ置クルキハ其場所及名稱

第三條 合名會社合資會社ハ大藏大臣ノ認可ヲ得テ設立シタルルキハ事業着手前商法第七十九條又ハ同法第卅八條ノ事項ヲ登記スル手續ヲナスヘシ

第四條 合名會社合資會社營業科目資本金額及存立時期ヲ變更セントスルルキハ地方長官ヲ經由シ更ニ願書ヲ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

會社契約及參考書ニ掲ケタル事項ニ變動アルルキハ地方長官ヲ經由シ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第五條 前條ニ依リ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ商法第八十條ノ登記ヲ要スルルキハ認可ヲ得タル後七日以内ニ其登記ヲ受クヘシ

第六條 合名會社合資會社ハ認可並ニ登記ヲ要スル事項ニツキテハ大藏大臣ノ認可ヲ受クルモ商法第七十八條又ハ同法第八十條ノ登記ヲ受ケサルカ若シクハ同法第八十二條ニ依リ登記ノ効ヲ失ヒタルルキ其認可ノ効力ヲ生セサルモノトス

##### 第二節 株式會社

第七條 株式會社ノ組織ヲ以テ銀行事業ヲ營ントスルモノハ四人以上ノ發起人連署捺印シテ目論見書及ヒ假定款ヲ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ發起ノ認可ヲ受クヘシ  
第八條 創業總會ノ終リシ後發起人ハ營業科目資本金額並ニ存立時期ヲ定メタルルキハ其

時期ヲ記載シタル願書ニ目論見書、定款、株式申込簿、發起ノ認可證及ヒ左ノ事項ヲ記載シタル參考書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一會社ノ社名及ヒ營業所 第二取締役ノ氏名及ヒ住所 第三開業セントスル年月日 第四支店ヲ置クトキハ其場所及名稱

第九條 株式會社設立ノ認可ヲ得テ發起人ヨリ事務ノ引渡ヲナシタル片ハ取締役ハ定款ノ定ムル處ニ從ヒ株主ヲシテ株金ノ拂込ヲナサシムルヘシ

前項ノ拂込金額各株式ノ四分ノ一以上ニ達スル時ハ事業着手前ニ商法第六十八條ニ依リ登記ノ手續ヲナスヘシ

第十條 株式會社營業科目資本金額及存立時期ヲ變更セントスル片ハ地方長官ヲ經由シ更ニ願書ヲ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

會社定款及參考書ニ掲ケタル事項ニ變動アル片ハ地方長官ヲ經由シ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十一條 株式會社ハ前條ニ依リ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ商法第貳百十條ノ登記ヲ要スル片ハ認可ヲ得タル後直ニ其登記ヲ受クヘシ

第十二條 株式會社ハ認可並ニ登記ヲ要スル事項ニツキテハ大藏大臣ノ認可ヲ得ルモ商法第六十八條又ハ同法第二百十條ノ登記ヲ受ケサルカ若クハ同法百七十條及第八十二條ニ依リ登記ノ効ヲ失ヒタル片ハ其認可効力ヲ生セサルモノトス

第三節 各人

第十三條 各人ニ於テ銀行ノ事業ヲ營ントスル片ハ營業科目並ニ資本金額ヲ記載シタル願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル參考書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

第一營業所 第二開業セントスル年月日 第三支店ヲ置ク片ハ其場所及名稱 第十四條 營業科目及資本金額ヲ變更セントスル片ハ地方長官ヲ經由シ更ニ願書ヲ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

參考書ニ掲ケタル事項ニ變動アル片ハ地方長官ヲ經由シ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ 第二章 營業

第十五條 銀行ハ營業上一切ノ取引ニ使用スル印章ヲ定メ其印鑑ハ地方長官ヲ經由シ之ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ改印スル片モ亦同シ

第十六條 本店及支店ニ於テ營業ヲ開始スル片ハ地方長官ヲ經由シ其期日ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十七條 銀行ハ其名稱ヲ掲牌ニ記載シ營業時間中ハ是ヲ其銀行ノ店前公衆ノ目ニ觸レ易キ所ニ掲クヘシ

第十八條 銀行ニシテ仕拂ヲ停止スル片ハ地方長官ハ其事由ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第十九條 各人ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムモノ其營業ヲ廢止スルカ又ハ破産ヲ宣告セラレタルモノアル片ハ地方長官ハ其年月日及事由ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第二十條 合名會社合資會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムルモノ其營業ヲ廢止スルカ又ハ解散スルルハ地方長官ハ其年月日及事由ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第二十一條 株式會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムモノ其營業ヲ廢止スルカ又ハ破産ヲ宣告セラレタルモノアルルハ地方長官ハ其年月日及事由ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

商法第二百卅四條及同法貳百五十五條第二項ノ届出ハ地方長官ヲ經由シ之ヲ大藏大臣ニ差出ツヘシ

第二十二條 地方長官ハ銀行ニシテ法令ニ違反スルモノアリト認ムルルキハ其事狀ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告シ其指揮ヲ受クヘシ

第三章 報告及公告

第二十三條 銀行條例第三條及第四條ノ半箇年ハ毎年一月ヨリ六月迄及ヒ七月ヨリ十二月迄トシ之ヲ銀行營業年度トス

第二十四條 銀行條例第三條ノ營業報告書ハ附屬形ニ準シテ製調シ毎營業年度經過後一箇月以内ニ之ヲ發送スヘシ但シ遠隔ノ地ニ支店ヲ有シ本條ノ期日內ニ報告書ヲ發送スル能ハサルモノハ地方長官ヲ經由シ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受ク其期日ヲ定ムルヲ得

第二十五條 銀行ハ前條ノ報告書ヲ發送スルト同時ニ銀行條例第四條ノ公告ヲナスヘシ

第二十六條 銀行ノ營業所アル地方ニ於テ刊行スル新聞紙アルルハ他地方ノ新聞紙ニ公告スルト否トニ拘ラス所在地方ノ新聞紙ニ公告スルヲ要ス

銀行ノ營業所アル地方ニ刊行ノ新聞紙ナキルハ最寄地方又ハ取引先多キ地方ノ新聞紙ニ公告シ猶營業所ノ店前ニ揭示シテ公告スヘシ

第二十七條 銀行條例第七條但書ニヨリ休業セントスルモノハ少ナクモ三日以前ニ届出テ同時ニ銀行ノ營業所アル地方ニ於テ刊行スル新聞紙ニ公告スヘシ銀行ノ營業所アル地方ニ刊行ノ新聞紙ナキルハ營業所ノ店前其他公衆ノ目ニ觸レ易キ場所ニ少ナクモ三日前ヨリ公告スヘシ

第二十八條 銀行ヨリ大藏大臣ニ差出スヘキ書類ハ總テ地方長官ヲ經由スヘシ地方長官ハ前項ノ書類ヲ調査シ意見アルルハ之ヲ添付シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 検査

第二十九條 銀行條例第八條ニ依リ検査ヲ爲スルハ其検査ヲ命セラレタル官吏ハ検査官タル證書ヲ携帯スヘシ

第三十條 銀行ハ検査官ニ於テ検査ノ上必用トスル營業用ノ金匣財産現在高帳簿及ヒ總テノ書類ハ其要求ニ應シテ之ヲ示シ又ハ説明ヲナスヘシ

第三十一條 検査官検査ヲ終了シタルルハ其検査ノ顛末ヲ速ニ大藏大臣ニ報告スヘシ

第五章 補則

第三十二條 銀行條例實施前ヨリ既ニ設立シタル株式會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムモノ銀行條例施行後ニ其事業ヲ繼續セントスルルハ商法施行條例第十條ニ依リ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ



第三十三條 銀行條例實施前ヨリ既ニ設立シタル合名會社合資會社又ハ各人ニシテ銀行  
 事業ヲ營ムモノ銀行條例施行後ニ其事業ヲ繼續セントスルトキハ本規則第一條第二條  
 又ハ第十三條出願ノ手續ニ準據シ本年六月三十日迄ニ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ届  
 出ツヘシ  
 前項届出ヲナサル、モノハ總テ新ニ其事業ヲ開始スルモノト見做スヘキヲ以テ本規則  
 第一章ノ規定ニ依リ認可ヲ受クヘシ

●營業滿期國立銀行處分法

(法律第七號)

- 第一條 國立銀行ニシテ營業滿期後國立銀行條例第十二條ニ依リ私立銀行ノ資格ヲ以テ  
 營業ヲ繼續セムトスルモノハ營業滿期ノ日ヨリ三箇月以前ニ營業繼續及定款改正ノ決  
 議ヲ爲シ其ノ改正定款ヲ添ヘ大藏大臣ニ營業繼續ノ許可ヲ請フヘシ
- 第二條 前條ノ國立銀行ニシテ資本金額ヲ減少シテ營業ヲ繼續セムトスルモノハ國立銀  
 行條例第四十三條及第四十四條ノ手續ヲ了シタル上前條ニ依リ營業繼續ノ許可ヲ請フ  
 ヘシ但シ同條例第十七條ノ制限ヲ適用スル限ニ在ラス
- 第三條 營業繼續及定款改正ノ決議ハ國立銀行條例第六十九條格段決議ノ方法ニ依ル
- 第四條 營業滿期ニ至リ營業ヲ繼續セサル國立銀行ノ解散手續ニ關シテハ商法株式會社  
 解散及清算ノ條項ヲ適用ス
- 第五條 國立銀行ハ營業滿期日ニ於テ其ノ發行紙幣ヲ悉皆消却シ能ハサルトキハ消却殘  
 高ニ相當スル金額ヲ政府ニ納付スヘシ
- 私立銀行トナリテ營業ヲ繼續セムトスル國立銀行ニ於テ前項ニ依リ政府ニ納付スヘキ  
 金額ノ借入ヲ必要トスルトキハ大藏大臣ハ無利子貸付ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得
- 第六條 前條第一項ノ金額ヲ收納シタルトキハ政府ハ其ノ預リタル紙幣抵當公債證書ヲ  
 還付スヘシ
- 第七條 政府ハ國立銀行ヨリ納付シタル金額ヲ以テ紙幣消却ノ基金ト爲シ其ノ發行紙幣  
 ヲ交換スヘシ

國立銀行其ノ紙幣消却殘高ニ相當スル金額ヲ納付セサルトキハ政府ハ其ノ預リタル紙幣抵當公債證書ヲ賣却シ紙幣消却ノ基金ニ充ツヘシ

●營業滿期國立銀行處分法細則

(大藏省令第八號)

第一條 國立銀行ニシテ營業滿期國立銀行處分法第一條ニ依リ營業繼續及定款改正ノ決議ヲ爲シタルトキハ左ノ書類及改正定款ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ營業繼續ノ許可ヲ請フヘシ

- 一 國立銀行條例第七十條ノ書類
- 二 財産目錄及貸借對照表

但本支店各自ノ分並ニ本支店ヲ合シタル分各一通ヲ調製スヘシ

第二條 前條第二號財産目錄及貸借對照表ヲ作ルニハ總テノ債權及其ノ他總テノ財産ニ當時ノ相場又ハ市場價值ヲ附シ辨償ヲ得ルコトノ確ナラサル債權ニ付テハ其ノ推知シ得ヘキ損失額ヲ控除シテ之ヲ記載シ又到底損失ニ歸スヘキ債權ハ全ク之ヲ記載セサルモノトス

第三條 國立銀行ハ第一條ノ許可ヲ得タルトキハ直ニ其ノ旨ヲ日本銀行ニ通知シ且ツ本支店所在地ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ但其ノ公告ニハ本支店ヲ合シタル財産目錄及貸借對照表ヲ記載スヘシ

第四條 國立銀行ニ於テ日本銀行ヨリ借入金ヲ爲ストキハ其ノ契約書ノ謄本ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ

第五條 紙幣消却元資公債證書並紙幣償却ニ關スル計算ヲ爲ス場合ニ於テ元資公債證書ハ時價ヲ以テ算定シ紙幣消却高ハ合同消却高ニ依ルヘシ

第六條 國立銀行ニ於テ營業滿期國立銀行處分法第五條第一項ニ依リ紙幣ノ消却殘高ニ相當スル通貨ヲ納付シタルトキハ直ニ抵當公債證書ノ下戻ヲ請求スヘシ

第七條 營業滿期ノ際新舊取締役ノ事務引繼ヲ了リタルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ届出ツヘシ但該届書ニハ新舊取締役連署シ監查役之ニ副署スヘシ

第八條 國立銀行ハ營業滿期ノ當日一旦諸帳簿ヲ締上ケ半季決算ノ例ニ倣ヒ國立銀行成規第六十六條ニ規定スル諸報告計算ヲ調製シ滿期ノ日ヨリ十日以内ニ大藏大臣ニ差出スヘシ

第九條 營業滿期ニ至リ營業ヲ繼續セサル國立銀行ハ其ノ決議ヲ爲シタルトキ直ニ其ノ旨ヲ大藏大臣ニ届出ツルト同時ニ日本銀行ニ通知スヘシ

第十條 前條ノ國立銀行ハ營業滿期ノ日マテニ營業滿期國立銀行處分法第五條第一項ノ手續ヲ了スヘシ若シ其ノ手續ヲ了セサルトキハ大藏大臣ハ同法第七條第二項ニ依リ處分スヘシ

第十一條 本規則ハ國立銀行營業滿期前特別處分法ニ依リ私立銀行トナリテ營業ヲ繼續スル國立銀行ニモ之ヲ適用ス

●貯蓄銀行條例

第一條 複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲ニ預金ノ事業ヲ營ム者ヲ貯蓄銀行トス銀行ニ於テ新ニ一口五圓未滿ノ金額ヲ定期預リ若ハ當座預リトシテ引受ルルハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ム者ト爲シ此條例ニ依ラシム

第二條 資本金三萬圓以上ノ株式會社ニアラサレハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 貯蓄銀行ノ取締役ハ在任中ニ生シタル銀行ノ義務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負フモノトス

但共責任ハ退任後二箇年ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第四條 貯蓄銀行ハ貯蓄預金拂戻ノ擔保トシテ預金總高ノ四分ノ一ヨリ少ナカラサル金額ヲ利付債證券又ハ地方債證券ニ備ヘ置キ之ヲ供託所ニ預ケ入ルヘシ

但擔保金額カ資本金半額以上ニ及フトキハ商業手形及確實ナル會社ノ債券又ハ株券等ヲ用ユルヲ得

第五條 前條ノ金額ハ毎半箇年末日現在ノ預金高ニ依リ之ヲ定ム

第六條 預ケ人ハ第四條ノ供託證券ニ就キ有先權ヲ有ス

第七條 貯蓄銀行ニ於テ其定疑ヲ變更セントスルハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 銀行ニシテ貯蓄銀行ノ事業ヲ營ントスルトキハ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ノ認

可ヲ受クヘシ

第九條 貯蓄銀行ニシテ此條例ノ規定ニ違反シタルトキハ其取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

貯蓄銀行ニアラスンテ貯蓄銀行ノ業ヲ營ミタルハ營業主又ハ會社ノ業務擔當社員若ハ取締役ヲ前項ノ罰ニ處ス

第十條 此條例ニ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ銀行條例ニ依ル

●貯蓄銀行條例施行細則

第一條 貯蓄銀行條例第四條ノ利付國債證券、地方債證券、商業手形、會社ノ債券又ハ株券ハ明治二十六年大藏省令第二十一號供託物取扱規程第二條ノ手續ニ依リ之ヲ本店所在地ノ供託所ニ預ケ入ルヘシ

第二條 諸證券ノ擔保價格ハ毎半箇年末日ノ時價ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三條 第一條ニ依リ證券供託ノ手續ヲ了シタルトキハ供託所受領證ノ寫ヲ添付シ毎半箇年末日ヨリ三十日以内ニ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ届出ツヘシ

臨時ニ供託ヲ爲シタル場合ニ於テハ其都度直ニ前項ニ依リ届出ヲ爲スヘシ

第四條 既ニ供託シタル證券 全部又ハ一部ノ返戻ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ返戻ヲ求メントスル證券ノ種類、記號番號、券面ノ金額、枚數及ヒ擔保金額ヲ記載シテ地方長官ニ出願シ其承認ノ證憑ヲ提出シ供託物取扱規程第十條ノ手續ニ依リ供託所ニ請求スヘシ

地方長官ハ前項ノ承認ヲ與ヘタルトキハ直ニ審判ノ寫ヲ添付シ大藏大臣ニ届出ヅヘシ

第五條 大藏大臣ハ會社ノ債券又ハ株券等ニシテ貯蓄預金ノ擔保ニ供スヘカラサルモノト認ムルトキハ其供託ヲ制止スルコトアルヘシ

第六條 供託諸證券ハ其銀行ノ所有ニ屬シ記名アルモノニ限ル

第七條 貯蓄銀行ノ營業報告書ハ附屬雜形ニ準シ調製スヘシ

第八條 本規則ニ規定セサルモノハ總テ銀行條例施行細則ニ依ル(雜形零ス)

●日本勸業銀行法

第一章 總則

第一條 日本勸業銀行ハ農業工業ノ改良發達ノ爲メ資本ヲ貸附スルヲ以テ目的トスル株式會社ニシテ其本店ヲ東京ニ置ク

第二條 日本勸業銀行ノ資本金ハ壹千萬圓トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ資本増加スルコトヲ得

第三條 日本勸業銀行ノ各株式ノ金額ハ二百圓トス

第四條 日本勸業銀行ノ存立時期ハ設立免許ノ月ヨリ百箇年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ存立時期ヲ延長スルコトヲ得

第二章 重役

第五條 日本勸業銀行ニ總裁副總裁各一人理事監查役各三人以上ヲ置ク

第六條 總裁ハ日本勸業銀行ヲ代表シ其事務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁ヲ故アルトキ其職務ヲ代理シ總裁欠員ノトキ其職務ヲ行フ

副總裁及理事 總裁ヲ補助シ定款ノ定ムル處ニ從ヒ日本勸業銀行ノ業務ヲ分掌ス

監查役ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監查ス

第七條 總裁副總裁ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其任期ヲ五箇年トス但シ其任期滿限ノ後ヲ再任ヲ命スコトヲ得

理事ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其

中ヨリ之ヲ命シ任期ヲ五箇年トス但シ其任期滿限ノ後本條ノ手續ニ依リ再任ヲ命スル  
ヲ得

監査役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選舉選定シ其任期ヲ三  
ケ年トス但シ其任期滿限ノ後再選スルヲ得

總裁副總裁理事及監査役ハ任命若クハ選定ノ六箇年前ヨリ引續キ本條規定ノ株數ヲ所  
有スル者ニ限ル

第八條 總裁副總裁及理事監査役ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ハラズ其ノ職務又ハ商業ニ從  
事スルヲ得ス但シ大藏大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第三章 株主總會

第九條 通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ總裁之ヲ招集ス

第十條 臨時株主總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ何時ニテモ總裁之ヲ招集スルヲ得

第十一條 監査役又ハ總株金ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的ヲ示シテ臨時株主  
總會ノ招集ヲ總裁ニ請求スルヲ得

總裁前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ臨時株主總會ヲ招集スヘシ

第十二條 株主總會ニ於テハ株主ハ議決權ヲ有スル株主ノ外代理ヲ委託スルヲ得ス但  
シ法定代理人ハ此限ニアラス

日本勸業銀行ノ役員及使用人ハ株主總會ニ於テ株主ノ代理人タルヲ得ス

第十三條 株主ノ議決權ハ十株ニ付一個トス但十一株以上ヲ有スル株主ニ在リテハ五拾

株ヲ増ス毎ニ一箇ヲ加フ

他人ノ代理ヲナスモノハ五人以上ヲ代理スルヲ得ス又其株數ハ總株數ノ拾分ノ二以  
上ヲ超過スルヲ得ス

第四章 營業

第十四條 日本勸業銀行ハ五十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシ  
テ貸附ヲナスモノトス

日本勸業銀行 年賦償還貸附金總高ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ限リ不動産ヲ抵當ト  
シ五ケ年以内ノ定期償還貸附ヲナスヲ得

第十五條 日本勸業銀行ハ府縣郡市町村其他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ貸附ヲナス  
場合ニ於テ抵當ヲ徵セサルヲ得

第十六條 日本勸業銀行ニ於テ不動産抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルヲ要ス但  
シ舊債アル場合ニ於テ日本勸業銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ舊債ヲ償還スル効果ニ依  
リ新債ノ第一抵當トナルヲ得ヘキトキハ此限ニアラス

第十七條 日本銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ノ見込アル  
モノニ限ル

日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險附ノモノニ限ル但シ抵當物ノ外ニ貸  
附金高二倍以上ノ價格ヲ有スル動産又ハ不動産ヲ添抵當トナス場合ニ於テハ保險ニ付  
セサル事ヲ得

第十八條 不動産ヲ抵當トシテ貸附ル金額ハ日本勸業銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ二分ノ二以内トス

第十九條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ

前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ貸附金ノ一部償還ノ場合ニ於テ其額ヲ更定スルハ此限ニアラス

第二十條 土地抵當貸附ニ對スル年賦金ハ其抵當地ノ平年收益額ヨリ公課額ヲ扣除シタル殘額ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十一條 貸附金ノ年賦償還ニ付テハ一箇年以上五ヶ年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ但シ其年限間ノ利子ハ此限ニアラス

第二十二條 債務者年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遅延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第二十三條 年賦償還ノ法ヲ以テ借入ヲナシタル債務者ハ償還期限前ニ借入金ノ全部若クハ一部ヲ償還スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ日本勸業銀行ハ定款ニ於テ定ムル處ノ率ニ依リ相當ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得

第二十四條 債務者ハ借入金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其割合ニ應シ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其殘額ニ對シテモ亦同シ

第二十五條 日本勸業銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遅延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖モ貸附金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十六條 日本勸業銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸附金償還殘額ニ對シ第十八條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ請求シ若クハ其不足ニ相當スル金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セサルトキハ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖モ貸附金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十七條 抵當不動産ノ全部若クハ一部カ土地收用法ニ依リ收用セラル、場合ニ於テ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖モ貸附金ノ償還ヲ要求スルコトヲ得但シ債務者ニ於テ收用補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動産ヲ以テ増抵當トスルトキハ此限ニ在ラス

第二十八條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル府縣郡町村ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ於テ年賦金、定期償還金又ハ利子拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキハ日本勸業銀行ハ監督官廳ニ其處分ノ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ日本勸業銀行ハ府縣ニ對シテハ内務大臣ニ郡市町村其他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シテハ第一次監督官廳ニ其請求ヲ爲スヘシ  
監督官廳請求ヲ受ケタルトキハ府縣郡市町村其他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ命令シテ延滞金及第二十二條ノ利子ヲ拂込マシムヘシ

第廿九條 日本勸業銀行ハ農工銀行法ニ依リ設立シタル各農工銀行ノ發行スル農工債券ヲ引受クルヲ得

第三十條 日本勸業銀行ハ農工債券ヲ引受ケントスル場合ニ於テ農工銀行ノ業務及財産ノ實況ヲ調査スルヲ得

第卅一條 日本勸業銀行ハ地金銀又ハ有價證券ノ保護預リヲ爲スヲ得

第卅二條 日本勸業銀行ハ營業上餘裕金ノルトキハ一時各種ノ國債證券地方債證券ヲ買入又ハ日本銀行ニ預ケ金ヲ爲スヲ得

日本勸業銀行ハ前項ニ依ルノ外營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

第卅三條 日本勸業銀行ハ此法律ニ記載セシ業務ヲ營ムヲ得ス

第五章 勸業債券

第卅四條 日本勸業銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込ミアリタルトキハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ勸業債券ヲ發行スルヲ得但シ年賦償還、貸附金總高及其引受ケタル農工債券現在高ヲ超過スルヲ得ス

第卅五條 勸業債券ハ券面金額ヲ五十圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名トナスヲ得

第卅六條 日本勸業銀行ハ少クトモ年賦償還貸附金及其引受ケタル農工債券ノ償還ニ應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ勸業債券ヲ償還スヘシ

日本勸業銀行ニ於テ勸業債券ヲ償還スル場合ニ於テハ割増金ヲ附與スルヲ得但シ其

方法及金額ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第卅七條 日本勸業銀行ハ勸業債券借換ノ爲メ一時第卅四條ノ制限ニ依ラス低利ノ勸業債券ヲ發行スルヲ得

低利ノ勸業債券ハ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其發行面金額ニ相當スル舊勸業債券ヲ償還スヘシ

第卅八條 勸業債券ノ利子ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ之ヲ仕拂フヘシ

第卅九條 日本勸業銀行ハ年賦償還貸附金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキ及其引受ケタル農工債券ニシテ之ヲ發行シタル農工銀行解散ノ爲ニ金額ノ償還ヲ得ルヲ能ハサルトキハ第三十五條ノ償還ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其延滞金額又ハ償還ヲ得サル農工債券面金額ニ相當スル勸業債券ヲ償還スヘシ

第四十條 勸業債券ノ所有者其元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其要求ノ權ヲ失フモノトス

第四十一條 勸業債券ヲ偽造又ハ變造シテ行メシタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ所罰ス其模造ニ關シテハ明治二十八年法律第廿八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

第四十二條 勸業債券ニ關シ此法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第六十號ヲ適用ス

第六章 準備金

第四十三條 日本勸業銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲メ利益ノ百分ノ八以

上ヲ積立テ及ヒ利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲メ利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第七章 政府ノ監督及補助

第四十四條 大藏大臣ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監督ス

第四十五條 日本勸業銀行ハ其定款ヲ變更セントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十六條 日本勸業銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ又大藏大臣ニ於テ支店若クハ代理店ヲ要用ナリトスルトキハ日本勸業銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルヲアルハシ

第四十七條 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スルヲ得ス

第四十八條 大藏大臣ハ日本勸業銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若クハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第四十九條 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報

告書ヲ差出スヘシ

第五十條 大藏大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ日本勸業銀行ノ貸附金額及方法ヲ制限スルヲ得

第五十一條 日本勸業銀行貸附金ノ利子ノ最高歩合ハ每營業年度ノ初メニ於テ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其營業年度内ニ於テ之ヲ變更セントスルトキモ亦同シ

第五十二條 日本勸業銀行ニ於テ勸業債券ヲ發行セントスルトキハ直接ニ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

可ヲ受クヘシ

第五十三條 大藏大臣ハ特ニ日本勸業銀行監理官ヲ種キ日本勸業銀行ノ業務ヲ監視セシム

第五十四條 日本勸業銀行監理官ハ何時ニテモ日本勸業銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルヲ得

日本勸業銀行監理官ハ監視上必用ナリト認ムルトキハ何時ニテモ日本勸業銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルヲ得

日本勸業銀行監理官ハ株主總會其他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルヲ得

第五十五條 日本勸業銀行ノ配當金年百分ノ五ニ達セサルトキハ政府ハ創立ナル場合ト雖モ拂込資本金ノ百分ノ五ヲ超過スルヲ得ス

第八章 罰則

第五十六條 日本勸業銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ總裁若クハ總務ヲ行ヒ又ハ代理スル副總裁ヲ首圖以上千圓以下ノ過料ニ處ス其事犯副總裁又ハ理事ノ分擔業務ニ係ル副總裁理事ヲ過料ニ處ス亦同シ

一 第十四條ノ規程ニ反シ貸附ナシタルトキ

二 第十六條ノ規程ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シテ貸附ナシタルトキ

三 第三十二條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ



四 第三十三條ノ規程ニ反シ此法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第三十四條ノ規程ニ反シ勸業債券ヲ發行シタルトキ但シ第三十七條第一項ニ該當スルモノハ此限ニ在ラス

六 第三十六條第一項第三十七條第二項及第三十九條ノ規程ニ反シ勸業債券ノ償還ヲ爲サ、ルトキ

七 第四十三條ノ規程ニ反シ利益ヲ所分シタルトキ

第五十七條 日本勸業銀行ノ總裁副總裁及理事第八條ノ規程ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ所ス

第五十八條 前二條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其命令ニ對シ十四日以内ノ抗告ヲ爲スコトヲ得

附 則

第五十九條 政府ハ設立委員ヲ置キ日本勸業銀行設立ノ免許ヲ與フルマテ其發起ニ關スル一切ノ事務ヲ所理セシム

第六十條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第六十一條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ銀行設立ノ免許ヲ稟請スヘシ

第六十二條 設立委員前條ノ免許ヲ得タルトキハ其專斷ヲ日本勸業銀行總裁ニ引渡スヘシ

第六十三條 設立初度ノ總裁副總裁理事及監査役ノ第七條ニ依リ所有スヘキ株數ノ時期ニ付テハ同條第四項ヲ適用スルノ限ニ在ラス

第六十四條 設立初度ノ總裁副總裁及理事ノ任期ハ三ケ年トス

設立初度ノ理事及監査役ハ株主中ヨリ政府之ヲ命ス

●農工銀行法

第一章 總則

第一條 農工銀行ハ農業工業ノ改良發達ノ爲メ資本ヲ貸附スルヲ以テ目的トスル株式會社ニシテ其資本金ヲ二十萬圓以上トシ各株式ノ金額ハ二拾圓トス

第二條 農工銀行ハ北海道又ハ一府縣ヲ以テ一營業區域トス但シ土地ノ情況ニ依リ勅令ヲ以テ北海道又ハ一府縣ヲ二箇以上ノ營業區域ニ分割スルコトヲ得

第三條 農工銀行ノ設立ハ一營業區域内ニ一行ヲ以テ限リトス

第四條 農工銀行ノ營業區域内ニ原籍及住所ヲ有スル者ニ非サレハ其株主トナルコトヲ得ス

株主ニシテ農工銀行ノ營業區域外ニ原籍又ハ住所ヲ移轉スルコトアルモ株主ノ資格ヲ失フコトナシ

第五條 農工銀行ノ營業區域内ノ府縣郡市町村モ亦其株主タルコトヲ得

第二章 營業

第六條 農工銀行ハ左ノ事務ヲ營ムモノトス

- 一 三十ヶ年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸附ヲ爲ス
- 二 年賦償還貸附金總高ノ五分ノ一ニ相當スル金額ヲ限り不動産ヲ抵當トシテ五ヶ年以内ノ定期償還貸附ヲ爲ス
- 三 市町村又ハ法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シ無抵當ニテ本條第一號第二號ノ貸附ヲ爲ス
- 四 二十人以上ノ農業者又ハ工業者申合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出テタルトキハ共同ノ確實ナルモノニ限り五ヶ年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸附ヲ爲ス

第七條 前條ノ貸附ヲ爲スハ左ノ事項ニ使用スル目的トスルモノニ限ル

- 一 開墾、排水、灌溉及耕地土質ノ改良
- 二 耕作道路ノ築造又ハ改良
- 三 殖林事業
- 四 種田、肥料其他農工業用原料ノ購入
- 五 農工業用ノ器具、機械、舟車、獸畜ノ購入
- 六 農工業用建物ノ築造又ハ改良
- 七 前各項ノ外農工業ノ改良

第八條 農工銀行ニ於テ不動産抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルヲ要ス但シ舊債

アル場合ニ於テ農工銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ其舊債ヲ償還スル効果ニ依リ新債ノ第一番抵當トナルヲ得ヘキトキハ此限ニ在ラス

第九條 農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ノ見込アルモノニ限ル

農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險付ノモノニ限ル但シ抵當物ノ外ニ貸附金高二倍以上ノ價格ヲ有スル動産又ハ不動産ヲ添抵當ト爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セザルヲ得

第十條 不動産ヲ抵當トシテ貸附スル金額ハ農工銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トス

第十一條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ

前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルヲ得ス但シ貸附金ノ一部償還ノ場合ニ於テ其額ヲ更定スルハ此限ニ在ラス

第十二條 土地抵當貸附ニ對スル年賦金ハ其抵當地ノ平年收益額ヨリ公課額ヲ扣除シタル殘額ヲ超過スルヲ得ス

第十三條 貸附金ノ年賦償還ニ付テハ一ヶ年以上五ヶ年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ但シ其年限間ノ利子ハ此限ニアラス

第十四條 債務者年賦金定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遅延シタルトキハ拂込期日ノ翌日

ヨリ其金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第十五條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借入金全部若クハ一部ヲ擬還スルヲ得

前項ノ場合ニ於テハ農工銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手数料ヲ要求スルヲ得

第十六條 債務者ハ借入金五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其割合ニ應シ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルヲ得其殘額ニ對シテモ亦同シ

第十七條 農工銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遅延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖モ貸附金全部ノ償還ヲ要求スルヲ得

第十八條 農工銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸附金償還殘額ニ對シ第十條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ要求シ若クハ其不足ニ相當スル貸附金額ノ償還ヲ要求スルヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セサルトキハ農工銀行ハ償還期限前ト雖モ貸附金全部ノ償還ヲ要求スルヲ得

第十九條 抵當不動産ノ全部若クハ一部カ土地收用法ニ依リ收用セラル、場合ニ於テ農工銀行ハ償還期限前ト雖モ貸附金ノ償還ヲ要求スルヲ得但シ債務者ニ於テ收用ノ補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動産ヲ以テ増抵當トスルトキハ此限ニ在ラス  
其收用一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其割合ニ應スヘキモノトス

第二十條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル市町村其他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ於テ年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキハ農工銀行ハ監督官應ニ其處分ヲ請求スルヲ得

監督官廳前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ市町村其他ノ法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ命令シテ延滞金及第十四條ノ利子ヲ拂込マシムヘシ

第二十一條 農工銀行ハ第六條ノ貸附ヲ爲シタル場合ニ於テハ債務者カ貸金ノ目的ニ反シ貸附金ヲ使用スルトキハ償還期限前ト雖モ貸附金全部ノ償還ヲ要求スルヲ得

第二十二條 農工銀行ハ定期預リ金ヲ爲シ又ハ地金銀有價證券ノ保護預リヲ爲スヲ得

第二十三條 農工銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ一時各種ノ國債證券地方債證券及勸業債券ヲ買入レ又ハ他ノ銀行ニ預ケ金ヲ爲スヲ得

農工銀行ハ前項ニ依ルノ外營業上ノ餘裕金ヲ使用スルヲ得

第三章 農工債券

第二十四條 農工銀行ハ日本勸業銀行ノ代理店タリヲ得

第二十五條 農工銀行ハ此法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得

第二十六條 農工銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ五倍ヲ限リ農工債券ヲ發行スルヲ得但シ年賦償還貸附金總高ヲ超過スルヲ得ス

第二十七條 農工銀行ハ少クトモ年賦償還貸附金ノ償還高ニ應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ農工債券ヲ償還スヘシ

第廿八條 農工銀行ハ農工債券借換ノ爲メ一時第廿六條ノ制限ニ依ラス低利ノ農工債券ヲ發行スルヲ得

低利ノ農工債券ヲ發行シタルトキ發行後一ヶ月以内ニ抽籤ヲ以テ其發行券面金額ニ相當スル舊農工債券ヲ償還スヘシ

第廿九條 農工債券ノ利子ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ之ヲ仕拂フヘシ

第三十條 農工銀行ハ年賦償還貸附金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキハ第廿七條ノ償還ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其延滞金額ニ相當スル農工債券ヲ償還スヘシ

第卅一條 農工債券ノ所有其元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金ハ十五ヶ年利子ハ五ヶ年ニシテ其要求ノ權ヲ失フモノトス

第卅二條 農工債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其模造ニ關シテハ明治二十八年法律第廿八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

第卅三條 農工債券ニ關シ此法律ニ規定セサル事項ハ明治廿三年法律第六十號ヲ適用ス

第四章 準備金  
第卅四條 農工銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲メ利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲メ利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第五章 政府ノ監督及補助  
第卅五條 大藏大臣ハ農工銀行ノ業務ヲ監督ス

第卅六條 農工銀行ノ定款ハ大藏大臣ノ認可ヲ要ス之ヲ變更セントスルトキモ亦同シ

第卅七條 農工銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ又大藏大臣ニ於テ支店若クハ代理店ヲ要ナリトスルトキハ農工銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第卅八條 農工銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得

第卅九條 大藏大臣ハ農工銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若クハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第四十條 農工銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第四十一條 大藏大臣ハ必用ナリト認ムルトキハ農工銀行ノ貸附割引ノ金額及方法ヲ制限スルコトヲ得

第四十二條 農工銀行貸附金ノ利子ノ最高歩合ハ每營業年度ノ初ニ於テ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其營業年度内ニ於テ變更セントスルトキモ亦同シ

第四十三條 政府ハ特ニ北海道廳府縣高等官中ヨリ農工銀行監理官ヲ命シ大藏大臣ノ指揮ヲ承ケテ農工銀行ノ業務ヲ監視セシム

第四十四條 農工銀行監理官ハ何時ニテモ農工銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及文書ヲ檢査スルコトヲ得

農工銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ農工銀行ニ命シテ營業上

諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルヲ得  
農工銀行監理官ハ株主總會其他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルヲ得但シ議決  
ノ數ニ加ハルヲ得ス

第四十五條 農工銀行營業補助ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第六章 罰則

第四十六條 農工銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ科料  
ニ處ス

- 一 第六條ノ規程ニ反シ貸附ヲ爲シタルトキ
  - 二 第八條ノ規程ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シ貸附ヲ爲シタルトキ
  - 三 第二十三條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ
  - 四 第廿五條ノ規程ニ反シ此法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ
  - 五 第廿六條ノ規程ニ反シ農工債券ヲ發行シタルトキ但シ第廿八條第一項ニ該當スル  
モノハ此限ニアラス
  - 六 第廿七條第廿八條第二項及第三十條ノ規程ニ反シ貸附債券ノ償還ヲ爲サ、ルトキ
  - 七 第卅四條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ
- 第四十七條 前條ニ掲ケタル科料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但其命令ニ對シテ十四  
日以内ニ抗告ヲ爲スヲ得  
過料ノ辨納ニ付テハ取締連帶シテ其責任ヲ負フ

附 則

第四十八條 府縣知事ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ設立委員ヲ置キ農工銀行設立免許ヲ得ル  
マテ其發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第四十九條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第五十條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ銀行設立  
ノ免許ヲ稟請スヘシ

第五十一條 設立委員前條ノ免許ヲ得タルトキハ其事務ヲ農工銀行取締役ニ引渡スヘシ

第五十二條 農工銀行ニ關シ此法律ニ規定セサル事項ハ明治廿三年法律第七十二號銀行  
條例ヲ適用ス(明治廿三年法律第七十二號ノ銀行條例ハ銀行條例ノ部ニ在リ參照スヘ  
シ)

●農工銀行補助法

第一條 農工銀行法ニ依リ設立スル農工銀行ノ營業ヲ補助スル爲メ政府ハ豫算ニ定ムル  
所ニ從ヒ其營業區域ヲ管轄スル府縣(沖繩縣ヲ除ク)ニ其株式引受資金ヲ交付ス

前項ノ交付金額ハ該府縣ノ宅地鑛泉地池沼ヲ除キ有租地段別百町ニ付七圓以内トス但  
シ如何ナル場合ニ於テモ一府縣ニ交付スル總額三十萬圓ヲ超過シ又ハ農工銀行拂込資  
本金ノ三分ノ一ヲ超過スルヲ得ス

創立初季ヨリ十ヶ年ヲ限リ政府ハ豫算ニ定ムル所ニ從ヒ北海道ノ農工銀行ニ二萬五千

圓以内ヲ毎年交付ス但シ農工銀行ノ拂込金額ニ對シ一箇年百分ノ五ノ割合ヲ超過スル  
ヲ得ス

第三條 府縣ハ第一條ノ交付金ヲ農工銀行ノ株式引受ニ供スルノ外他ニ使用スルヲ得  
ス

第四條 此法律ニ依リ府縣ノ引受ケタル株式ニ對シテハ農工銀行ハ其創立初季ヨリ五ケ  
年間ハ利益配當ヲ爲スヲ要セス

前項ノ期限經過後仍ホ五ケ年間ハ農工銀行ハ前項府縣引受ノ株式ニ對スル配當金ヲ悉  
皆準備金ニ繰入ルヘシ

第五條 農工銀行ハ前條ノ期限ヲ經過シタル後ハ此法律ニ依リ府縣ノ引受ケタル株式ニ  
對シ他ノ株式ト同一ノ利益配當ヲナスヘシ

前項ノ配當金ハ府縣ノ收入ニ繰入ル、モノトス

第六條 府縣ハ此法律ニ依リ其引受ケタル農工銀行ノ株式ヲ離權スルヲ得ス但シ第七  
條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第七條 農工銀行創立初季ヨリ十ケ年經過ノ後府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣及  
大藏大臣ノ認可ヲ得テ此法律ニ依リ引受ケタ、農工銀行ノ株式ヲ市町村ニ交付スルヲ  
得

市町村ハ前項ニ依リ交付セラレタル農工銀行ノ株式ヲ基本財産ト爲スヘシ

### 銀行合併法

第一條 同一ノ法律ニ依リテ設立シタル銀行營業ノ各株式會社ハ左ノ方法ニ依リ合併ス  
ルヲ得

第一 會社其資産及負債ノ全部ヲ以テ他ノ會社ニ合併スルヲ

第二 二箇以上ノ會社合併シテ更ニ一ノ會社ヲ設立スルヲ

第二條 前條第一ノ方法ニ依リ合併セントスル會社ハ各其株主總會ニ於テ合併ニ關スル  
事項ヲ決議シ地方長官ヲ經由シテ主務省ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ株主總會ノ招集ハ少クトモ會日ノ三十日前ニ之ヲ爲スヘシ

第三條 第一條第二ノ方法ニ依リ合併セントスル會社ハ各其ノ株主總會ノ議ヲ取りタル  
後各會社ノ聯合總會ヲ開キ合併ノ決議ヲ爲シ更ニ設立スヘキ會社ノ定款ヲ議定シ各會  
社取締役ノ連署ヲ以テ地方長官ヲ經由シテ主務省ノ認可ヲ受クヘシ

聯合株主總會ニ於テハ更ニ設立スヘキ會社ノ取締役及監查役ヲ選定ス

前條第二項ノ規程ハ本條ノ株主總會ニモ亦之ヲ適用ス

第四條 株主總會及聯合株主總會ノ議決方法ハ商法第二百三條ノ規程ニ依ル

聯合株主總會ニ於ケル株主ノ議決ハ一株毎ニ一箇トス但シ各會社ノ定款ニ於テ議決權  
ノ制限ヲ設ケタルトキハ其制限ハ十一株以上ヲ有スル株主ノ議決權ニ對シテノミ之ヲ

適用シ且各定款ノ制限同シカサルトキハ株主各會社ノ株式ノ金額相同シカサルト  
キハ其最少額ノ株式金額ヲ標準トシテ其他ヲ改算シ議決權ノ數ヲ定メ毎株持主株ノ

總金額ニ於テ端數ヲスルトキハ之ヲ算入セス

第五條 株主總會ノ招集アリタルトキハ各會社ハ合併スヘキ他ノ會社ノ株主ノ求ニ應ジ  
商法第二百二十二條ニ掲ケタル書類ノ展閱ヲ許ス義務アリ

第六條 株主總會ノ招集アリタルトキハ各會社營業所ノ裁判所ハ合併スヘキ一方ノ會社  
ノ總株金ノ少クトモ五分ノ一ニ當ル株主ノ申立ニ因リテ一人又ハ數人ノ官吏ニ他ノ一  
方ノ會社ノ業務ノ實況及財産ノ現況ノ檢査ヲ命スルコトヲ得

商法第二百廿五條及第二百廿六條ノ規程ハ本條ノ檢査ニモ亦之ヲ適用ス

第七條 聯合株主總會若クハ第二條ノ株主總會ニ於テ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ取締  
役ヨリ之ヲ裁判所ニ届出ヘシ

第八條 主務省及裁判所ハ合併ノ實況ヲ監視スル權アリ

第九條 聯合株主總會若クハ第二種ノ株主總會ニ於テ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ合併  
ニ因リ消滅スヘキ會社ハ既ニ始メタル取引ヲ完納シ又ハ現ニ存在スル會社義務ヲ履行  
スル外其業務ヲ止メ且少クトモ三回之ヲ公告スヘシ取締役之ニ拘ラスシテ營業ヲ續行  
スルトキハ此カ爲メ其全財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

第十條 合併セントスル會社ハ公告ヲナシテ聯合株主總會若クハ第二條ノ株主總會ノ日  
前一ヶ月ヲ超ヘサル期間株式ノ讓渡ヲ停止スルコトヲ得

第一條第二ノ方法ニ依リ合併セントスル場合ニ在テハ聯合株主總會ニ於テ合併ノ決議  
ヲナシタル日ヨリ第十四條ニ依リ登記ヲ受ル迄ノ間ニナシタル株式ノ讓渡ハ無効タリ

第十一條 合併ノ認可アリタルトキハ取締役ハ合併ノ總テノ債權者ニ通知シ且合併ニ對  
シ異議アル者ハ或ル期間内ニ會社ニ申出ヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但シ其期間ハ三十  
日ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ通知ニハ合併セントスル各會社ノ財産目錄及貸借對照表ヲ添付スヘシ

第十二條 前條ニ掲ケタル期間内ニ異議ノ申出アラサルトキハ異議ナキモノト看做ス期  
間内ニ異議ヲ申出タル債權者アルトキハ會社ハ直ニ其債務ヲ辨償シ若クハ之ニ擔保ヲ  
供シテ其異議ヲ取除クコトヲ要ス

第十三條 會社ハ第十一條ノ期間ヲ經過シ且有効ニ申出タル債權者ノ異議ヲ取除キ又訴  
訟中ノ債務額ハ之ヲ辨償シ若クハ供託シタル後ニ非サレハ合併ヲ決行スルコトヲ得ス但  
總テノ債權者ニ於テ異議ナキコトヲ明示シタル日ハ該期限内ト雖合併ヲ決行スルコトヲ得

第十四條 合併ヲ決行シタルトキハ十四日內ニ登記ヲ受ケ同時ニ之ヲ株主ニ通知シ且地  
方長官ヲ經由シテ主務省ニ届出ヘシ

登記及公告スヘキ事項ハ左ノ如シ

- 第一 合併後存留スル會社ニ在テハ合併認可及合併決行ノ年月日
- 一 既ニ登記ヲ受ケタル事項ニ變更ヲ生シタルモノ
- 二 合併ニ因リ消滅シタル會社ノ社名
- 第二 合併ニ因リ更ニ設立セル會社ニ在テハ商法第百六十八條第二項(第八號ヲ除ク)  
ニ掲ケタル事項ノ外仍ホ左ノ二項

- 一 合併認可及合併決行ノ年月日
- 二 合併ニ因リ消滅シタル會社ノ社名
- 第十五條 會社支店アルトキハ其所在ニ於テモ亦登記ヲシテシ
- 第十六條 第十四條ノ期間内ニ登記ヲ受ケサルトキハ此カ爲メ會社又ハ第三者ニ生セシメタル損害ニ付取締役ハ其全財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ
- 第十七條 合併後存留シ若クハ合併ニ因リ更ニ設立セル會社ハ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ權利義務ヲ承繼ス
- 第十八條 國立銀行ハ第十一條第二ノ方法ニ依リ合併スルヲ得
- 第十九條 第二條第一項ノ決議方法ハ國立銀行ニ在テハ國立銀行條例第六十九條ノ規程ニ依ル
- 第二十條 合併ニ因リ消滅シタル國立銀行ニ於テ發行シタル紙幣ハ合併後存留スル國立銀行ニ於テ自己ノ發行シタル紙幣ト俱ニ國立銀行條例第一百十二條ノ方法ニ依リ其營業年限内ニ悉皆消却スヘシ
- 第二十一條 合併ノ認可アリタルトキハ合併ニ因リ消滅スヘキ會社ノ訴訟ハ合併後存留シ若クハ合併ニ因リ更ニ設立セル會社ニ於テ訴訟手續ヲ受繼クマテ之ヲ中斷ス
- 民事訴訟法第一編第三章第五節當事者ノ死亡ニ因レル訴訟手續ノ中斷ニ關スル規程ハ前項ノ場合ニモ亦之ヲ準用ス
- 第二十二條 取締役第十四條ノ登記ヲ受ルヲ怠タルキハ商法第二百五十六條ノ例ニ依リ
- 第十一條ノ通知及催告ヲ爲ストテ怠リタルキハ商法第二百五十九條ノ例ニ依テ處分ス

●銀行合併施行細則

(大藏省令第九號)

- 第一條 銀行合併法第二條及第三條ニ依リ差出スヘキ合併ノ認可申請書ニハ各會社ノ取締役連署ヲ爲シ左ノ書類ヲ之ニ添付スヘシ
    - 一 合併ニ關スル契約書
    - 二 銀行合併法第十一條ニ規定スル各會社ノ財産目錄及貸借對照表
    - 三 合併後存留スル會社若クハ更ニ設立スル會社ノ定款
    - 四 右ノ外決議ノ要項ヲ記載セルモノ
  - 第二條 合併ヲ決行シタルトキハ銀行合併法第十四條ノ届出ト同時ニ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ設立免許書ヲ還納スヘシ
  - 第三條 合併ニ因リ消滅スル國立銀行ニ於テ大藏省ヘ預ケ入レタル紙幣抵當公債證書ハ合併後存留スル國立銀行ヨリ保管證書ノ名義書替ヲ大藏省ニ請求スヘシ大藏省ヨリ前項書替濟ノ通知ヲ受ケタルトキハ大藏省ノ預リ證書ヲ差出シテ其ノ書替ヲ請求スヘシ
- 國立銀行紙幣ノ通用及引換期
- 限ニ關スル法律
- (法律第八號)
- 第一條 國立銀行紙幣ノ通用期限ハ明治三十二年十二月九日トス
  - 第二條 國立銀行紙幣ヲ所持スル者ハ前條期日ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年内ニ其ノ引換方ヲ政府ニ請求スヘシ
  - 前項ノ引換期日ヲ過クルトキハ總テ所持人ノ損失トス
  - 第三條 本法ハ官命又ハ平穩鎮店ニ係ル國立銀行發行ノ紙幣ニハ之ヲ適用セス



●貨幣法

第一條 貨幣ノ製造及發行ノ權ハ政府ニ屬ス  
 第二條 純金ノ量目二分ヲ以テ價格ノ單位ト爲シ之ヲ圓ト稱ス  
 第三條 貨幣ノ種類ハ左ノ九種トス

金貨幣

二十圓

十圓

五圓

銀貨幣

五十錢

二十錢

十錢

白銅貨幣

五錢

青銅貨幣

一錢

五厘

第四條 貨幣ノ算則ハ總テ十進一位ノ法ヲ用キ一圓以下ハ一圓ノ百分ノ一ヲ錢ト稱シ錢

ノ十分ノ一ヲ厘ト稱ス

第五條 貨幣ノ品位ハ左ノ如シ

一 金貨幣

純金九百分參和銅一百分

二 銀貨幣

純銀八百分參和銅二百分

三 白銅貨幣

「ニツケル」二百五十分參和銅七百五十分

四 青銅貨幣

銅九百五十分錫四十分亞鉛十分

第六條 貨幣ノ量目ハ左ノ如シ

一 二十圓金貨幣

四匁四分四厘四毛四(十六)グラム(六六六五)

二 十圓金貨幣

二匁二分二厘二毛二(八)グラム(三三三三)

三 五圓金貨幣

一匁一分一厘一毛一(四)グラム(一六六六)

四 五十錢銀貨幣

三匁五分九厘四毛二(十三)グラム(四七八三)

五 二十錢銀貨幣

一匁四分三厘七毛七(五)グラム(三九一四)

六 十錢銀貨幣

七分一厘八毛八(二)グラム(六九五五)

七 白銅貨幣

一匁二分四厘四毛一(四)グラム(六六五四)

八 一錢青銅貨幣

一匁九分零厘零毛八(七)グラム(一一二八〇)

九 五厘青銅貨幣

九分五厘零毛四(三)グラム(五六四〇)

第七條 金貨幣ハ其ノ額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス銀貨幣ハ十圓マテ白銅貨及青銅貨幣ハ一圓マテヲ限り法貨トシテ通用ス

第八條 貨幣ノ形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 金銀貨幣純分ノ公差ハ金貨幣ハ一千分ノ一銀貨幣ハ一千分ノ三トス

第十條 金銀貨幣量目ノ公差ハ左ノ如シ

- 一 金貨幣二十圓ハ每片八毛六四(〇)「グラム」〇三二四〇(一)千枚毎ニ八分三厘(三)「グラム」一一二五〇(十)圓ハ每片六毛零五(〇)「グラム」〇二二六九(一)千枚毎ニ六分二厘(二)「グラム」三二五〇〇(五)圓ハ每片四毛三二(〇)「グラム」〇一六二〇(一)千枚毎ニ四分一厘(一)「グラム」五三七五(〇)トス
- 二 銀貨幣ハ各種共每片二厘五毛九二(〇)「グラム」〇九七二〇(五)十錢銀貨幣ハ一千枚毎ニ一匁二分四厘(四)「グラム」六五〇〇(〇)二十錢銀貨幣ハ一千枚毎ニ八分三厘(三)「グラム」一一二五〇(十)錢銀貨幣ハ一千枚毎ニ四分一厘(一)「グラム」五三七五(〇)トス

第十一條 貨幣ノ通用最輕量目ハ二十圓金貨幣四匁四分二厘(十六)「グラム」五七五〇(十)圓金貨幣二匁二分一厘(八)「グラム」二八七五(五)圓金貨幣一匁一分零厘五毛(四)「グラム」一四三八(ト)トス

第十二條 金貨幣ニシテ磨損ノ爲通用最輕量目テ下ルモノ及銀貨幣日銅貨幣又ハ青銅貨幣ニシテ著シク磨損シタルモノ其ノ他流通不便ノ貨幣ハ其ノ額價格ヲ以テ無手数料ニテ政府ニ於テ之ヲ引換フヘシ

第十三條 貨幣ニシテ模様ノ認識シ難キモノ又ハ私ニ極印ヲ爲シ其ノ他故意ニ毀傷セリ

ト認ムルモノハ貨幣タルノ効用ナキモノトス

第十四條 金地金ヲ輸納シ金貨幣ノ製造ヲ請ノ者アルトキハ政府ハ其ノ請求ニ應スヘシ  
附則

第十條 從來發行ノ金貨幣ハ此ノ法律ニ依リ發行スル金貨幣ノ倍位ニ通用スヘシ

第十六條 從來發行ノ一圓銀貨幣ハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ政府ノ都合ニ依リ漸次之ヲ引換フヘシ

前項引換ノ結了マテハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ無制限ニ法貨トシテ其ノ通用ヲ許シ通用禁止ノ場合ニ於テハ六箇月以前ニ勅令ヲ以テ之ヲ公布スヘシ通用禁止ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年内ニ引換ヲ請求セサルトキハ爾後金地金トシテ取扱フヘシ

第十七條 從來發行ノ五錢銀貨幣及銅貨幣ハ從前ノ通り通用スヘシ

第十八條 此ノ法律發布以後ハ一圓銀貨幣ノ製造ヲ廢ス但シ右期日以前ニ政府ニ輸納シタル銀地金ハ此限ニアラス

第十九條 此ノ法律ニ牴觸スル從前ノ法令ハ總テ之ヲ廢止ス

第二十條 此ノ法律ハ第十八條ヲ除ク外明治三十年十月一日ヨリ施行ス

# ●保稅倉庫法

## 第一章 總則

- 第一條 保稅倉庫ハ輸入手數未済ノ貨物ヲ藏置スル所トス
- 第二條 保稅倉庫ニ藏置ノ貨物ハ其ノ藏置中ハ輸入シタルモノトス看做サス
- 第三條 保稅倉庫ニ藏置シタル貨物ノ輸入税ハ其ノ最初庫入ノ時ノ性質及數量ニ依リ之ヲ徵收ス
- 第四條 保稅倉庫ニ若ハ保稅倉庫ヨリ輸入手數未済貨物ヲ運搬スルトキハ命令ヲ以テ定ムル通路ニ依ルヘシ
- 第五條 保稅倉庫ニ藏置スルコトヲ得ヘキ貨物ノ種類ハ主務大臣之ヲ定ム
- 第六條 保稅倉庫ニ藏置シタル貨物ノ輸入ニ關シテハ此ノ法律ニ規定シタルモノ、外税關法及稅關規則ヲ適用ス
- 第七條 保稅倉庫ノ貨物藏置期限ハ庫入ノ日ヨリ滿一箇年トス
- 第八條 保稅倉庫ニ藏置ノ貨物庫移ヲ爲ストキハ其ノ藏置期限ハ總テ最初庫入ノ日ヨリ通算ス
- 第九條 輸入手數未済ノ貨物ヲ運搬スルトキハ當該官廳ハ貨主ヲシテ其ノ貨物ニ對スル輸入税金ヲ假納セシムルコトヲ得
- 前項ノ貨物陸揚申告ノ日ヨリ滿一箇年ヲ過ギテ仕向地ニ到達セサルトキハ其ノ輸入税ヲ徵收ス

## 第二章 官設保稅倉庫

- 第十條 官設保稅倉庫ニ藏置スル貨物ニ對シテハ記名ノ預證券ヲ發スルモノトス
- 第十一條 預證券ハ裏書ヲ以テ讓渡スコトヲ得
- 第十二條 預證券ニ罹リ又ハ紛失滅失シタルトキハ其ノ旨當該官廳ニ届出ベシ
- 前項ノ場合ニ於テ民事訴訟法ニ依リ其ノ證券ヲ無効トスル除權判決アリタルトキハ權利者ニ新證券ヲ交付ス
- 第十三條 前條第一項ノ届出アリタル證券ヲ持參スル者ノルトキハ持參人及届出人ニ於テ相當ノ手續ヲ爲シ其權利者確定スル迄藏置貨物ノ引渡ヲ停止ス
- 第十四條 藏置ノ貨物ハ預證券引換ニ交付スルモノトス
- 第十五條 藏置貨物引取ノ權利ニ付訴訟アルトキハ其ノ當事者ハ藏置期限ノ延期ヲ求ムルコトヲ得
- 第十六條 藏置期限ヲ經過シタ貨主貨物ヲ引取ラサルトキハ無請求品トシ當該官廳ハ其ノ貨物ノ記號、番號、品名、箇數等ヲ公告スヘシ
- 前項公告ノ日ヨリ滿六ヶ月ヲ經テ之ヲ引取ル者ナキトキハ當該官廳ハ其ノ貨物ヲ競賣ニ付シ輸入税、公告料、競賣手數料、庫敷料其ノ他一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ貨主ニ還付ス
- 第十七條 藏置ノ貨物腐敗其ノ他ノ事故ニ因リ倉庫又ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ當該官廳ニ公告シテ指定ノ期限内ニ其ノ引取ヲ命スヘシ此ノ期限ヲ經過スルモ其ノ

貨物ヲ引取ラザルトキハ當該官廳ハ之滅却スルコトヲ得但シ緊急ノ必要アルトキハ期限内ニ於テモ仍之ヲ滅却スルコトヲ得

前項ニ依リ滅却シタル貨物ニ對シテハ輸入税ヲ徵收セス

第三章 私設保稅倉庫

第十八條 保稅倉庫ヲ設ケ輸入手數未濟ノ貨物ヲ保管スル業ヲ營マムトスト者ハ主務大臣ノ特許ヲ受クヘシ

第十九條 私設保稅倉庫ノ庫主ハ當該官廳ノ指揮監督ヲ承クヘシ

第二十條 私設保稅倉庫ノ庫主ハ其ノ保管スル貨物ノ輸入税ニ付自ラ一切ノ責任ヲ有シ天災事變其ノ他何等ノ事故ニ因ルヲ問ハス貨物紛失滅失シ若ハ盜難ニ罹ルモ其ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス

第二十一條 私設保稅倉庫ノ庫主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保管貨物輸入税ノ擔保トシテ金錢又ハ國債證券ヲ供託スヘシ

第二十二條 私設保稅倉庫ニハ庫主ニ屬スル貨物ヲ藏置スルコトヲ得ス

第二十三條 私設保稅倉庫ニ保管スル貨物ニシテ其ノ庫入ノ日ヨリ滿滿一ケ年ヲ過グルトキハ輸入税ヲ徵收ス

第二十四條 私設保稅倉庫ノ貨物保管規則及庫敷料ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第二十五條 當該官吏ハ監督上必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ私設保稅倉庫ノ貨物

又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得其ノ貨物運搬中ニ在ルモノハ其ノ所在ニ就キ検査ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 私設保稅倉營業ノ特許ハ左ノ場合ニ於テ消滅スルモノトス

- 一 庫主其ノ營業ヲ廢シタルトキ
- 二 庫主死亡シタルトキ
- 三 庫主破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 四 特許ノ期限滿了シタルトキ
- 五 主務大臣ニ於テ特許ヲ取消シタルトキ

第二十七條 私設保稅倉庫營業ノ特許消滅シタルトキハ當該官廳ハ其ノ旨ヲ公告シ貨主ヲシテ指定ノ期限内ニ其ノ藏置貨物ノ處分ヲ爲サシムヘシ但シ前營業者ノ業務ヲ引繼クカ爲ニ特許消滅後一箇月以内ニ營業ノ特許ヲ出願スル者アルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ指定期限ノ過ルモ貨主其ノ貨物ノ處分ヲ爲サ、ルトキハ當該官廳ハ之ヲ官設保稅倉庫又ハ他ノ私設保稅倉庫ノ保管ニ移スヘシ

前項庫移ノ費用ハ負擔トス

第二十八條 營業特許ノ消滅シタル私設保稅倉庫ノ庫主又ハ其ノ相續人ハ其ノ藏置貨物ノ引取又ハ庫移ノ了ル迄ハ私設保稅倉庫ニ關スル一切ノ義務ヲ免ル、コトヲ得ス

第二十九條 第二十七條第二項ニ依リ藏置貨物ノ庫移ヲ爲シタルトキハ貨主ハ其ノ保稅倉庫ニ於ケル諸般ノ規則慣例ヲ遵守スルノ義務アルモノトス

第三十條 左ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ營業ノ特許ヲ取消スコトヲ得

- 一 業務ニ關スル法律命令ニ違背シタルトキ
- 二 庫主輸入税ノ負擔ニ堪ヘサルノ疑アルトキ
- 三 庫主重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

第四章 罰則

第三十一條 當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保税倉庫ヨリ貨物ヲ庫出スルコトヲ得ス  
犯ス者ハ其貨物ヲ沒收ス若既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徵ス

第四條ノ規程ニ違背シタル者罰前項ニ同シ

第三十二條 當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保税倉庫ニ貨物ヲ滅入レスルコトヲ得ス  
犯ハ者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 主務大臣ノ認可ヲ受ケスシテ私設保税倉庫ノ貨物保管規則又ハ庫敷料ヲ定  
メタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第二十五條ノ檢査ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ二圓  
以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

附則

第三十五條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

●登記法

〔此登記料又ハ手数料等ニシテ登録稅法ニ規定スル登録稅ト重複スルモノハ登録稅法施行ノ日ヨリ廢止ス〕

第一章 總則

第一條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ノ登記ヲ爲ス者ハ本法ニ從ヒ地所建物ハ其所  
在地船舶ハ其定繫場ノ登記所ニ登記ヲ請フ可シ

農商務省特許局ニ於テ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ハ本人ノ居住地ヲ管轄スル登  
記所ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第二條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ノ登記ハ始審裁判所長之ヲ監督スヘシ

第三條 登記事務ハ始審裁判所ニ於テ之ヲ取扱フモノトス治安裁判所遠隔ノ地方ニ於テ  
ハ郡區役所其他司法大臣指定スル所ニ於テ之ヲ取扱ハシム

第四條 登記所ノ位置及其管轄ノ區域ハ司法大臣之ヲ定ム

第五條 登記官吏ハ登記事務取扱ニ付テハ始審裁判所長ノ監督ヲ受クルモノトス

第六條 登記簿ニ登記ヲ爲サ、ル地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ハ第三者ニ對シ法律  
上其効ナキモノトス

第七條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ニ付キ登記スヘキ概目左ノ如シ

- 第一 地所ハ郡區町村名、字、番地、地目、反別若クハ坪數、地券面ノ價格
- 第二 建物ノ郡區町村名、字、番地、地目構造ノ種類、建坪雜作ノ有無
- 第三 西洋形船舶ハ汽船、風帆船ノ區別、船名、番號、登簿噸數、公靜馬力、汽機及汽缸  
ノ種類端船其他必要ノ所屬品

第四 日本形船舶ハ船名、番號、積石數、間敷、端船其他必要ノ所屬品

第五 登記ノ理由

第六 金額

第七 質入書入ハ期限及利息

第八 所有者及登記ヲ受クル者ノ氏名住所

第九 一筆地所又ハ一棟ノ建物ヲ區別シ賣買讓與質入書入ヲ爲ストキハ其事實

第十 二番以後ノ書入ヲ爲シ又ハ書入ニ爲シタルモノヲ質入ト爲シ質入ニ爲シタルモノヲ書入ト爲ストキハ其事實

第十一 登記ノ年月日

第八條 登記ハ契約者双方又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ請求ス可シ

登記ヲ請フ者アルトキハ登記官吏ハ之ヲ受付帳ニ記載シ契約者ヨリ差出シタル書類ノ

受取證ヲ下付スヘシ

登記ヲ爲スニハ登記ノ番號ヲ記シ登記官吏之ニ署名捺印スヘシ

第九條 地所建物船舶ニ關スル差押假差押差留假差留假處分及地所建物ノ收益差押ニ付

テハ裁判所ノ命令書又ハ官廳ノ照會書ニ依リ登記簿ニ其記入ヲ爲スヘシ

前項ノ記入ハ裁判所又ハ官廳ヨリ直ニ之ヲ求ムヘシ

第十條 登記ハ第一條第二項第十五條第二項第十六條第十七條及第十八條ヲ除クノ外契

約者双方ノ請求若クハ裁判所ノ命令アルトキニ爲サレハ之ヲ爲シ又ハ變更シ又ハ取消

スコトヲ得ス

第十一條 登記ノ謄本又ハ抜書又ハ一覽ヲ要スル者ハ其登記所ニ(出頭シテ)之ヲ請求ス

ルコトヲ得

第十二條 登記官吏ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄始審裁判所ニ抗告スルコトヲ

得

第十三條 登記ニ關スル取扱ノ手續及登記簿ノ書式ハ司法大臣之ヲ定ム

第二章 賣買讓與

第十四條 地所建物船舶ノ賣買讓與ニ付キ登記ヲ請フ者ハ契約者双方出頭シテ其證書ヲ

示シ其署名捺印シタル謄本一通ヲ差出ス可シ但第九條第十六條第十七條第十八條及第

十九條ノ登記ニ付テハ證書ヲ示スノ限ニ在ラス

本條ノ謄本ハ登記簿ノ一部トシテ之ヲ添ヘ置ク可シ

證書ニ塗抹改竄アリテ利害關係人ノ承諾シタル登記官吏ノ求ニ應シ請求者ヨリ

之ヲ説明スルコト能ハサルトハ登記官吏ハ登記ヲ拒絕スルコトヲ得

第十五條 家督相續ニ因リ地所建物船舶ノ登記ヲ請フトキハ契約者双方出頭シ其證書ヲ

示スヘシ

死亡者失踪者若クハ離縁戸主ノ遺留シタル地所建物船舶ヲ相續スル者登記ヲ請フトキ

ハ親屬二名以上又親屬ナキトキハ近隣ノ戸主二名以上連署ノ書面ヲ差出シ且證明書類

アルモノハ之ヲ示ス可シ

第十六條 行政官廳ノ公賣處分ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者登記ヲ請フトキハ落札違書及其代金完納ノ證書ヲ示ス可シ

本條ノ登記ハ其處分ヲ爲シタル官廳ヨリ直ニ之ヲ求ム可シ  
本項ノ規定ハ第十七條及第十九條ノ場合ニモ亦之ヲ準用ス

第十七條 官有ノ地所建物船舶ノ拂下又ハ無代價下渡ヲ受ケ登記ヲ請フトキハ其指令ノ本書若クハ違書ヲ示ス可シ

第十八條 民有ノ地所建物船舶ヲ官有ト爲シタルトキハ其官廳ハ第七條ノ概目ヲ示シテ登記ヲ求ム可シ

第十九條 裁判執行上ノ糶賣若クハ入札ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者アルトキハ裁判所ノ命令ニ依リ其登記ヲ爲ス可シ

第二十條 地所船舶ノ賣買讓與ニ因リ(地券)鑑札ノ下付若クハ書換ヲ請フ者ハ登記所ヨリ登記簿ノ證ヲ受ク可シ

第三章 質入書入

第二十一條 地所建物船舶ノ質入書入ニ付テモ亦第十四條ヲ準用ス

質借ノ爲メニ非スシテ義務ヲ果ス可キ保證ノ爲メ地所建物船舶ヲ質入書入ト爲シ其登記ヲ請フ者モ亦前項ノ規定ニ依ル可シ

第二十二條 書入ノ地所建物船舶ヲ重テ書入ト爲ストキハ第二債主ニ於テ之ヲ了知セラル旨ヲ申出記入ヲ請フ可シ書入ト爲リタル地所ヲ質入ト爲シ又ハ質入ト爲リタル地所

ヲ書入ト爲ストキ亦同シ

第二十三條 質入書入契約ノ全部若ハ一部ノ解除又ハ變更ニ付テモ亦第十四條ヲ準用ス

第二十四條 同一ノ地所建物船舶ニ付キ數個ノ登記ヲ爲ストキハ其登記ヲ請フ日時ノ前後ニ因リ登記ノ順序ヲ定ムルモノトス

第四章 登記料及手数料

第二十五條 地所建物船舶賣買ノ登記ニ付テハ其買受人左ノ賣買代價ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ヲ納ム可シ

賣買代價	登記料
五圓未滿	五錢
五圓以上拾圓未滿	拾錢
拾圓以上貳拾五圓未滿	貳拾五錢
貳拾五圓以上五拾圓未滿	五拾錢
五拾圓以上百圓未滿	壹圓
百圓以上貳百圓未滿	貳圓
貳百圓以上三百圓未滿	三圓
三百圓以上四百圓未滿	四圓
四百圓以上五百圓未滿	五圓
五百圓以上七百五拾圓未滿	六圓

七百五十圓以上千圓未滿

七圓

三七八

千圓以上千五百圓未滿

八圓

千五百圓以上貳千圓未滿

九圓

貳千圓以上五千圓未滿

拾圓

五千圓以上壹萬圓未滿

拾貳圓

以上五千圓未滿者每貳圓增加

第二十六條 地所建物船舶讓與ノ登記ニ付テハ其讓渡人讓受人ニ於テ時價相當ノ價格ヲ

定メ前條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其讓受人ヨリ登記料ヲ納ム可シ

第二十七條 地所建物船舶賃入書入ノ登記ニ付テハ其賃入人書入人ハ第二十五條ニ掲ク

ル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ半額ヲ納ムヘシ但一件ニ付キ金五錢ヨリ下ス

コトヲ得ス

第二十八條 第二十一條第二項ノ登記ニ付テハ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依リ其登記料ヲ納

ムヘシ

第九條第一項ノ記入ニ付テハ其價格ノ定マリタル物件ハ其價格又其價格ノ定マリサル

物件ハ時價相當ノ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依リ其登記料ヲ納ムヘシ

第九條第十六條第十七條及第十九條ノ場合ニ於テ處分ヲ爲シタル官廳ヨリ登記ヲ求ム

ルニハ登記料ハ登記印紙ヲ請求書ニ貼用シテ其官廳ニ納メシメ官廳ヨリ之ヲ登記所ニ

送付スヘシ

第二十九條

第十五條ノ登記ニ關シ地所ニ付テハ一筆毎ニ金三錢ヲ納メシメ建物船舶ニ

付テハ時價相當ノ價格ヲ定メ第二十五條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料

ノ五分一ヲ納メシム但一件ニ付金三錢ヨリ下スコトヲ得ス

第十五條第一項ノ場合ニ於テ家督相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルモノニ付テハ讓與

ノ登記料ヲ納メシム

第三十條

左ニ掲クル者ハ手数料トシテ金五錢ヲ納ムヘシ

第一 登記事件ノ取消又ハ其變更ノ登記ヲ請フ者ハ每一件

第二 登記謄本若クハ拔書ヲ請フ者ハ每一件

第三 登記ノ一覽ヲ請フ者

第三十一條

左ニ掲クルモノハ登記料及手数料ヲ要セス

第一 官廳ノ請求ニ係ル登記

第二 公立ノ學校病院、公園及養育院ニ係ル登記

第三 社寺、堂宇及墳墓地ニ係ル登記

第四 人民共有ノ用悪水路溜池敷堤敷井溝敷及公衆ノ用ニ供スル道路ニ係ル登記

第三十二條

登記所ニ於テ第二十五條第二十六條第二十八條第二項及第二十九條ニ從ヒ

届出タル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其事件ニ關係ナキ者三名ヲ選ヒ之ヲ評價人ト爲

シテ其價格ヲ評定セシムヘシ

第三十三條

評價人ノ評定シタル價格届出ノ價格ヨリ増加スルトキハ其評價ニ關スル費

三七九



用ハ其登記料ヲ納ムル者之ヲ負擔スヘシ若シ其價格屆出ノ價格ト同價又ハ低價ナルト  
キハ該費用ハ其登記所ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第三十四條 評價人ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十五條 評價人ノ日當ハ登記所ノ見込ヲ以テ一日金貳拾錢ヨリ五拾錢マテテ給ス可  
シ

第五章 罰則

第三十六條 詐偽ノ所爲ヲ以テ登記料ヲ減脱シ及之ニ通謀シタル者ハ貳圓以上百圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十七條 本法ニ依リ罰金ニ處スル者ハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ  
用ヒス

附則

第三十八條 明治十年第二十八號布告船舶買賣書入質手續同十三年第五十二號布告土地  
買賣讓渡規則同十四年第三十號布告地券證印稅則其他從前ノ法律規則中本法ニ抵觸ス  
ルモノハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十九條 地所買賣讓與荒地起返開墾下年期明等總テ地券下付書換ニ係ル手續及其  
手数料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十條 登記簿ニ未ダ登記セサル地所建物船舶ニ付キ從來保有セル所有權ハ明確ナ  
ラシメント欲スル者ハ管轄登記所ニ其所有權ハ登記ヲ請フコト得

右ノ登記ヲ請フ者ハ物件ヲ明示シタル請求書ニ其所有權ノ證明書類ヲ添ヘ之ヲ登記所  
ニ差出ス可シ但其所有權ヲ取得シタルコトヲ證スル證書ヲ其證明書トシテ差出ストキ  
ハ第十四條ヲ準用ス

本條ノ登記ニ關シ地所ニ付テハ一筆毎ニ金壹錢ヲ納メシノ建物船舶ニ付テハ一件毎ニ  
金壹錢ヲ納メシム

第四十一條 登記所ハ初テ登記ヲ爲シタル地所ニ付テハ之ヲ其地ノ土地臺帳所管廳ニ通  
知シ其所管廳ヨリハ右ノ地所ニ付キ分合筆又ハ地番號及地目變換ノアル毎ニ之ヲ登記  
所ニ通知ス可シ

土地臺帳管廳ハ明治二十二年勅令第三十九號ニ依リ登記所ヨリ所有ノ移轉又ハ質入  
付キ通知ヲ受クタル地所ニ關シ前項ノ變換アルトキモ亦通知ヲ爲ス可シ  
登記所ハ前二項ノ通知ニ依リテ登記簿ニ其變換ノ旨ヲ追記ス可シ

◎商業及船舶ニ關スル手数料

朕商業及ヒ船舶ノ登記ニ關スル事件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 商業ノ登記公告ノ手数料左ノ如シ

第一 商號 後見人、未成年者、婚姻契約及ヒ代務ノ登記公告ハ本店ト支店トニ拘ハ  
ラス各金三拾錢  
其變更又ハ追加ノ登記公告ニ付テモ亦同シ

第二 會社ノ登記公告ハ本店ト支店トニ拘ハラズ合名會社ニ付テハ金六圓合資會社株

式會社ニ付テハ各金拾圓

其變更又ハ追加ノ登記公告ハ每一件ニ付金三拾錢

第三 登記簿ノ閱覽ニ付テハ金拾錢

第四 登記簿ノ謄本ハ用紙壹枚ニ付金拾錢但一行二十字二十行ヲ以テ壹枚トシ十一行

以上ハ壹枚十行以下ハ半枚トス

第二條 商法第八百二十五條ノ登記ニ付テハ金三圓ヲ納ムヘシ

商法第八百二十九條ニ定メタル變更ノ附記ニ付テハ金拾五錢ヲ納ムヘシ

第三條 手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

●登記法取扱規則

(法律第七十八號)

第一章 建物船舶ノ登記

第一節 登記簿

第一條 登記簿ハ地所建物船舶ヲ分チ別冊ト爲スヘシ

登記簿ハ前項ノ外町村毎ニ冊ヲ分テ之ヲ設クヘシ但事件寡少ナル町村ニ付テハ數町村

ヲ合セ一冊ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各町村毎ニ見出ヲ付ス可シ

市及ヒ事件夥多ナル町村ニ付テハ大字其他從前ノ區畫ニ從ヒ分冊スルコトヲ得

第二條 登記簿ハ一用紙毎ニ登記物件ノ番號ヲ付シ且其一用紙ヲ表題登記簿用紙中物件ノ欄

下之 及ヒ甲乙丙ノ三區ニ分チ仍ホ其表題及ヒ各區ヲ數欄ニ分ツモノトス

其表題ハ登記法第七條ノ第一號第二號第三號第四號及ヒ商法第八百二十六條ノ第一號

第二號第三號第四號ヲ掲ケタル項目ヲ登記スルノ所トス

其甲區ハ賣買讓與等所有權ノ移轉及ヒ從來保有セル所有權ヲ登記スルノ所トス

其乙區ハ質入書入及ヒ商法第八百五十二條ノ船舶ニ對スル債權ヲ登記スルノ所トス

其丙區ハ登記法第九條ニ記載シタル諸件ヲ記入スルノ所トス

船舶登記簿ハ第一號書式ニ準シ地所建物ノ登記簿ハ從前ノ例ニ依ル可シ

第三條 登記簿ハ登記所ノ請求ニ因リ地方裁判所長之ヲ渡スモノトス

登記所ハ凡一年間用フヘキ登記簿ノ冊數及ヒ各冊ノ枚數ヲ見積リ豫メ前項ノ請求ヲ爲

スヘシ

第四條 登記簿ハ地方裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裡面ニ記載シテ之ニ職氏名ヲ署シ職印ヲ捺シ且ツ每葉ニ契印ス可シ

第五條 町村ノ分合アリタル場合ニ於テハ登記所ハ其旨ヲ地方裁判所長ニ申告シ更ニ分合セシ町村ニ對スル登記簿ノ下付ヲ受ク可シ

前項ノ場合ニ於テ舊登記簿其他之ニ屬スル帳簿ハ現狀ノ儘之ヲ保存シ已ニ登記シアル事件ノ變更取消ハ其登記簿ニ登記スヘシ

第二節 登記手續

第六條 登記ヲ請フ者ハ第二號書式ニ準シ登記ノ件目等ヲ記載シ實印ヲ押シタル名刺ヲ登記所ニ差出ス可シ但商法ニ依リ船舶ノ登記ヲ受クルモノハ明治二十三年省令第八號

第五條ニ從ヒ陳述書ヲ差出スヘシ

登記簿ノ謄本若クハ抜書又ハ登記簿ノ閱覽ヲ請フ者亦同シ

第七條 後見人ヨリ登記ヲ請フトキハ後見人タルノ證書ヲ登記所ニ差出ス可シ、代人ヲ以テ登記ヲ請フトキハ代理ノ委任狀ヲ付與シ之ヲ登記所ニ差出サシム可シ

第八條 登記所ニ於テハ受付帳ヲ製シ置キ登記ノ出願若クハ罰求等ノ順序ニ從ヒ之ニ其受付事件ヲ記載シ番號ヲ付シ第三號書式ニ準シ書類ノ受取證ヲ下付ス可シ

第九條 登記官ハ受付番號ノ順次ニ從ヒ願人ヲ取調ヘ證書類ヲ審査シ登記ノ手續ヲ爲ス可シ

第十條 登記簿ニ未ダ登記セサル地所建物船舶ニ付キ初テ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ先

登記簿表題ノ部ニ其物件ヲ記載シ相當區ニ登記ノ手續ヲ爲ス可シ

第十一條 乙區ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ未ダ物件及所有者ノ登記アラサルトキハ前條ノ手續ヲ爲シタル上甲區中登記事由ノ欄内ニ書入若クハ質入ノ登記出願ニ付記載セシ旨ヲ記シ乙區中ニ出願事件ノ登記ヲ爲ス可シ

丙區ノ記入ヲ爲ス場合ニ於テ未ダ所有者ノ登記アラサルトキハ前條及ヒ本條前項ノ準シ物件及ヒ所有者ノ氏名ヲ記載シ丙區中ニ命令事件ノ登記ヲ爲スヘシ

第十二條 登記物件ノ番號ハ初テ其物件ヲ記載スル毎ニ出願若クハ請求ノ順序ニ從ヒ之ヲ付スルモノトス但其番號ハ町村毎ニ之ヲ區別シ仍ホ地所建物船舶ヲ區別シテ之ヲ付ス可シ

同時ニ登記ヲ求メ且ツ同一ノ所有者ニ屬スル同種類ノ物件ハ同町村内ニ在リテ且合録ノ爲メ混雜ヲ生スルノ憂ナキニ於テハ之ヲ同番號中ニ記載ス可シ若シ其ノ物件多數ニシテ同番號中ニ記載スル能ハサルトキハ所有者ノ意見ヲ聽キ便宜分割シテ之ヲ次ノ番號中ニ記載スルコトヲ得

第十三條 一番號中ニ登記セシ數物件ヲ分テ又ハ一物件ヲ割テ賣買讓與スルトキハ表題部中取消ノ欄内ニ其要領及ヒ第何號ニ移シタルコトヲ記載シ分割シタル物件ハ未ダ登記ヲ爲サハル用紙賦ニ記シテ新番號ヲ付シ且第何號ヨリ移シタルコトヲ付記ス可シ其他ノ手續ハ通常ノ場合ニ同シ

前項ノ場合ニ於テ舊番號中分割セラレタル物件ハ之ヲ未抹ス可シ若シ一物件ヲ割キタ

ルトキハ更ニ殘餘ノ現狀ヲ記載ス可シ  
敷番號ニ登記セシ物件ヲ合併シテ賣買讓與スルトキハ各番號中甲區登記事由ノ欄内ニ  
其旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十四條 一番號中ノ物件ヲ分割シテ質入書入若クハ差押等ト爲ストキハ乙區若クハ丙  
區ノ登記事由欄内ニ何々ノ物件ヲ質入書入若クハ差押等ト爲シタルコトヲ明記シテ登  
記ヲ爲ス可シ

敷番號ニ屬スル物件ヲ合併シテ質入書入ト爲ストキハ各番號中乙區登記事由ノ欄内ニ  
其旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十五條 登記法第二十二條ノ場合ニ於テハ乙區登記事由欄内ニ第二債主ニ於テ其質入  
又ハ書入中ニ係ルコトヲ了知セル旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十六條 物件ヲ分割シテ賣買讓與スル爲メ第十一條ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ新ニ番號  
ヲ付スヘキ物件既ニ舊番號ノ物件ト共ニ書入質入ト爲リタルモノナルトキハ新番號ノ  
表題部中物件ヲ記載シタル側ニ第何號舊番號ノ物件ト帶連シテ書入若クハ質入トナリ  
タルモノナルコトヲ付記スヘシ

其書入若クハ質入ヲ取消シタル場合ニ於テハ前項ノ付記ヲ朱抹ス可シ  
第十七條 質入ノ權ヲ賣買讓與シ相續ノ場又ハ他人ニ於テ負債者ノ負債ヲ辨濟シテ  
債主ノ權ニ代ル等權利ノ他人ニ移リタル場合ニ於テ登記ヲ出願シタルトキハ之ヲ乙區  
變更ノ欄内ニ登記スヘシ

質入書入ノ債主負債主ト協議ノ上質入書入トナシタル物件ヲ引取リ所有者ト爲リタル  
場合ニ於テハ乙區取消ノ欄内及ヒ甲區登記事由ノ欄内其要旨ヲ登記ス可シ

第十八條 質入ヲ變更シテ書入ヲ爲シ書入ヲ變更シテ質入ト爲シ又ハ利息期限等ヲ變更  
シタル場合ニ於テハ之ヲ乙區變更ノ欄内ニ登記スヘシ

商法第八百五十四條ノ裏會讓渡モ亦タ乙區變更ノ欄内ニ登記スヘシ

第十九條 登記法第十五條及ヒ第四十條ノ場合ニ於テ登記ヲ爲ス可キ土地若シ華族世  
襲財産ナルトキハ請求者ノ申出ニ依リ世襲財産タル旨ヲ表題部中物件ノ側ニ記入ス可  
シ

第二十條 登記法第四十條ノ場合ニ於テハ甲區登記事由欄内ニ從來保有スル所有權ヲ明  
確ナラシメシカ爲メ登記出願ニ付何々ノ證明書類ニ依リ登記スル旨ヲ記載シ價格及權  
利移付者ノ欄ヲ朱抹ス可シ

第二十一條 従前ノ公證簿ニ登記セシ書入質入ノ取消ヲ願出タルトキハ手数料ヲ徵收セ  
ス舊手續ニ依リ之ヲ終結ス可シ若シ變更ノ登記ヲ願出テタルトキハ第十一條ノ例ニ準  
シ所有者及ヒ原契約ヲ登記シタル上乙區變更ノ欄内ニ其登記ヲ爲ス可シ此場合ニ於テ  
ハ變更ノ手数料ヲ徵收ス可キモノトス

第二十二條 登記ヲ受タル物件ノ全部若クハ一部毀壞燒失流亡等ニ依リテ消滅シタルト  
キハ其物件ノ所有者ヨリ登記ヲ爲シタル登記所ニ書面ヲ以テ其旨ヲ届出ツ可シ但其物  
件質入書入又ハ差押等ニ係ルトキハ債主又ハ差押等ノ權利者ノ連印ヲ要ス